

---

# ワンピース～大海賊時代の終焉～

浦波

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ワンピース〜大海賊時代の終焉〜

### 【Nコード】

N5317W

### 【作者名】

浦波

### 【あらすじ】

大海賊時代を全否定する北郷一刀。

彼はワンピースの世界を完全に崩壊させる。

本シリーズを知らない方は一番最初の『恋姫？むしろ三國志』をご覧になってからの方が理解しやすいです。

## 1 まさかの世界（前書き）

この小説は原作メンバーがかなり死ぬ予定です。

原作完全崩壊させます。

この主人公は基本的に自分さえ無事なら何でもします。

恋愛要素は欠片もありません。

かなりのご都合主義です。

以上の内、何か一つでも気に食わない方は見ない事を勧めます。

## 1 まさかの世界

気付いたらまた知らない場所にいた。

またか…。

俺の名前は北郷一刀。

ちなみに違う世界に来たのはこれで四度目。

いい加減こういうのも慣れた。

一度目は現代から恋姫の世界、二度目は明治時代、三度目は戦国時代、そして今回は…どこだ？

目の前には沖縄みたいな綺麗な大海原が一面広がっている。

島？ それとも大陸の沿岸部？

とりあえず情報収集のために散策だ。

人を見つけて質問すれば良い。

…人がいるならな。

とりあえず周囲を見渡す限りどうやらここは島らしい。

面積はそんなに無いのかしばらく歩くと対岸に出た。

しかし、問題なのはまだ人に出会ってない事だ。

舗装はされていないが砂利道みたいな道路らしきものを見つけたことから、多分無人島では無い筈だ。

もしかしたら以前はいたがもう誰もいないというパターンもあるが、それは考えたくない。

とりあえずは道なりに進めば分かるだろう。

暇だし、能力の確認でもするか…。

俺にはある特殊な能力がある。

それは神だか悪魔だか分からないが何者かが勝手に俺に与えた。

能力は『コピー』

簡単に言えば何でも見たり、触ったりすればそっくりそのままコピー出来る。

個数やサイズ制限は無く、どんなにデカイ物や複雑な物でも無限にコピー出来る。

唯一の制限は流石に生物はコピー出来ないことだ。

俺はこの能力を使って様々な世界で天下を取ってきた。

前の世界ではこの能力にプラスして長い長い寿命も与えられたが、今回もそうなのは分からない。

何故なら前回と違って手紙が無い。

だから自分で能力の確認をしなくてはならない。

もしも能力を失ってなら終わりだな…。

何せ、能力が無かったら俺はたんなる一般人に過ぎない。

多分、この世界もマンガかアニメの世界何だろう。(流石に歴史系はもう無いだろうし)

そんな世界ではチートが無いとモブになるか死ぬしかない。

モブになるのも悪くは無いが、やはりチートが無いと生きづらいかな。

能力の確認の結果、どうやらコピー能力に変化は無いらしい。

一先ず安心だ。

これで生存確率が上がった。

他にも試してみたら、前の世界のように前の世界で触った本や資料など紙媒体の物をコピー出来るし頭の中に入っていた。

しかし、やはり現物のコピーは出来なかった。  
やはり今回も資料のみか……。

様々な知識があるのは良いが、この世界でそれが生かせるのかが分からないのでまだ微妙だ。

何せ一向にまだ人に出会ってない。

マジで無人島だったりして………。

しばらく道なりに進むと小さいながら街みたいなのを見つけた。  
良かった無人島じゃない……。

ちゃんと人が歩いていることから先ずは安心。

しかし、ここで別の不安が出てきた。

言葉は通じるかだ。

もしも知らない言語だったらどうしよう？

そうだったらボディランゲージで頑張るしかない。

とりあえず話しかける以外の選択肢は無い。

情報を得るために遅かれ早かれ話す事になるのだからな。

たまたま近くを通りかかった青年に話しかけた。

「すみません」

「うん？ 何ですか？」

俺の問いかけに日本語で答えてくれた。

良かった言葉が通じた。

もしかしてここは日本なのか？

「変なこと聞きますけど、ここってどこですか？」

俺の質問に青年は眉をしかめる。

「いやぁ……実は乗っていた船が事故で沈んで漂流してしまいました

てね。

気付いたらこの島にいたのでここがどこだか分からないんですよ」「こんなバカみたいな説明で大丈夫かな？ と不安だったが青年は俺の説明を聞いて

「そうでしたか、大変でしたね」  
信じたらしい。

どうやら現実世界では無いようだ。

現実世界でこんな言い訳は通用しない筈だからな。

「ここは南の海、サウスブルー 島ですよ」

……………南の海？

…もしかして……………ワンピースの世界？

まじかよ……………。

この世界って超人揃いの理不尽世界だぜ…。

結構簡単に人が死ぬし、主人公勢以外にはヤバイ世界だ。

「…あおう、どうかしましたか？」

俺が呆然としていたら青年が話しかけて来た。

まあ、いきなり話しかけてきた人間が呆然として黙ったら聞いてくるよな。

「い、いえいえ。」

随分遠くまで流されたものだなあと驚いただけですよ。

どうもありがとございました」

とりあえず情報を整理するために青年から離れた。

他の奴にも聞いた結果、ここはワンピースの世界で間違い無いらしい。

南の海の他に東の海、北の海、西の海、更には偉大なる航路グランドラインまで存

在するらしいからな、残念ながら確定だ。

年代を知るために一番分かりやすい『ゴルドロジャーの処刑』について尋ねたら、つい先日処刑されたばかりらしい。

どうやら原作の20年くらい昔らしい。

現在の俺の年齢は見た目から多分17、8歳。

原作の始まりには40ぐらいか。

まあ、別に原作に興味無いから良いか。

大体、海賊の癖にあんな正義の味方みたいなのがムカつく。

海賊は略奪するしか収入を得られないのに…。

あの作品では海賊を美化している所があったが、実際の海賊は所詮は賊でしかない。

99%は有害だ。

極々、少数だが義賊みたいなことをする奴もいるが、そんなのイリオモテヤマネコを探すより遥かに難しい。

だから俺が安心して暮らせるようにするには大海賊時代を終わらせるしかない。

なあに現実世界でも大海賊時代はあったが軍の力が強大になったら自然に終わりを迎えた。

いくらこの世界が滅茶苦茶でも数の暴力や、技術レベルの差には勝てない。

遅かれ早かれいずれは終わりを迎えるのだ。

それが多少早まっても問題無い。

何せ、大多数の人間にとっても大海賊時代はすぐに終わって欲しい筈だ。

簡単に支持を得られるだろう。



## 2 商会発足

先ずは何時も通りに北郷商会の発足だ。

ていうかこれ以外の方法が無い。

大体、ワンピースの二次小説では海賊になるか海軍に入るかだが、俺はどちらもしない。

だって海賊になったら正規に港には入れないし、何時も海軍に怯えながら暮らしていくしかない。

一方、海軍に入れば何かに怯える必要も無いし、簡単に戦力も手に入れやすいが、所詮世界政府（天竜人）の奴隷。

それにあそこでは並外れた実力が無いと出世出来ないから俺には無理だ。

だから個人の力で好き勝手に動くには商会などの企業を起こすしかない。

幸いこの島はそんなに大きくなく、海軍の支部も無いから自由に動ける。

早速俺は街を見て回った。

この世界の基本的な技術レベルは精々が産業革命以前。

グランドラインにはとんでもない技術レベルを持った島もあるが、ここ南の海では17、8世紀レベルでしかない。

この島に売っている商品もそのレベルだ。

小さな島の癖にそこそこの品物が揃っていて肉、野菜、魚、米などの食料品から衣服、武器などなど色々ある。

にしても西洋チックな癖に何故か米や醤油、着物など日本的なもの

もある。

これがワンピースワールドか…。

大体の商品を見た後にコピーした金で市から販売店舗の出店許可を貰い、北郷商會をオープンさせた。

初めは俺と何人かのアルバイトを雇っての露店商でしか無かったが、そこらの店で売ってる商品の3、4割引は当たり前前、時には半額の日さえあった。

オマケに品揃えは豊富で在庫は全く尽きなかった。

当然、客は俺の店に来るようになる。

そのあまりの客の多さに直ぐに露店では限界に達し、街の一等地に巨大な店舗を構えた。

総合ショッピングセンターとして新たに開業した北郷商會は更に品揃えを豊富にして、この島で揃えられる全てを網羅した。

勿論、他店も負けじと様々な客の獲得戦略を打ち出すが、やはり原価の問題からか北郷商會のようなとんでもない値引きや豊富な在庫を持ってないから勝てる訳が無い。

そして俺はそういった倒産寸前の店に買収の話を持ちかけた。

店主は最初こそ拒否するが、日に日に店の経営は悪化の一途を辿ったため、最早これまでと断腸の思いで買収を飲んだ。

北郷商會加盟店として新たに生まれ変わった店舗にはそのまま店主が残留して俺の指示通りに経営したため、赤字は直ぐに無くなり黒字に変わった。

他店も俺の買収話に段々と屈伏していった。

しかし、中には強硬に買収に反対する店もあつたため、ヤクザを雇って金と暴力で屈伏させた。それでも屈伏しない店はそのまま潰れさせて新たに店を建てた。こうしてそんなに大きくない街は北郷商會に支配されていったのだ。

よし、とりあえずは拠点としてこの島は制圧した。

市長は賄賂を掴ませたから既に俺の支配下にある。

いくらマンガの世界と言えど人間の欲望は変えられない。結構簡単に陥落したしな。

この島の行政を牛耳ったからとりあえずは改造を行う。

俺の大事な拠点となるんだ。

それなりの島に成長させなくてはな。

まずは公共事業としてロクに舗装されていない道をレンガや石畳で舗装して雨でも歩きやすくする。

そしてメインストリートや道路を拡張して流通をしやすくすり。

これで馬車も軽々通行出来るようになった。

そして上下水道の完備だ。

今までは水道は井戸ぐらいしか無かつたし、それも開放式の井戸だからゴミや伝染病が入る可能性があつた。

ポンプ式の井戸に変え、下水道もレンガで固めてきちんと整備する。

これらの公共事業で雇用はかなり増える。  
北郷商会の出店で増えていた雇用が更に増えた事で、一気に失業者問題は解決した。  
他の島からも「仕事が腐るほどある」というのを聞き付けて次々島の人口も増えていく。  
これで商会の売上はまた上がる。  
素晴らしいスパイラルだ。

### 3 自衛隊創設

確固たる地位を形成したから次は私兵隊の結成だ。

この世界では海に出れば直ぐに海賊に遭遇するぐらい危険だ。もしも海賊達がこの島の発展を聞き、襲撃をかけてくるという可能性もある。

一々海軍に頼るのは面倒だし、常に警備してくれる訳でも無いので自分達で私兵隊を作って警備するしかない。

暇な奴等や元海軍軍人などを大量に雇い、『自衛隊』を創設した。求人案内で高給や手厚い福利厚生を宣伝しまくったからかなりの人数が揃った。

現在は商品である刀や銃を全員に支給して、元軍人の奴等に訓練をさせている。

ちなみに、名前を自衛隊にしたのはあくまで軍ではないと伝えるためだ。

現代日本のように軍であることは否定する。

実質は完全に軍だが。

軍服を着て、それぞれ階級で呼ばれて、厳しい規律があり、武器を保有する。

見た目は完全に軍だ。

ちなみに階級は自衛隊のように大佐なら一佐とかにした。

次に、護衛艦隊を創設するために島にあった造船所を買収した。

そして造船設備を増強する。

島の大きさの割にはそれなりにデカイ施設があつたが、艦隊の建設には小さい。

先ずはこの時代相応な艦の建設からだ。

二本や三本マストの戦列艦や、積載能力を上げた輸送船を建造している。

この世界にはデカイ大陸は無く、島が連なる群島世界だから貿易には船が欠かせない。

だから最初は建造能力を上げるために普通の船を作らせる。

次に島の要塞化だ。

この島は重要拠点になるからジブラルタル要塞のように海からの侵略に強くする。

沿岸部に城壁や大砲を建設し、侵攻を防ぐ。

ジブラルタルと違って完全に島だから防御力は高い。

ジブラルタル要塞は陸からの侵攻には弱いからな。

次に、島の技術者や科学者を集めて新兵器の開発だ。

この世界では何故か砲弾の榴弾化には成功している。

その割には未だに銃はフロントロック式のライフリングさえ刻んでない。

そこらへんはよく分からないが、とりあえずこの世界の科学力はそれなりに進んでいる事が分かる。

先ずは銃にライフリングを刻んで、銃弾もただの丸い鉛からミニエー弾に変える。

そして紙薬莢を作ろうとしたが、この世界の製鉄技術はかなり高いから一気に金属薬莢にしよう。

金属薬莢が出来ればボルトアクション式ライフルの完成だ。

それと大砲にもライフルリングを削り、砲弾を現代式に変えれば射程距離や命中率はハネ上がる。

そのためには、まずは産業革命のように蒸気機関を作らなくてはならない。

幸いにも作り方やノウハウは前の世界でコピーしているから困ることとは無い。

この世界の技術レベルはチートだから簡単に作れる筈だ。

というか、蒸気機関はあるのか分からないが既に外輪式のスクリュ  
ーならあったよな。

Mr. 2、ボンクレーの船には確か外輪がついていた筈だ。

その割りには海軍の軍艦には無かったな。

少なくとも支部の海軍船には無い。

何で？

外輪があれば風のある無しに進めるし、速力が上がるのに。

ロボットが作れるなら蒸気機関ぐらい簡単に作れる。

そこんところがよく分かんないだよなあ、この世界。

しかしこの世界には原油はあるのかな？

無きや産業革命は無理だ。

流石に蒸気機関では限界があるし。

……まあ良いか。

この世界はデタラメだ。

グランドラインにでも行けば原油ぐらいあるだろう。

#### 4 商会発展（前書き）

次回あたり初戦闘します。



## 4 商会発展

この島に漂流して1年。

この島を拠点として近くの島々と貿易して利益を上げ、更に商会は発展した。

しかし、最早この島から動かずにこれ以上の発展は不可能になったので、海軍の支部がある人口が多い島に進出することにした。

僅か1年しか経ってないのに蒸気機関が完成した。

やっぱこの世界の技術はチートだ。

いくら詳細な設計図やノウハウの書かれた本があるからって、僅か1年で出来るとは思いましなかった。

早くても3年はかかると思っていたのに…。

蒸気機関の開発によってライフリングを刻むのは格段に早くなったし、その他の軍需品や民政品の生産効率も飛躍的に上昇した。

島外進出を決めた要因の一つが蒸気機関の開発だ。

それまでは工場制手工業で商品を生産していたが、蒸気機関の導入によって人間を使う必要性が低下した。

そして大量に生産される商品売るための市場が必要になったからだ。

しかし、いくら早く蒸気機関が出来てもまだ実用化出来ない物も多い。

艦船の動力である外輪やスクリューなどは出来てない。

正確に言えば外輪は一応は完成したのだが、まだまだ耐久性に乏しく、調子が悪い事が多々あったから実用化には至っていない。

それに金属薬莢もまだ実用化には至っていないかった。

蒸気機関が出来たし、製鉄技術も更に上がったのだが、やはり同一の部品を大量生産するというのは出来ていない。

俺のコピー能力を使えば簡単なのだが、全部が全部俺の能力を使っているとはいざというときに心許ない。

ボルトアクション式ライフルは少数の生産なら出来たが、全ての部隊に卸すような数が無いからまだ無理だ。

ちなみに俺の親衛隊は装備済み。

とりあえず原状は兵士や下士官にはライフリングを刻んで、今まで通りの丸い弾丸を使うゲベル銃を支給した。

それでも今までの銃に比べれば射程距離も命中率もかなり上がっているからそこそこ使える筈だ。

将校達には金属薬莢の代用品として開発した紙薬莢を使ったミニエー銃を配給した。

これならゲベル銃に比べて装弾スピードもかなり早いし、命中率や射程距離も上だ。

ミニエー銃もまだ少数生産しか出来ていないので将校にしか配れなかった。

ちなみに、現在使ってる火薬は黒色火薬だが無煙火薬の開発も進めている。

無煙火薬の主成分であるニトロセルロースの開発を出来るのか心配していたが、この世界の化学力なら可能らしい。

何で開発しないんだ？

まあ、何故かこの世界の黒色火薬は燃やしてもあんまり煙が出ないからな。

だから必要性を感じなかったのかな？

艦船の開発はまだ外輪が出来ていないから微妙だが、少なくとも戦列艦の艦隊は完成した。

武装は積まず、その分荷物を多数積めるようにした輸送船や、それを護衛するための一等〜三等戦列艦。

沿岸警備のための四等〜六等戦列艦など様々完成した。

大体この世界では武装した輸送船が一隻で貿易に出掛けるが、それでは積める荷物が少ないし、海賊に襲われたら面倒だから輸送船団を形成して大量に運ぶ。

ていうか、護衛艦隊を作ったのは船団護衛のためだからな。

海軍みたいに積極的に戦うような艦隊ではなく、あくまで護衛のための自衛隊だ。

まあ、現実の自衛隊と違って専守防衛ではなく時には先制攻撃もするがな。

艦船の装備レベルも上がってきた。

大砲にライフリングを削ったり、砲弾を丸い形から現代のような形に変えた事で射程距離や命中率は上昇。

まだ実用化には至っていないが、陸上用の砲塔は出来たから艦船用の砲塔も出来る筈だ。

でもこの世界では既に榴弾は完成してるから木製の船なら簡単に沈む筈だ。

何で鉄鋼船を作らないんだろう？

砲塔は既に海軍の艦艇には備えられているが、装甲船はあっても鉄鋼船は無い。

海軍の技術レベルなら鉄鋼船を作っても不思議は無いのに……。ここが不思議な所だ。

## 5 初会戦

島外進出を決定し、南の海でも有数の人口が多い島への商会進出のために交渉を重ね、多額の献金などをした結果、ようやく島への進出を認められた。

現在、俺は進出を認めてくれたお礼と視察のために島に向かう船団の旗艦に乗船している。

船団には献上品や賄賂のための金貨、金などなど様々な物資を大量に積んだ輸送船と、その輸送船を護衛するように3隻の戦列艦が囲みながら航行していた。

航海は順調で、特に嵐に巻き込まれるといった事態も無く、このまま無事に島に到着すると思われていたが、ここに予想外のハプニングが発生した。

始まりは見張りからの報告だった。

「前方から船が接近!!」

旗にはドクロのマークがあります!!

海賊船です!!」

海賊船発見の報が鳴った瞬間

「全員、戦闘配置に就け!!」

護衛艦隊に戦闘準備命令が下った。

俺は指揮をとるために艦橋に入り報告を聞いた。

「旗のマークから見て、手配書にある500万ベリーの賞金首の海賊です」

集めた情報を纏めて、幕僚が俺に結果を報告した。

「…500万ベリか…。  
南の海の賞金アベレージから見るとそこそこ高いな」  
グランドラインから見れば雑魚でしかない賞金首だが、ここサウス  
ブルーではそれなりに高い賞金首だ。  
つまり強い。

しかし、この船団のレベルは自衛隊の中でもトップクラスだ。  
何せ大事な献上品や金貨、更には商会総帥である俺がいるんだ。  
最新装備で固めてる親衛隊や上級将校達がいるこの船団に喧嘩を売  
るとは……。

馬鹿としか言えない。

まあ、見た目は輸送船団にしか見えないからな。  
海軍の船がないから楽勝だと思っただろう。

ちなみに自衛隊の軍旗は旭日旗。

まだ全然有名じゃないから仕方ないか。

「海賊船の航路は？」

「一応聞いとく、もしこちらに来ないなら無理に追う必要性は無いか  
らな。」

「真つ直ぐこちらに向かっています。」

こちらを襲撃する可能性が非常に高いです」

幕僚の答えに「フム」と言っただ少考えるように見せ、宣言する。

「……明確な意思を持ち、こちらに海賊船が接近している。」

これは明らかに襲撃をかける気だろう。

よって、自衛のために先制攻撃を仕掛ける。

攻撃開始！」

総司令官である俺の命令を聞いて艦橋にいる全員が「はっ！……！」  
と敬礼した後、攻撃を開始した。

## 海賊サイド

何時も通り海を進んでいたら突如船団を発見した。全部で4隻のそれなりにデカイ船の船団だ。

最初は海軍の船団かと警戒したが、海軍のマークはつけてないし、見たことの無い旗を掲げていた。

何の船団だ？

と訝しげに双眼鏡にて船団を見ていた時、ある事を思い出した。最近、新興の商会が現れてとんでもない利益を上げて勢力を発展させているらしい。

そしてその商会が所有している輸送船にはとんでもない量の物資を積んでいるという事も。

もしかしたらその商会の船団かも知れない。

それならチャンスだ。

護衛艦もいるらしいが、所詮は商船。

こっちは戦う事が専門の海賊船だ。

それに自分達は数々の船団や街を襲い、常に勝利してきた。だから今回も勝利する筈だ。

そう思った海賊船の船長は

「あの船団を襲うぞ！！」

全員、戦闘用くゝ意！！」

部下達に戦う用意をさせる。

部下達もデカイ船団に襲撃をかける事に興奮している。

何せ久々のデカイ獲物だ。

興奮するなと言う方が無理だ。

輸送船を護るために3隻も護衛がいるのが多少心配だが、所詮は商社の船。

大した強さは無いだろうと高をくくった。

彼がこう思ったのは無理も無い。

何せこの世界で海賊に勝てるのは同じ海賊か海軍しかない。  
見たところ海軍のマークは無いし、海賊の証であるドクロマークも  
掲げてないのだ。  
単なる商船だと油断してしまうのは仕方がなかった。

戦闘命令を出し、輸送船団に向かって一直線に海賊船は向かった。  
海賊達は誰もが自分達の勝利を疑わなかった。

それが間違いだったと気付かされたのは唐突だった。  
後少して此方の大砲の射程圏内に入ると思われた時に、それは起き  
た。

いきなり獲物が発砲してきた。  
それを見た海賊達は笑った。

「バカが！！ そんな遠くから撃ったって当たるかよ！？」  
他の船員も笑う。

どうせ恐怖にかられた商船がデタラメに撃ってきたとしか思わな  
かった。

この時までには。

展開した商船が一齐に大砲を放った事で、大音響が鳴り響いた。  
そして少し経った後に砲弾が着弾した。

残念ながら命中弾は無かった。

しかし、海賊達は啞然とした。

何故なら着弾点が自分達より後方に落ちたからだ。

つまり、相手は自分達を有効射程距離に十分捉えている事が分かる。  
「……あり得ない……」

誰が言ったかは分からないが、海賊船に乗っていた人間は全員が頷  
いた。

例え世界の海の大部分を支配している海軍だろうが、この距離では  
砲弾が届く訳がないのだ。





しばらく砲撃され、残ったマストにも着弾してまたマストが折れた。とうとうマストが無くなり、最早航行さえ不可能になった事により「降伏する!!!」

白旗を振れ!!! 最早これまでだ!!!」

船長の言葉に船員達は何も言わずに白い布や、自分達が来ていたシヤツを棒にくくりつけ一生懸命振った。

船員達も最早これまでと既に諦めていたからだ。

船員達の一生懸命振った白旗が見えたのか、敵からの砲撃が止み、敵船がこちらに近付いてきた。

終わった。

自分達は海軍に引き渡され監獄に入るのだろう。

海賊船の乗組員はそう思い、武装を解除して敵商船? の到着を待ったのだった。

## 北郷サイド

海戦は圧勝に終わった。

まあ当たり前だけどな。

むしろ苦戦したら全員降格が更迭してた。

先制攻撃は惜しくも外れたが、それ以降の砲撃は厳しい訓練と一斉射のせいかそこそこ命中してた。

こちらの大砲は全部ライフリングを削ってたし、砲弾も改良してたから従来通りの大砲しか持ってない敵に勝ったのは当たり前だった。この世界の海戦はある程度砲撃した後、敵船に乗り込んで制圧するのがオーソドックスだからな。

しかし、自衛隊では敵船に乗り込むこと無く敵を沈めるか、降伏させるように教えてるから、白兵戦より兵器の開発と運営能力の向上

を図った。  
個人の能力を重視するこの世界で軍らしい動きをすれば勝って当然だ。

しばらく砲撃していたら

「総帥、敵船は白旗を掲げて降伏しています。  
いかがなさいますか？」

幕僚が聞いてきた。

降伏したか…。

まあ、それが一番賢い選択か。  
普通ならな。

「降伏を受理する。」

砲撃止め。敵船に乗り込むぞ」

俺の命令に

「はっ！ 砲撃止め！！」

と命令して砲撃を中止させ、敵船に近付かせた。

敵船に近付き、板を敵船と自船の間に渡して自衛隊員が次々と敵船に乗り込む。

ちなみに俺は行かない。

指示はここから出せるし、万が一があつたらヤダからな。

「宝や宝石など、金目の物は全て接收しろ。」

尚、海図や航海日誌など情報になる物も全て接收せよ。

それと、見たことも無い物も全てしろ。

良いか？ 全てだ。」

とりあえず先ずは金目の物や情報収集だ。

もしかしたら何らかの宝でも持つてるかも知れないし、この周辺の詳しい海図や情報もあるかも知れない。

それと、無いとは思うが悪魔の実やログポース、エターナルポース

もあるか調べる。

ちなみに、もし悪魔の実があつたら即刻焼却処分だ。  
あんな物があるから文明が進まない。

それに、自分で食べたりしたらもう泳げなくなる。

群島世界であるこの世界で泳げないのは痛すぎる。

配下に食わせる事も考えたが、クーデターを起こされる危険性が高いから無理だ。

だから悪魔の実や能力者は速攻処分する。

奴等は存在してはいけないのだ。

しばらく敵船を搜索した結果、金は500万ベリー。

宝や宝石、貴金属の合計は2000万ベリー。

海図や航海日誌も無事見つかった。

しかし、やはり悪魔の実などは無かった。

まあ、流石にグランドライン以外では悪魔の実なんか滅多に無いし、能力者も極々希だからな。

「総帥、海賊達の身柄はいかが致しますか？」

「フム…。」

確か、船長には賞金がかけてられてたよな？」

「はっ。」

海軍から500万ベリーの賞金をかけられていました」

「…それはデッド・オア・アライブ（生死は問わない）だよな？」

「はっ。」

その通りであります」

「ならば海賊達は船の中央に並ばせ、全員射殺しろ。

尚、船長のみ射殺後、首を切り落とし、その首を塩漬けにして保存しろ。

もしかしたら賞金額を下げられるかも知れないが、生かして連れていくよりも安全だ。

その後、海賊船は死体ごと焼け。

… ああ、それと念のために船長は顔が判別出来るように殺せ。  
わざわざ海軍まで首を持って行って誰だか分からないんじゃない意味ないからな」

俺の命令に敬礼して、幕僚は命令を伝えにいった。

大体、何でこの世界は生きて捕まえる事を重視してんだろう？

確かに生かしたまま連れていけば海軍は賞金をそのまま払ってくれるだろうが、運搬の際に逃げられたり、逆転される可能性があるんだから殺して運んだ方が安全で楽だ。

海軍だって逮捕するより皆殺しにしちまえば良いんだよ。

どうせ捕まえてもインペリアルダウンに連れていって終身刑食らわせるぐらいなんだし。

だったら晒し首にでもした方が見せしめになるだろうし。

## 海賊サイド

商船？ に横付けされ、板が渡されると次々兵士達が乗り込んで来た。  
た。

そして、直ぐに俺達全員の武装を解除して縛り上げられた。まあ、当然か。

ここまでは予想通りだった。

てつきり縛り上げた後はそっこの船に拘留されるのだろうと思って  
いたが、予想と違う事が起きた。

身体検査と称して、俺達が身に付けてる装飾品や持ち金は全て没収  
され、更には船内中を搜索して金目の物は勿論、海図や航海日誌ま  
で持っていきやがった。

その行動を見て、コイツらもしかして同業者（海賊）か？ と思っ  
てしまった程だ。

更にしばらく搜索していたが、もう奪える物は何も無いと分かったのか、船中搜索していた兵士達は商船？ に引き上げていった。ようやく終わりか…。

もう疲れたから早いとこ牢屋にでも入れて欲しい。と思っていたら、偉そうな奴が現れて

「中央に一行で並べ！」

と言ってきた。

何がしたいんだ？ と思ったが口答えする気力も無いので言うとおりに船の中央に一行に並んだ。

すると突然

「構え！！！」

上官が命令すると兵士達は俺達に銃口を向ける。

「！？、な、何をやる気だ！？」

俺が聞くが、それを一切無視して

「撃て！！！」

パアアアアーン！！

一斉に銃声が鳴り響いた。

「…………ガッ…………」

心臓の辺りを撃たれた俺は倒れた。

薄れゆく意識の中で、辺りを見ると、部下達は全員頭を撃ち抜かれていて即死状態だった。

何故自分だけ頭を撃たない？ と疑問を持ったが、それは上官が説明してくれた。

「よし、コイツは首を切り落とし、首は塩漬けにしる。

そうしないと腐って懸賞金を貰えないからな。」

どうやら自分にかけられた懸賞金を貰うためにワザと顔は狙わなかったらしい。

ふふふふ…。

海賊になったからにはロクな死に方しないとは思っていたが、まさか首を切り落とされて塩漬けにされるとはな…………。

全く、ヒデエ最後だな……。

にしても、こんな非道なことを顔色一つ変える事なく実行するコイツらこそ海賊にふさわしいんじゃないかねえか？

これが大海賊時代の影響かな？

全く……クソツタレな時代になった……もん……だ……ぜ。

## 6 挨拶回り

海賊船を燃やして海に沈めた後は特に問題無く、目的地に辿り着いた。

島に着いた俺は出店許可をくれた市長に挨拶と献上品を渡しにいった。

献上品を余程気に入ってくれたのか、市長は笑顔で出迎えてくれた。街の名士なども紹介してくれた。

市長との会談も上手くいき、そこそこ人脈も広げられた所で、次は塩漬けにした首を持って海軍の支部に行った。

勿論、塩漬けにした首は洗浄して塩を落とし、死に化粧を施して見た目を精一杯良くした。

流石にそのまま渡すのは良い印象を与えないしな。

支部に着き、賞金首を仕留めたとして支部の責任者に会いたいと伝えた。

高々賞金首を捕まえただけでは支部長には普通は会えないが、俺は賞金首と一緒に輸送船に積んでいた一部を寄付すると伝えた事から比較的待たされる事なく会えた。

どうやらこの支部長の大佐はそれなりに金が好きな奴だったらしい。

まあ、こつちとしてもその方がいいが。

スモーカーみたいに何か金に頓着が無さそうな奴だったら面倒くさいし。

「初めまして、北郷商会総帥、北郷一刀と申します」



「これはご丁寧に。」

第76支部ザルドス大佐です。

今回は賞金首捕縛に加え、多額な寄付を誠にありがとうございます  
ザルドス大佐は笑顔で言う。

多分、寄付の内3割くらいを抜いて自分の物にするのだろう。

まあ、1億ベリーも寄付したんだからな。

その3割なら3000千万ベリーだ。確かにデカイ。

「いえいえ、これからこの島にも出店して商売を始めますから。

海軍さんには治安維持活動や海賊狩りを更に頑張っ  
て欲しいですからこれくらいは当たり前ですよ」

実際は大して頼りにしてないがな。

海軍が頼りになるなら自衛隊なんて作ってないし。

「これはありがとうございます。」

市民の方からの協力程嬉しいものではありません」

笑顔で言うザルドス大佐。

嘘つけ、 temeエが一番笑顔になったのは寄付を受け取った時じゃ  
ねえか。

まあ、そういう人間がこの支部長をやっている良かつたがな。

もしも正義感溢れる奴がこの代表だったらやりにくくてかなわ  
ないからな。

「所で、一つ尋ねたい事があるのですが…」

ザルドスがこつちを見ながら言う。

やっぱり自衛隊についてかな？

まあ、あんなにデカイ軍艦や多数の兵士達がいるからな。

むしろ聞かない方が異常だ。

「どうぞ、何なりとお聞きください」

「では……貴方が護衛として随行させてきたあの軍艦3隻は何なの  
でしょうか？」

明らかにあれは軍艦のようでしたが……」

「ああ、あれは私の私兵集団『自衛隊』の船です。何分、今は大海賊時代と呼ばれる程にウヨウヨと海賊が群がってますからね。

大事な商品や人材を護るために創設しました。ですから決して軍ではありません。

あくまで、私の私兵です」

そう言いながら後ろに立たせていた秘書に目配せして、俺とザルドスの目の前にあるテーブルに箱を置かせた。

ザルドスは黙って箱を開けると目を僅かに開かせた。

中身は金だ。

500万ベリーは入っている。

ザルドスは箱から目を上げて俺を見て

「分かりました。

あくまで北郷商会の私兵集団。という事ですね」

そう笑顔で言った。

やっぱり楽で良い。

「今後とも、よろしくお願い致します」

互いに礼をして会談を終えた。

海軍との会談も終わった後は速攻、商店建設に動いた。

予め買収しておいた一等地にデカイ総合ショッピングストアを建設し、オープンした。

オープン記念として全商品半額セールを展開したことから、新しい店なのに沢山客が来てくれた。

予め、この島の有名所に事前にきちんと挨拶に行っていたから特に妨害は受けず、順調に商売をやれた。

こういう所は事前に根回ししとかなないと面倒だから。

商会が発展してればそんなに気にする必要性は無いが、今はまだ小

さい島の販売網を独占している程度しか無いから格下でしかない。開店当初に嫌がらせや妨害工作を受けてたら商売やつてられない。だから面倒でも新参者は古株に媚を売らなくてはならない。

まあ、それももうすぐ必要無くなるだろう。

このままの売上を維持するだけで商会は更に発展するし、第2、第3号店の開店準備も出来ている。

古株達が気付いた時にはこの島の市場は独占出来ているだろう。

一回逆転すれば立場は簡単には変わらない。

世の中そんなもんだ。

特に、この世界じゃ俺がいるんだからな。

原価無しで商売する俺に勝てる訳ねえ。

しばらくはこの島を拠点に動こう。

この島の市場を独占すればかなりの利益になるし、名声や格も上がるから他の島にも出店しても舐められない筈だ。

とりあえずの目標はサウスブルーの市場の独占だ。

サウスブルーを支配したら他の海にも進出する。

グランドライン以外の海賊を殲滅してやる。

## 7 南の海制覇（前書き）

この小説はご都合主義です。

## 7 南の海制覇

この世界に来て2年が経ち、サウスブルーの市場を独占した。

あの島の市場を独占した俺はサウスブルーでも一番デカイ島や、人口が多い島、他にも小さい島などにも商店を出店してサウスブルー中を制圧した。

ちなみに、商店が展開してある島にはその島の規模に準じて自衛隊の基地を建設して駐留させている。

最初は海軍が基地建設を反対していたが、多額の寄付や海賊の捕縛更にはその島の住民達も騒ぎになれば直ぐに来てくれる自衛隊の基地建設を懇願したため、海軍も認めざるを得なかった。

ちなみに、新しく出店をした島にある海軍の支部には全部寄付をしていたが、次からはもつとデカイ所にもする事にした。

支部を経由して海軍本部に10億ベリーの寄付をした。

ちなみに寄付と同時に手紙も海軍本部に送ったから支部が寄付金をちよろまかすのは不可能だ。

これだけの多額の寄付は少ないだろうから海軍本部にも北郷商会の名は知られたらう。

更に、海軍経由で世界政府に50億ベリー、天竜人には100億ベリーもの献金と数々の献上品をした。

これでグランドラインへの進出もやりやすくなるだろうし、届くかどうか分からないが天竜人の耳にも俺の名が伝わったかも知れない。原作や二次小説では天竜人は善悪でしかないように書かれるが(ま

あ実際そうなんだが、アイツ等を味方につければこれ以上の安心は無い。

何せ天竜人は神として扱われている。

だったら味方に率いれた方が良いに決まってる。

アイツ等に後見に立って貰えさえすれば、海軍だってある程度は言うことを聞いてくれる。

やっぱ権力は味方につけないとね。

まあ、そのためには定期的に献金や献上品をしなくてはならない。

普通ならとてもやってられないだろうが、俺は能力を使えば何ら問題無い。

今は少しでも信用を得るために出し惜しみは出来ない。

流石に何年も続ければ天竜人でも名前ぐらいは覚えるだろう。

いずれは忘れられない名前にしてやるがな。

ようやく金属薬莖の大量生産が可能になった。

これで全部隊にポルトアクション式ライフルを支給出来る。

無煙火薬についても完成した事から、連射しても煙で見えなくなるというのは無くなるだろう。

蒸気機関の機能も上がった事により外燃機関が完成し、外輪を取り付けた蒸気船が竣工した。

これで風をある程度無視しても進むようになった。

まあ、まだ帆の役割も大きいがな。

現在はスクリュウの開発中だ。

ちなみに燃料は石炭だ。

無いかと思われたが、ある程度は現実世界に準じているらしい。

これなら原油もあるのだろう。  
只今調査中だ。

蒸気船の完成により艦隊の陣容が変わった。

今までの戦列艦は二戦級扱いとなり、後方に下げられて沿岸警備等にされた。

主力艦艇には蒸気船に変えられ、護衛艦隊にも蒸気船が当てられた。しかし蒸気船にも問題があった。

それは外輪を取り付けた事により、その分スペースを取るので砲門がかなり減らされる事だ。

そのため上級将校達から「攻撃力が激減してしまう」との苦情も出てきた。

しかしその心配は直ぐに払拭された。

何故なら砲塔が完成し、より大口径な大砲を装備出来る事によって以前のような弾幕みたいに大砲を撃つ必要が無くなったからだ。

ちなみに基本的に海賊船に遭遇したら沈めるようにしている。

というか、大抵大口径の榴弾を数発も食らえば木造船は沈むからな。たまに降伏してくる海賊達もいるが、海軍基地が近くなければ殺して死体を海軍基地に持って行く。

その方が安全だからな。

ちなみに蒸気船には防腐剤として木タールを塗っているから船体は真っ黒。

おかげで海軍から「黒船」と呼ばれている。

現在は鉄鋼船の開発も進めている。

やっぱりこの世界は技術レベルがチートなのでそう遠くない内に出来る筈だ。

海上戦力が上がってきたから次は陸上戦力も上げなくては。

この世界は大陸がレッドラインぐらいしか無いから陸上戦力は軽視されがちだが、グランドラインに行けば覇気とか言う訳分かんないモノを使う敵や、魚人という化物までいる。

そういった奴等を普通の人間が仕留めるのなら陸上兵器が必要不可欠だ。

先ずは金属薬莢が出来たんだから手回し式のガトリングガンを開発した。

これだけで普通なら陸上戦で圧倒出来る。

現在開発中なのは迫撃砲や大口径の榴弾砲、機関銃、半自動小銃だ。グランドラインに進出するからにはこういった兵器が必ず必要になる。

医療技術のレベルも上げている。

島によって医療レベルに差があるが、やはりレベル的に見れば低い。グランドラインに行けばとんでもない医療レベルがあるのだろうが、ここサウスブルーでは精々18〜19世紀始め程度。

なので研究者を集めて医療レベルの引き上げだ。

幸いにもこの世界では人の命はかなり軽いから実験台には困らない。尚、この実験台には捕らえた海賊を使うこともある。

サウスブルーは制圧したから次は西の海<sup>ウエストブルー</sup>にでも行くか。

東の海は後回しで良いや。



主人公達もまだ産まれて無いだろうし。

にしても今回は楽だな。

何時も始まりは商会だけど、必ず国に介入して国家運営をしてたからトラブルや悩みが絶えなかったが、この世界では純粋に企業家だから面倒な国家運営なんてしなくて良い。

精々するのは本拠地である小さな島の管理ぐらいだ。

おかげでほとんど行動が制限されない。

まあ、それもグランドラインに行くまでだろうがな。

あの海域は出来れば行きたくないのだが、支配力を高めるためには絶対行かなくてはならない。

そのためにはグランドラインに行くまでに戦力を大幅に引き上げなくては。

ちなみに市場を独占したと言ったが、本当にサウスブルーの全ての市場を独占した訳では無い。

海軍が支配する島やワポル支配下のドラム王国みたいな面倒な国、世界政府監視下の国、世界政府非加盟国等には上陸すらしない。

別に世界制覇をしたい訳では無い。

市場の大多数を支配出来れば良いのだからな。

面倒事は避けなくては。

様々な支配市場が広がり、今までのように俺が逐一コピーして在庫を維持するような体制を変えた。

各島に生産拠点をとして工場や農場等を作りまくった。

これなら一々俺が行く必要は無くなる。  
生産が難しい物は輸送船で送れば良い。  
サウスブルーでは海賊被害は激減したから大量の輸送船団で航行し  
ても大丈夫。

## 8 西の海制覇（前書き）

次回北郷以外の視点が出ます。

## 8 西の海制覇

西の海に進出して2年。  
ウエストブルーの市場も独占した。

何か一気に飛ばしたけどそれは仕方ない。  
だってやることはサウスブルーの時とほとんど同じだからな。

ウエストブルーの人口が多い島の市長なり代表に献金して市場開放をさせ、その島の海軍の支部に挨拶する。

たまに正義感からか賄賂は受け取らない奴もいたけど、寄付という形なら受け取った。

まあ海軍としても多額の寄付は欲しいからな。

それに、世界政府や天竜人への莫大な寄付が知れ渡ってるから北郷商會を無下に扱えない。

天竜人からは特に無いが、世界政府からは何度か感謝状等を貰っている事から北郷商會が世界政府に貢献している証拠になる。

そんな企業を海軍が文句を言える訳は無かった。

おかげでウエストブルーでも商會は動きたい放題だ。

軍艦を何隻も引き連れて黙認されるし、海賊を皆殺しにしても特に何も言われない。

何せ別に法を犯してる訳じゃ無いからな。

むしろ市民からは歓喜の声で迎えられている。

今まで小さな島は海賊に襲われても海軍が来るまでになんまり時間がかかったし、海賊に負ける事もあった。

しかし北郷商會の自衛隊の基地が出来てからは呼び出しや非常事態には直ぐに出動してくれるし、例えその基地の自衛隊が負ける事が

あつても直ぐに別の基地の自衛隊が援軍に向かつて鎮圧する。市民に乱暴する訳でも無いし、災害が起きた時には救助活動や復興にも尽力する。

こんな組織が嫌われる筈が無かった。

むしろ海軍より頼りになると市民は自衛隊に頼っていた。

それについて海軍から「いきすぎていないか？」と言われたが、「こちらとしてはあくまで海軍さんのお手伝いをしているまでです」と返した。

そう言われれば海軍はあんまり強く言えない。

何せ自衛隊の行為は善意でしかない。

本来なら治安維持や災害派遣は海軍がやるべきなのに、数が足りていないのでどうしてもカバーしきれない所が出てしまう。

だから正直言つて自衛隊の行為は海軍が頼りないから仕方ないのだ。それを理解している海軍上層部は北郷商会の行為を黙認している。それどころかたまに海軍の方から自衛隊に協力要請をしていることさえあるのだ。

これらの事から、海軍志望だった若者の中には自衛隊に志願するものも現れていた。

やはり頼りない海軍よりも、市民の味方である自衛隊の方が格好良く見えたからだろう。

ちなみに自衛隊に入るには適正検査を受け、合格した後に各地の基地にて1年の訓練を修了すれば正式に入隊出来る。

幹部になるには自衛隊学校か北郷大学を卒業するしかない。

流石に海軍みたいに功績を上げて兵士が将校になるのは難しい。

ちなみに北郷大学とは俺が建てた私立大学で、次代の人材育成のため

めの学校だ。

授業料などは無料と貧しい市民にも入れるが、代わりに試験がとんでもなく厳しい。

卒業すれば大学院で研究者になるか、優先的に北郷商会に就職出来る。

だから志願倍率がとんでもなく高い。

尚、校舎はデカイ島には最低1校はある。

これで研究機関と人材育成の場が出来た。

グランドライン進出に向けてこれから全ての分野を上げなくてはならないから、大規模な研究機関が必要だった。

それに商会の人材のためにもだ。

基本的に北郷商会はトップがあれこれ命令するトップダウンではなく、現場にある程度の裁量を任せるボトムアップ式だから優秀な人材は多すぎる事は無い。

ていうか通信手段が手紙か電伝虫しか無いのだ。

だからいちいち上にお伺いなんか立ててたら動きが麻痺する。

即断即決が北郷商会や自衛隊の売りだからこうなるのは自然の流れだ。

おかげで仕事の量はそんなに多くない。

優秀で忠実な部下達にほとんど任せてる。

俺は会議の場でどう動くのかを命令するだけだ。

後はたまにデカイパーティーや挨拶の時に行くだけ。

ちなみに、電伝虫では黒電伝虫に盗聴される危険性があるので電

信などの通信手段を開発中だ。

何の暗号化も無しに情報を垂れ流すなんて考えられん。

盗聴防止用の白電伝虫は希少種で数が揃わないからな。

電伝虫は微妙だが生物にカウントされるからコピーで増やせない。

海軍本部に対し、武器販売契約を持ちかけた。

高品質の武器を定期的に大量に格安で販売するという契約だ。

海軍にとっても商会にとっても損は無い。

それに世界政府や天竜人に多額の献金をしている北郷商会の申し出を無下に断るなんて不可能だろう。

もしも悪辣な契約内容だったら何としてでも断るだろうが、契約内容としては悪く無いのだ。

だったら結ぶ以外は考えられない。

北郷商会製の武器の高品質さは知れ渡っている。

ちなみに売るのはあくまでこの世界相応の武器だ。

ゲベール銃などを大々的に販売すると海賊側にも横流しされるだろうからな。

流石にそれは困る。

確実に勝てる戦力を整える迄は売らない。

ようやくスクリュー式推進機の開発に成功。

これである邪魔くさい外輪ともおさらばだ。

にしても艦隊の変遷が異常だな。

長らく使われていた戦列艦は僅か2年で後方に下げられ、新しく出来た蒸気船も僅か2年で後方に下げられる。

スゲー開発速度だ。

現実世界の苦勞がまるで無意味だ。  
絶対どつかの造船所には天才的な奴がいたり、とんでもない技術レベルが普通にある。  
グランドラインの外でこれならグランドラインの中にはどんなのが  
あるんだよ？

鉄鋼船の開発も順調だ。

現在は鉄骨木皮の戦艦が完成した。

見た目はデカイ船だが、内部が分厚い鉄で出来ているから榴弾で沈めるのは難しい筈だ。

それに邪魔な外輪が無くなったから砲門も格段に増えた。

17cm砲などこの世界にはあり得ない大きさを持つ砲があるんだ。

……いや、待てよ。

グランドラインの海軍船には確かとんでもないデカイ砲塔があったな。

あれって何cmぐらいあるんだろう？

アニメやマンガの見た目だと少なくとも20cm以上はありそうだが……。

だとしたら……この戦艦ってあんまり強く無い？

ヤベエな。

だったらグランドラインに行くまでに少なくとも30cm砲を搭載した戦艦が必要だな。

海賊船には過ぎた攻撃力だが、海王類に遭遇した場合には必要不可欠だ。

何せ商会には超人はほとんどいない。

最近志願してくる奴の中には超人的な身体能力を持つものもいるらしいが……。

絶対数は低い。



やっぱりこういう所は海軍には勝てないんだよな。

他にも様々な兵器が完成した。

持ち運びに便利な迫撃砲や面制圧が可能なロケット兵器。

長大な射程距離を持つ榴弾砲。

そして歩兵戦力アップの半自動小銃。

少なくともこの海なら最強になれるかも。

しかし天敵が存在する。

能力者だ。

あの化物達には通用しないかも知れない。

だから化物も殺せる兵器も開発中だ。

あの能力者にとって最悪な鉱物、海楼石が手に入りさえすれば全て解決だ。

弾丸の弾頭部を鉛から海楼石に変えれば例え自然系（ロギア系）能力者でも致命傷を負う。

原作では海楼石は貴重なのか、手錠やインペルダウンの牢屋。

唯一は捕縛用のネット弾ぐらいにしか使われていなかったが、俺の能力なら簡単に作れる。

この弾丸さえ作れば非能力者が能力者を簡単に殺せる。

能力者が最強という前提が覆る。

それに、海楼石の硬度はダイヤモンド並みだから普通の人間でも撃たれれば死ぬ。

正に万能。

まあ、一発がとんでもなく高いからコストパフォーマンスは最悪だな。

更なる兵器開発も加速中だ。

間もなくAK-47を基にしたどんな環境下でも撃てる自動小銃も開発されるだろうし、狙撃用ライフル、重機関銃、長距離ロケットなど。

エンジン技術も上がってきたから初期型の自動車や戦車の開発も行なっている。

やはり技術レベルを上げようと思ったたら様々な分野を上げる必要があるからな。

弾道計算や様々な物に必要な真空管も開発する必要もある。

グランドラインに行けば開発速度はかなり加速するだろうが、今の内からやっという損は無い。

せっかく研究機関を立ち上げたんだからな。

原油の掘削に成功。

やっぱり石炭があるから原油もあるだろうと探しまくった結果、燃える黒い水の噂のある一帯を掘削したら当たった。

今はまだ精製技術が低いから利用出来ないが、精製出来れば一気に技術革新だ。

医療技術向上の研究の成果が上がった。  
レントゲンの開発に成功。

放射性物質があるって事はアレもある筈。  
アレが見つかれば魚人も簡単に滅ぼせる。  
いざというときは世界を支配出来るしな。

今はアレを探すが至上命令だ。

ちなみに兵士や下士官の使っている銃はゲベル銃かミニエー銃だ。

やっぱり末端の兵士達にまでボルトアクションライフルを支給すれば横流しや盗難にあいかねない。

だから取られてもそんなに痛くは無いが、この世界ではそれなりに強い武器を支給している。

将校クラスならボルトアクションライフルを、親衛隊なら半自動小銃を支給されている。

それと拳銃の開発も進んでいる。

今まではシングルアクション式リボルバー拳銃だったが、ダブルアクション式リボルバー拳銃を開発した。

ちなみに拳銃も機密保持のために兵士や下士官はゲベル銃の拳銃タイプ。

将校はシングルアクション式リボルバーを支給されている。

これが広まると面倒だからな。

海賊は持ち運びが楽なマスケットライフルを好むから、リボルバーが知られたら間違い無く欲しがる。

だから要注意だ。

さて次に進出するのは原作の海、東の海だ。イーストブルー

この時代ならアロンはまだグランドラインにいるだろうから問題無い。

でもアロンがイーストブルーに来たらヤバイな。

何せ魚人は普通に強い。  
特に弱点らしいものは無いからな。  
どうしよう？

ちなみにウエストブルーにはシャンクスの故郷やオハラがあるが、  
そこらへんはスルーした。  
オハラに進出してもバスターコールされて終わりだし、赤髪の故郷  
は何か恐いからまだ進出しない。  
いずれはする予定だがまだしない。  
まだ戦力は十分とは言えないからな。

## 9 海軍の事情

海軍本部元帥、センゴクは海軍本部の自分のデスクにてウエストブルーの支部から上がってきた報告書類を見ていた。書類の内容は新興企業、北郷商会についてだ。

北郷商会はサウスブルーの小さな島の露店商から始まった。

始めは現総帥である北郷一刀1人で切り盛りしていた。

どこから仕入れたかは分からないが大量の商品を扱い、その値段の安さから店は瞬く間に繁盛。

次の日からアルバイトを数名雇う必要にもなった。

そしてそれから直ぐに店舗を構え、北郷商会という企業名で商売を開始。

店舗を構えるようになり品数は更に上昇、正規の店員数も増やし人件費なども上がった筈なのに何故か値段は変わらず。

おかげで客足が絶える日は無かった。

その後、北郷商会は周囲の店を吸収合併してどんどん巨大化。あつという間に総合商事に発展。

そして島の市場を独占した北郷は昨今の大海賊時代の危険性を考え、自称私兵集団「自衛隊」を創設。

自衛隊には元海軍兵やならず者、失業者、浮浪者などを雇い、厳しい訓練と規律によって正に軍隊となった。

北郷自身は「あくまで自衛隊は商船や店舗を護るための私兵集団」と軍隊では無いと否定。

しかし豊富な武器や巨大な軍艦を多数所有。

軍隊のような規律と階級。

実質は軍と何ら遜色無い。

更に自社で兵器開発を行い、見たことも無い武器を多数所持。具体的には長大な射程と命中率を持ち、連続で撃てる銃や火を点けずに爆発する手投げ爆弾など脅威に値する兵器を多数所持。

しかし、北郷商会や自衛隊は海軍に非常に協力的。

北郷商会は海軍に多額の寄付を定期的に行っており、自衛隊は海軍の手助けや海賊の討伐等を積極的に行っている。

更に世界政府や天竜人に対しても多額の寄付をしている事から脅威とは言い切れない。

現に、地元住民達は自衛隊を歓呼の声で呼び、非常に協力的。災害が起きた際には真っ先に自衛隊が出動し、救助活動や復興に尽力。

平時でも海軍の目が行き届かない地域の治安維持もしている。

海軍の中でも自衛隊や北郷商会を好意的に見ている兵が大多数だ。

「フリー……」

書類を見ていたセンゴクは顔を上げ、ため息を吐く。

もしも何らかの違法活動や海軍に非協力的という組織なら、理由をつけて会社を調べる事や自衛隊の解散命令も出来るが、何ら問題活動はしておらず、逆に海軍よりも慕われている組織を無理矢理解散させようものなら市民が暴動を起こしかねない。

もし暴動が起きなかったとしても海軍の評価は地に落ちる。

それに世界政府や天竜人にまで多額の献金をしてるんだ。

海軍がちよっかいをかければ必ずそっち方面から苦情なり圧力がかかるだろう。

よって、戦力も把握出来ておらず、脅威かどうか分からない組織だ

が何も出来ない。

ただ傍観している事しか許されない。

まあ、幸いな事に商会総帥の北郷一刀は海軍に協力的だからいざという時に話は出来るだろうし、あつてはならないが、非常時には応援の要請も出来るだろう。

北郷商会についての基本データから目を離し、センゴクは別の書類を見た。

その書類は支部を経由して北郷商会から海軍本部の自分宛の書類だ。内容は武器売買契約。

纏めて言えば、北郷商会製の武器を定期的に低価格で海軍に大量に売りたい。という内容だった。

更に書類には世界政府からの紹介状付き。実質命令だった。

流星に世界政府からの紹介とあれば無下に断るなど不可能。断るにはちゃんとした理由が必要だ。

本来、海軍の武器は海軍内で製造し、兵士達に支給している。

これは安定的に兵器の製造をするためと、企業との癒着を減らすため。

更には海軍が使つてる武器の横流しを防ぐためだ。

そのため本来なら拒否したい内容だが、相手は多額の寄付を定期的にしてくれるお得意様で、世界政府の紹介状を持っているのでは簡単に拒否など出来ない。

軍と言つても金は必要だし、世界政府の圧力を無視するのも難しい。それに、北郷商会製の武器は高品質で知られている。

念のために北郷商会製の武器を取り寄せて検査した所、海軍が使用している武器よりも高品質で尚且つ値段も安い。

これでは否定する材料が無い。

しかし、世界政府直轄の海軍が1企業と武器の独占契約を結んで良いものか？ とセンゴクは連日悩んでいたのだった。

「良いんじゃないかい？ 契約しても」

センゴクは声ができる方を見ると、そこには老女がいた。

「…おつるさん……。」

「別に北郷商会は何ら法を犯してないんだし、自衛隊も海軍に協力的。

売ってくれる武器も海軍製よりも高品質で低価格。

何にも問題無いじゃないか？」

「…しかし、海軍が企業との契約などして良いのか……。」

前例が無いことなのでセンゴクは簡単には頷けない。

「なあに、前例が無いなら作れば良いのさ。

もしも何か問題があったら契約破棄すれば良いし、そうなったら北郷商会の内部を調べる口実にもなるさ。」

つるの言葉にセンゴクも成る程と納得した。

確かに双方にとって損は無いし、仮にこれのせいで何らかの問題が起きれば北郷商会や自衛隊の内情を詳しく調べる事も可能になる。

それに、冷静に考えたら断ることなんて不可能だ。

何せ世界政府のお墨付きを貰ってるんだ。

断れば海軍への寄付は勿論、世界政府への寄付も滞りかねない。

そうなったら世界政府は間違いなく海軍に圧力をかけてくるだろう。

この後、センゴクは契約書にサインをして北郷商会との武器売買契約を結んだ。

早速北郷商会から届いた武器は前評判通りの高品質で本部は勿論、各支部の兵士達に喜ばれた。



一方、北郷商会の方も莫大な利益を得られたし、海軍とのパイプが出来た事から北郷は満足した。

## 10 東の海制覇

東の海に進出して2年。  
イーストブルー  
ようやくイーストブルーの市場を独占出来た。

原作でお馴染みだがこの最弱の海、イーストブルーを制圧するのは簡単に思われたが、原作の始めの海だからか海賊の数が多かったし、結構デカイ海王類がいたから中々難しかった。

にしても、ようやく原作の前段階が始まったな。

原作メンバーの事を調べたらエースはある島で海賊貯金なるものをしてたし、ルフィやゾロ、サンジ、ウソップ、ナミなど原作メンバーも全員生まれていた。

俺としては別に原作が始まらなくても良いからまだ赤ん坊の内に全員殺すか？ とも思ったが、ハッキリ言って面倒くさい。

それに、一番厄介なルフィを殺すとガープが調べるだろうし、そうなるとう海軍との関係が微妙になるかも知れない。

なので直接の接触は無しにして、間接的に変える事にした。

先ずはルフィだが、既にイーストブルーは北郷商会の領域だから海賊の数は激減。

フーシャ村に赤髪海賊団がたどり着く事は出来ないだろう。

そうなればルフィが海賊を目指す可能性が少なくともある程度は下がるだろう。

もしかしたらエースの影響で海賊を目指すかも知れないが、ゴムゴムの実を食べるのは不可能だからゴム人間にはならない。

そうなればルフィはただのモブキャラになるしかない。

それなら例え海賊になっても大した脅威にはなり得ない。

後は不干渉で良いや。

最悪ルフィさえいなくなれば原作は始まらない。

ゾロはモーガンに処刑されて終わりだろうし、サンジはゼフが死ぬまでバラティエでコックやってるだろうし、ウソップはもしかしたら海賊になつてるかも知れないが所詮ウソップだ。

ナミはアーロン一味に入るかも知れないが、東の海は俺の領域だからアーロンにもいずれは退場願うから問題無い。

チョッパーはくれはの所で医者をやってるだろうし、ロビンはどうだろう？ もしかしたら自衛隊が賞金首として捕縛か殺すかも知れない。

フランキーは解体業者として終わりかな？

にしても、ルフィがゴムゴムの実を食べないだけでここまで変わる可能性があるとはスゲーな。

まあ主人公様ならゴムゴムの実を食べずに強くなりそうだが、そうなったら海賊として早期に始末すれば良い。

それならガープだって文句は言えない。

俺の最終目標は大海賊時代の終焉。

流石にグランドラインの新世界に進出するのは厳しいが、そこは海軍に頑張つて貰おう。

多分原作でもあの流れなら最終的には海軍が勝つんだろうし。

結局、海賊は軍には勝てないんだよ。

石油精製技術が向上した事によりハイオクタンガソリンを精製可能になった。

まあ、まだ別にハイオクが必要になるエンジンの生産はしていない

がな。

初期型のタンクや自動車の開発は成功したが、この海洋世界に戦車はあんまり必要無い。

デカイし、重いから船で運搬するのも難しいし。

まあ良い。

一番狙いは飛行機の開発だからな。

この世界は大したデカイ大陸も無く、長距離移動には必ず船が必要になる。

しかし、船は目的地に着くまでにそれなりに時間がかかるから不便だし、海賊や海王類に襲われる危険性が高い。

しかし飛行機が出来れば全てが解決する。

空賊が出現するかは分からないが少なくとも海王類の事は考えずに済む。

流石にグランドラインは気流や天気が滅茶苦茶だから難しいだろうが、こっちの海なら問題無い。

そのため、ある程度のエンジン技術が上がった段階で航空機開発を命じた。

理論は俺が全て持っているから簡単に思えるが、流石に実際に飛ばすのは難しい。

現に開発を命じて結構経つのに未だに飛べてない。

技術が足りないのか？

一方、鉄鋼船の方は順調そのものだ。

既に明治海軍相当の戦艦が完成した。

ちなみに旗艦には富士級戦艦を基にした北郷や、扶桑級戦艦を基にした扶桑などが竣工。

他にも吉野級防護巡洋艦のように速射砲を沢山付けた巡洋艦や、まだ航続距離に乏しいが潜水艦も開発した。

しかしこれら近代艦艇は公開されてない。  
公にされているのは精々鉄骨木皮のスクリュー推進の戦艦ぐらい。  
それも木製と偽っている。

何故なら前の世界同様、常に優位に立ちたいからだ。

この世界の技術レベルは散々言ってきたが、異常だ。

普通、これらの艦艇を開発するには最低でも20年以上はかかる。

しかし、この世界では7年しか経ってない。

いくら理論や詳しいノウハウが分かるからってこれは異常としか言えない。

何故かこの世界では戦艦でも起工から僅か1、2年で完成する。

どんな作業効率だよ……。

つまり、これらの事からこの世界では見本さえあれば簡単に戦艦を複製出来るだろう。

だからコピーされても別に問題無い物だけを公開する。

まあ、それでもこの世界では充分通用するからな。

でもグランドラインに行ったら敵しいだろうな。

あの海域はマジでデタラメだし、あそこの生き物はほとんどが異常だ。

流石にグランドラインに渡る時は最新戦艦や巡洋艦などで艦隊を形成して行かないと海賊に襲われたり、海王類に襲われる可能性が高いからな。

でも艦隊で行くとリヴァースマウンテンを越えるのは難しいだろうし、まだ小さいかも知れないがラブーンがいるからなあ。

アイツと戦うと間違い無く被害が出る。

ワザと飲まれて中から殺す事も可能だけどリスクがデカ過ぎる。

やっぱり風の帯カームベルトを行くしか無いな。

海楼石を船底に敷き詰めれば海王類は船を海の一部と間違えるらしいから長時間止まったり、海王類に直視されなければ問題無い。

いざというときは徹甲弾を撃ち込んで仕留める。  
仕留められれば良いがな。

電伝虫の代わりとなる電信が完成した。

これなら無線暗号を作ってやり取り出来るから電伝虫よりかは安心だ。

まあこれも知られたらヤバイから秘匿技術だがな。

とりあえずは世界中に散らばっている自衛隊の基地にアンテナを建てて中継地点にする。

グランドラインでは使えるのか心配だが、やってみなくては分からない。

少なくとも電気技術が使えなくなる等の設定は無かったから大丈夫だと思う。

今は暗号技術のレベル上げに勤しもう。

真空管開発も順調だ。

やっぱり新しい海を制覇すると新しい技術や技術者、研究者がいるから開発は進む。

段々と複雑な計算も出来るようになったし、技術レベルも上がって耐久性も向上した。

軍用に使うから簡単には壊れないようにしないとな。

真空管の技術レベルが上がった事から、レーダーも開発出来た。

まだ搜索範囲は狭いが、このまま行けばグランドラインに行く頃にはある程度のレーダーを開発出来るだろう。

レーダーがあれば霧の深い時や、夜間でも正常に航行が可能になる。

何としてでもグランドラインに行く前に実用化しなくては。

石油精製技術が向上したことから石油を使った商品も開発出来てきた。

人気なのはナイロンなどの化学繊維を使った衣類だ。

今までより丈夫で長持ちするし、着心地も良い。

高級衣類として金持ち連中には好評だ。

ようやく海楼石を入手出来た。

これで今まで手を出しにくかった能力者の海賊達を殲滅出来る。

今までは物量などで押して何とか捕縛や殺せたりもしたが、中には銃器で殺すには難しくてお手上げの海賊もいた。

そついう場合は海軍本部に出動依頼をしていた。

海軍も暴れている海賊を見過ごす訳にも行かないから比較的早く来てくれた。

まあ、寄付のおかげもあるだろうが。

しかし、これからは海軍に頼る頻度も減るだろう。

早速海楼石をコピーしまくって削り、銃弾の弾頭部に取り付けた。

実験としてロギア系能力者（ミスミズの実の能力者）に試して見た所、簡単に殺せた。

撃たれた方も信じられない目をしたまま死んだ。

今まで絶対的防御と信じてきた能力が全く通用しなかったんだから当たり前か。

実用性を試して成功したから、この海楼石を仕込んだ弾丸の量産を開始。

各自衛隊基地にも支給したが取り扱いを厳重にさせ、一発でも使ったら本部に報告義務があるように設定した。

何せこの世界の常識を根底から覆す物だからな。海軍に販売して海軍だけが使うなら良いが、絶対横流しがあるだろうから海賊達にも広まる。

そうなったら海軍も弱体化するから公に出来ない。

使うタイミングを見極めなくては……。

そのため絶対自衛隊や商会で横流しが無いようにしなくてはならない。

まあ、もしもそんなことをしたらタダじゃおかないからな。

ちゃんと規則として秘匿兵器や技術を外部に漏らしたら本人は勿論家族や親戚、恋人、友人など関係のある者を皆殺しにする。と始めに教えている。

そして今までの俺の行動から横流しをした者は本当に肅正される。

と分かっているから誰もやらない。

まあ恐怖で縛っている分、ちゃんとアメもくれてやってるから部下達は従順だ。

上層部の奴等は常に斬新な発想や確かな実績を持つ俺に忠誠を誓っている奴等で固めたし、新たに入ってきた自衛隊員や社員、自衛隊学校の生徒達にも研修や授業で洗脳しているから大丈夫だ。

ていうかもの凄い勢いで発展していく北郷商会の総帥である俺に逆らう気は無いだろうし。

AK-47を模した自動小銃や狙撃用ライフル、重機関銃など歩兵用兵器も開発出来てきた。

大口径である狙撃用ライフルや重機関銃なら魚人を殺す事も出来るかも知れない。

ちなみにショットガンも開発した。



主な使用目的は海楼石の散弾をばらまくこと。  
これなら避けにくい。

ちなみに俺は護身用としてストックや銃身を出来る限り切り詰めた  
中折れ式水平2連発ショットガンを携帯している。

有効射程距離は物凄く短いけど、至近距離ならかなりの威力を発揮す  
るだろう。

海楼石の散弾なら能力者だろうが非能力者だろうがズタズタに出  
来る。

出来るなら使う機会が無い事を祈る。

ロケット技術も上がった。

今はV2ロケット並みの兵器も完成した。

しかし、肝心なアレはまだ見つかってない。

やっぱり無いのかな？

マンガ世界だから弾かれてたりして…。

でも今まで石炭や石油、放射性物質は見つかったからあると思う。  
まあ例え見つかったても開発には時間がかかるだろうし、使う機会が  
あるとは思えないがな。

魚人など化物対策として対物体狙撃銃アンチマテリアルライフルや毒の開発を進めている。

対物体狙撃銃の威力なら流石に効くだろうし、生物である限り毒は  
効くだろうからと開発をしている。

でも毒はどうやって撃ち込もう？ 毒針が通用するのか分からない  
し。

いざというときはガスにして吸わせるか。

弾頭部を海棲石にした弾丸を製作したのだが、海棲石はダイヤモンド級の硬度を持つので一発撃てばライフリングや銃身その物が削れて廃銃になってしまう事が発覚した。

そのため、連射出来るようにするために弾をプラスチックで覆ったサボット弾に改良した。

最初は薄い銅や亜鉛で覆ったフルメタルジャケット弾にしようかと思っただが、銅等で覆った海棲石が露出せずに当たって効かない可能性があるので、銃口から飛び出るまでは弾丸を覆っているサボット弾にした。

サボット弾のプラスチックは銃口から出たら外れるからな。

これなら問題無く能力者を殺せる。

ロギア系能力者で実験してみたら見事成功した。

しかしサボット弾は親衛隊や俺直轄の主力部隊にしか配備はされない。

兵士や下士官、支部の自衛隊には弾頭部が海棲石の旧式しか支給しない。

何故ならただ能力者を殺すだけなら一発撃てれば充分だし、万が一海賊や海軍に鹵獲されても一発しか撃てない欠陥弾丸と思わせとくこれなら優位を保ったまま能力者の脅威度は激減する。

それに支部の奴等も一発しか撃てない弾丸なら慎重に使うだろうし、発砲記録も誤魔化し難くなる。

各支部に支給する海棲石弾は明確に決められてるから誤魔化しようが無い。

毎日弾数をチェックされれば簡単にバレると子供でも分かる。

殺傷力を高めたホローポイント弾も作るか？  
これなら一発でも命中すれば致命傷を与えやすいし。

10・5 駆け引き(前書き)

北郷と五老星との駆け引きです。

## 10・5 駆け引き

時間は少し遡り。

俺は世界政府を統べる五老星へ謁見申請をした。

それなりに待たされたり断られるかな？　と思っていたが、謁見許可は簡単に出された。多分予測はついていたのだろう。

厳しいボディチェックを受けた後、指定された世界政府直轄の建物の奥にある部屋に案内されると、そこは会議室のような間取りになっ  
つていて、各席に5人の老人が鎮座していた。

「これはこれは初めまして。

北郷商会総帥、北郷一刀です。

ただか1企業の長に過ぎない私に世界政府を支配する五老星様にお会い出来るという名誉を与えていただき、誠にありがとうございます」

とりあえず挨拶だ。

あくまでこちらが下座だから下手に出る。

「……………」

五老星達は黙って俺を見ている。  
スゲエ警戒されてるな。

「さて、今回私かわざわざ五老星様にお会いした理由についてですが…。

……………是非我が社と相互不干渉協定を結んでいただきたいのです」

「……………相互不干渉協定…とは？」

名前は分らんが一人が聞いてきた。

「はい、どうやら世界政府は、というよりも貴殿方は我が北郷商会

を物凄い警戒している様なので、この際お互いに干渉しないという取り決めを作った方が生産的かと思ひまして」

「……我々が貴社を警戒しているとは何の事でしょうか？」  
「やっぱ惚けますか。」

「そりゃそうだな。」

「またまた、そのようなお戯れはおよし下さい。」

貴殿方の直轄であるCP9、サイファーポール9が我が社に潜入している事は既に判明しております」

俺の言葉に流石に5人の眉が微かに動く。

「ご存知の通りサイファーポールは世界政府直轄の組織。」

世間的にはサイファーポールは8つしかないと言われてますが、実際には9つある。

その9つ目、CP9とは諜報、破壊工作、暗殺等々暗部を司る組織。そのCP9のメンバーが昨年から我が社に潜入して情報を得るうとしているのは既に把握しておりました。

しかし、それが分かっているながら未だ何も手を打っていない。

…この意味は既にお分かり頂けると愚考致します」

つまり此方からは何もしてないから手を引け。という意味だ。今ならお互い痛みを覚える事なく終われる。

「……一体何のことでしょうか？」

「そもそもCP9など存在致しません」  
「成る程そう来ますか。」

「…そうですね。」

この3人に見覚えはありませんでしたか」

そう言つて俺は持っていた鞆から3枚の書類を出す。

その書類には潜入しているCP9一人一人の詳細なデータが載っている。

「それではその3人、仮にCP9と言われる者達は全員が六式と言われる特殊な体術を習得しているらしく、全員が超人的な力量を持つらしいのです。」

そのような輩を排除するのは我が社にもそれなりに痛みを伴うでしょうから正面からの排除は避けたいと思うのです。

……何か良い案はございませんでしょうか？  
組織があるとは断言しないが、遠回しに聞く。  
これなら仮定としての話は出来るようになる。

「……そうですね。」

その仮にCP9という組織は何を探っているのでしょうか？」

「それは私にも分かりません。」

我が社の内部事情が知りたいのか？

それともただの産業スパイか。

いずれにしてもその組織が探っているのは自衛隊内部に集中している模様です。

一体何を知りたいのでしょうかね？」

互いににらみ合う。

5対1という絵図だが問題無い。

何せ俺の人生経験は既に500年を越えている。

人生の9割を政治や軍事の場で生きてきたのだ。

こんなガキ共に負ける程柔な人生を送っていない。

「……その話は一旦置いておき、最初の協定について話しましょう」  
五老星が言ってきた。

形勢が不利だから他の糸口を掴むためだろう。

「はい、相互不干渉協定とは……名前の如く互いの事に干渉しないように決める協定です」

「その干渉とはどういう意味なのでしょうか？」

「つまり互いの内部に、知られたく無い事を探りあうのは止めましょう」という事です。

お互い知られたくないという事は少なからずあるでしょうし。勿論無いとは思いますが、今回のように秘密組織が我が社の内部を探ると言う事が万が一にも無いよう互いに約束を結びましょうという事です」

所詮紙の上での約束だから紙程の重さしかない。

しかし理由にはなるし、無いよりは良い。

「……その協定を結ぶ事によって互いに何を得るのでしょうか？」

「それは互いの秘密には一切関わらないし、探らないという信頼関係ですよ。」

もしこの協定を結んでいただけるのなら我々も一切そちらの秘密に触れません。

……例えば……ポーングリフとか……」

それを聞いて五老星はハッキリと反応した。

と言つてもセンゴクみたいに素人にも分かるような反応ではなく、政治家には分かるような反応だ。

「我々はオハラとは違い、解明しよう等とは考えていません。」

流星にバスターコールは恐ろしい。

……しかし、この協定を結んで頂けなければ……約束は出来ません」  
こちらの最強のカード。

空白の歴史の真実だ。

実際興味も無いからまだ全然調べて無いが、調べれば分かる。

オハラでも解明出来たんだ。

他に出来ないとは思えない。

「……我々と敵対すると言つ事ですか？」

睨み付けるように見てくる。

脅しにくるか。

「敵対なんてそんな！」

そんな恐ろしい事は考えても見ませんでした。

……しかし、もし、仮にの話ですが……。

そうなった場合は我が社もただやられる訳にはいきませんね。



その場合はもう商売など絶望的でしょうから、商品の生産や販売等に費やしていた力を軍事に回し、商会の全精力を戦う事に費やします」

「……」

「更に、流石に商会単独では難しいでしょうから世界政府非加盟国と同盟を結び戦力を拡大し、革命軍とも共同する事になると思います。」

幸いと言うべきか分かりませんが、革命軍もそれなりの規模を誇りますし、兵力もそれなりにある。

兵士達には商品生産を中止にする代わりに得るだろう莫大な武器や兵器を支給して戦力を更に拡大。

我が社も自衛隊の各支部や本部の戦力を集結させて一大勢力を築き上げるでしょう。

ああそうだ、もしそんな事態になったら自衛隊を正式な軍に引き上げましょう。

私兵組織では制限が色々ありましたが、軍にすれば制限なんて無くなりますから。

戦争になるなら制限など邪魔にしかありません。」

要約すると協定を結ばないなら商会の有り余る生産力を軍事に回し、非加盟国や革命軍と共同してお前等（世界政府）を破壊してやるという意味だ。

多分コイツらなら海楼石弾の事も知ってるだろうから能力者を集めても無駄な事は分かる。

魚人の力でも借りるなら海楼石弾は心配する必要は無いが、魚人の数は少ないし、無敵な訳では無いから決定力にはならない。

長い交渉の結果、北郷商会と五老星（世界政府）との間に相互不干渉協定が結ばれた。

秘密協定だから公には出来ないが、効力は変わらない。

こちらとしてはポーネグリフの事は研究しないし、ラフテルにも上陸しない。

五老星側はCP9という組織は知らないが、人づてに潜入工作を止めさせるよう努力するし、世界政府側からも商會に探りはいれない。もし互いの組織に工作員が潜入していた場合は互いの裁量に任せる。

簡単に纏めればこんなもんかな？

五老星側から新型兵器や海楼石弾の譲渡要求があったが、代わりに定期献金の額を上げる事で無しにさせた。

このせいでまた長い交渉になったが、流石に兵器や海楼石弾は渡せないからな。

五老星としては新型兵器を得る事はかなわなかったが代わりに莫大な献金が定期的にくるんだ。

それで良しと諦めたらしい。

多分横流しとか鹵獲しにいく気だろう。

更なる警戒が必要だな。

脅しのために何か罪をでっち上げて何人が処刑するか？

そうすれば分かるだろう。

後日、CP9の奴等は全員退職した。

五老星は約束を守ったらしい。

ちなみにCP9のメンバーは全員把握している。

いくら秘密組織でも長官があのおスパンダインじゃダメだ。

アイツの私室に潜入したら簡単にリストがあつたらしい。

いや〜やっぱり無能な味方って一番恐いねえ。

作業員の潜入に全く気付かなかった。

ちなみに監視カメラや盗聴機も仕掛けておいたから情報は逐一届く。協定を結ぶ前に設置したんだからギリギリ協定違反では無い。

協定なんて所詮紙屑。

でも破れば痛みを伴う。

厄介だけど利用出来るから良い。

少なくとも俺からは破らないからな。

あっちが破ったら致命傷を与えてやるけど。

## 11 北の海制覇

年中雪が降ってるクソ寒い北の海ノースフルに進出して2年。  
何時ものように市場を独占した。

一番辛かったな。

何せほとんどが真冬みたいな海だから冰山とか自然災害がとんでもなく多かった。

南の海出身者が多い北郷商会には順応するまで地獄だったな。

まあ、自然の脅威のせいか比較的海賊が少なかったのが良かったな。

その代わりに北の海は技術レベルが高い。

やっぱりどこの世界でも自然環境が厳しい国は技術が発展するんだな。

まあ技術レベルが発展しないと生きづらいから仕方ないか。

おかげでその技術を吸収したこっちの技術レベルもかなり上がった。

先ずは艦だ。

北の海の技術を吸収した結果、薩摩級戦艦を建造出来るようになった。

出来るなら蒸気タービン搭載戦艦を作りたかったが、やはりそこまではまだ行ってない。

しかし、これでレシプロエンジンは最終型に来た。

このまま行けば金剛級巡洋戦艦や長門級戦艦を建造出来るようになるだろう。

航空機の開発速度も加速した。

今までは2、3時間程度しか飛べなくてロクな装備も無かったけど、第一次大戦程度の戦闘機が完成した。

同調装置もついているから攻撃力もそれなりに高い。

まあ専ら落とすのは訓練機か巨鳥ぐらいだ。

しかし巨鳥には7.7mm機銃弾があんまり効かない。

早く12.7mmや20mm機銃を作らないとな。

念願の物がようやく見つかった。

北の海のある島でウラン鉱山を発見。

これで核兵器開発が始まる。

まだ中性子の発見には至っていないから無理だが、既に研究は進めていたからそんなに時間はかからないだろう。

これからグランドラインに行くから常人では敵わない奴等にしてくれてやる。

出来るなら魚人島を核攻撃したいなあ…。

深海にあって何かバリアがあつたし。

魚人だけは普通に強いから厄介だ。

電信など通信技術が発達したおかげで無線が完成した。

これで艦隊での連絡も比較的早く取れるようになった。

ちなみに八木アンテナみたいに電波に指向性を持たせるアンテナを開発した。

これでレーダー技術は格段に上がる。

何としてでもグランドラインに行く前に完成させなくては。

じゃないとあの海域怖すぎ。

目視での航海なんて現代を知ってる俺から見たらバカと同じだ。  
現在は戦艦に積めるレーダーの開発を進めている。

真空管の開発はかなりの段階に達したので次の段階としてトランジスタの開発に着手。

これが出来ればより高性能で小型化も出来るようになる。

ロケット技術も順調に発達していつてるからいずれは人工衛星の打ち上げさえも可能だろう。

ロケット技術が発達すればミサイルや大陸間弾道ミサイル（ICBM）の開発も出来るようになる。

それさえ出来れば例え世界政府を敵に回しても勝てる。

流石にどんな超人や化物でも核兵器には勝てない。

さて、とりあえず普通？ の海は支配出来たから次はいよいよ偉大なる航路だ。  
グランドライン

今までの常識が一切通用しない海域。

グランドライン以外の海域は現代世界に準じている事が多いから何とかなったが、グランドラインは全く通用しない。

何せコンパスが使えないなど異常が多々あるからな。

そのため、ローグタウンなどグランドラインに近い島々でグランドラインに関する書物や情報を集めた。

ちなみに海図などは海軍から貰った。

まあ、正確に言えば見せて貰ったのをコピーした。

やっぱり正確で信頼性が高い情報は軍に聞くのが手っ取り早いから

な。

海軍に多大な貢献をしている協力者からの要請を簡単には断れない。何せ海図を寄越せとは言っていない。ただ見せて欲しいと言われれば了承する。

海図の他に、ログポースやエターナルポースも見せて貰った。

最初は普通に探したんだがやはりグランドライン以外で見つけるのは困難で、何とかログポースは手に入れられたがエターナルポースは手に入らなかった。

そのため、数多くのエターナルポースを有するローグタウンの海軍本部に見せて貰った。

やっぱり世界のほとんどに広がっている海軍本部だけあって、数多くのエターナルポースがあった。

海軍としてもあげる事は出来ないが、見せるぐらいはしてくれた。おかげでグランドラインに行く前にかかなりの数の島に行けるようになった。

既にグランドラインに行く準備は整っている。

グランドラインに行く艦の船底には海棲石を敷き詰めてあるからカームベルトを渡れるようにした。

ちなみにグランドラインに行く艦隊規模はかなりデカイ。

ドン・クリークと同じ総勢50隻にもなる。

ドン・クリークと違って情報もあるし、装備も充実してるがな。

グランドラインを渡る艦は戦艦や巡洋艦と言った大型船がほとんどだ。

潜水艦も連れて行くかと思っただが、カームベルトを潜航中に海王類に襲われる可能性が怖いから止めた。

まだ潜水艦の性能は高いとは言い難いからな。戦闘艦の他にも輸送船や砕氷船、工作艦、給糧艦など様々な艦種を揃えている。

何故ならグランドラインとこちら側の海を何回も往復出来ないから、一度に必要な物を全て揃えるためにこのような艦隊になった。

まあ、俺の能力を使えばわざわざデカイ工作機械等の設備を持って行く必要は無いのだが、能力を知られても困るから仕方なく持って行く。

本当に持っていけないデカイのとかはコピーするけどね。周りには新たに作ったと言う。

にしてもデカイ艦隊になったな。

これだけの艦隊を護りながらカームベルトやグランドラインを抜けるのはかなり難しいな。

最悪、半数を喪失するかも。

船はいくらでもコピー出来るけど人員はコピー出来ないから何とかでも護らなくてはいけない。

## 海軍サイド

海軍本部の自分のデスクでセンゴクはまたもや悩んでいた。

ローグタウンの海軍基地から北郷商会がグランドラインに進出しようとしている。という報告を見たからだ。

「遂に偉大なる航路にまで進出するか…」

センゴクは北郷商会のあまりの発展スピードに驚愕していた。

「…僅か8年足らずで4つの海を支配するとは…」

センゴクもいずれば北郷商会はグランドラインに進出すると思われていたが、あまりに早すぎる。



通常、民間企業がグランドラインを越えて商売など信じられないからあり得なかったが、北郷商会はその常識を覆そうとしている。ただの民間企業なら別にここまで悩んだりしないが、相手は海軍や世界政府、更には天竜人にも多大な献金をしている大企業だ。

もし北郷商会のグランドライン進出が失敗して大打撃を受け、倒産なんてしたら今まで受けられていた献金は全て無くなってしまふ。それを考えてか、世界政府から「北郷商会の偉大なる航路進出を全面的に支援せよ」なんていう命令まで出して来たのだ。

相手がいくら大企業と云えど海軍がわざわざ支援するなど普通はあり得ない。

しかし、海軍にとっても大事な大事なお得意様だ。簡単に失って良い存在では無い。

だから北郷商会に「偉大なる航路の進出の際には船団の案内や護衛をしようか？」と尋ねたが、答えは「船団護衛はいりませんが、偉大なる航路にある海軍基地がある島での経済活動の許可をお願いします」だった。

確かにこれも支援内容には入るが、その前に北郷商会の船団がリヴアースマウンテンを越えられるかが心配なのだ。

この事を言っても「大丈夫です。案内や護衛はいりません」としか返して来なかった。

ここまでハッキリと知らないと言われれば引かざるを得ないが、もしこれで北郷商会に甚大な被害が出れば世界政府から何を言われるか分かったものじゃない。

「はあ〜。どうしたもんか」

センゴクには最早北郷商会が無事にグランドラインに進出してくれる事を祈るしか無かった。

## 12 凧の帯の恐怖

遂にグランドライン進出を決定。

本当なら行きたく無いのだが、行かないと物資や資金等が不足するし、新技術等をコピーするためには俺自身が直接行かなくてはならないので仕方なく艦隊の旗艦に乗船した。

俺が乗っている旗艦北郷は薩摩級戦艦を基にしているが、旗艦ということで通信設備の充実化や居住性の大幅アップなど様々な改良が施されている。

出来るなら弩級戦艦が良かったのだが、やはり蒸気タービン開発は間に合わなかった。

その代わりに薩摩級の25cm連装副砲6基を廃し、代わりに30cm連装砲を4基積んでいるから攻撃力はかなり増した。

ていうか海賊に副砲の25cm連装砲なんていらなからな。

主砲の役割は海王類の撃退。

海賊なんて12cm単装砲で十分だ。

薩摩級の他には、香取級戦艦や鞍馬級巡洋戦艦、利根級防護巡洋艦、吉野級防護巡洋艦などが揃っている。

駆逐艦はまだ小さく、外洋に出るのは難しい。

それにグランドラインではどんな気象条件になるのか分からないから置いてきた。

駆逐艦でも海賊船に負ける筈は無いからあっちの海でなら十分活躍するだろう。

戦闘艦の他には物資を満載した1万トンクラスの輸送船が数十隻、工作機械や職人を満載した工作艦が数隻、食糧生産のための給糧艦数隻、流氷に囲まれた時のために砕氷船を数隻など、様々な艦

艇がいるが全部がこの世界から見ればかなりの大型艦だ。  
勿論全ての船には船底に海棲石を積んでいる。

グランドラインで最初に目指すのは海軍基地が無い島だ。

何故ならこんな艦隊で海軍基地がある島の港に入港するものならどんな質問や嫌疑をかけられるか分かったものじゃない。

だからある程度は発展していて尚且つ、海軍基地が無い島。

かなり条件は厳しかったが何とか見つけた。

春島の1つで気候は比較的穏やか、人口はそこそこだが大都市とは言えない。

その代わりに海軍基地は無い島だ。

何で基地が無いのに海軍がエターナルポースを持っているのか分からないが、まあ、有事に備えて一応持つておくだけなのだろう。

いざというときに無いと話にならないからな。

ちなみにその島は世界政府加盟国の1つで北郷商会には友好的だ。

献金をたんまり出したら経済活動や出店の許可を出してくれた。

やっぱりコツコツと献金した甲斐があったな。

エターナルポースに従い、現在艦隊で風の帯を通過中。カームベルト

カームベルト一帯は大型海王類の巣窟なため通常の艦船が通過すると瞬く間に海王類に見つかって沈められてしまう。

そのため、カームベルトを通過出来るのは海棲石を船底に敷き詰めた海軍船しか通行不可能だった。

しかし、このカームベルトを通過出来ればグランドラインのどの島でも直接行けるので俺は危険を承知で通過中だ。

ちなみに艦隊では静寂が漂っている。

何千と人間がいるんだから普通は賑やかなぐらい何だが、海王類に見つかる可能性を僅かでも減らしたいから全員が極力黙る。

海棲石を敷き詰めていれば海王類は船を海の一部と認識して見つかる可能性はかなり下がるが、直視されたり音は聞こえるからあくまで静かに進む。

帆船なら静かに航行出来るのだろうが、生憎とこの艦隊はレシプロ機関で動いているので駆動音が出てしまう。

だからと言ってエンジンを動かさずに航行は出来ないため、艦隊は輸送船が出せる最大速力の15ノットに合わせて全速力でカームベルトを通過している。

15ノットはkmに換算すると大体27km。

それなりに早いから図体がデカイ海王類なら振り切れるかも知れない。

まあ、でも海軍も外輪付きの軍艦でカームベルトを渡っていたからそんな簡単には見つからないだろう。

カームベルトに侵入して2日目、初日は何も無く順調に航行出来たからこのままグランドラインに突入出来るだろう。そう思っていた。

しかし現実は無情だ。

「前方に巨大な海王類がいます!!!」

見張り員からの報告に艦隊中が凍りついた。

艦橋から見てみると、巨大なカエルのような海王類の目玉がこっちを見ていた。

それを確認したら即座に

「総員戦闘配置!!!!」

と命じた。



倒だから一隻も失わないよう慎重に慎重を重ねてカームベルトを進んだのだった。

### 13 偉大なる航路進出

カームベルトに入って1週間、ようやくグランドラインに入れた。

グランドラインに入った瞬間、全乗員が歓喜の声を上げた。まあ1週間ずっと海王類を警戒して緊張しっぱなしだったからな。これでとりあえずは海王類に襲われる危険性は低くなった。でもまだ異常気象が残ってるから警戒は解けないがな。

とりあえず全速航行を解除して巡航速度に落とした。流石にずっと全速じゃあ燃料が持たないからな。

カームベルトを越える時は重油タンクを満載してたから何とかなっただけど、もうタンクはあんまり無いからここからは出しても11、2ノットぐらいだ。

目的地の島に向かって航行してたらレーダーに反応が現れた。レーダー監視員の報告によると、ゆっくりと移動している事から帆船と判明した。

帆船はこの世界では当たり前だから問題無いが、一番の問題はこの艦隊を見られる事だ。

こんなこの世界では異常な艦隊を見られたら瞬く間に噂として広まってしまう。

そうなればこれからの活動に大きく支障をきたしてしまう。

出来るなら沈めたいが、もしもこの船が海軍船だったら無理だ。

無事に沈められたとしても攻撃中に電伝虫等で本部に「北郷商会の艦隊から攻撃を受けている」なんて報告されたら一大事だ。

だから船に見つからないように迂回するか？ という意見も出たが、50隻もの艦隊の進路を変えるのはかなりの時間がかかる。オマケにまだレーダー技術が低いせいで探索範囲が狭い。

つまり敵味方不明船との距離はそんなに無い。例え今すぐ進路を変更したとしても、進路を変えた時には相手側から遠目に見られる可能性がある。

それでは進路を変える意味が無いのでどうしようかと悩んでいたら、見張り員から

「敵味方不明船を視認!!!」

帆や旗に描かれているマークから海賊船です!!!」

との連絡が入ったので全て解決だ。

海賊船なら沈めて乗員を皆殺しにすれば済む。

相手は海賊だから何も言われないしな。

「戦闘配置に就け!!!」

あんまり警戒はいらないけどもし逃げられたらヤバイから全力で潰す。

海賊にとってはお気の毒だな。

ちなみにその海賊船の船長は3000万ベリーの賞金首だった。

グランドライン以外ならとんでもない高額賞金首だが、ここでは雑魚でしかない。

何時もなら首ぐらいいは持ち帰って海軍に引き渡すが、今回は目撃者を消す目的なので別にいらぬから皆殺しにして海に沈める。

## 海賊サイド

その艦隊を発見したのは偶然だった。

何時も通りこのグランドラインの入口付近の海域で、まだグランドラインに來たてのルーキーや商船を襲おうとしていたら突然見張り



の奴が

「何かとんでもない大艦隊が近付いて来てる!!!」  
と叫んだ。

それを聞いて俺は望遠鏡でその方向を覗いてみたら、50隻以上になるかという大艦隊がいた。

オマケにその艦隊の船には帆が無く、鉄で出来ているように見えた。「な……何なんだアレは……?」

今まで見たことも無い船とその大艦隊を見て海賊達は思考停止状態に陥ってしまったのは無理も無い。

「船長!!! アレは何なんですか!?!」

部下の必死の質問に船長はようやく正気に戻った。

「そんなの知るか!!!」

それよりも問題なのはアレは敵なのかどうかだ!!!

おい見張り!!! アレは海軍の艦隊か!?!?」

あれ程の大艦隊を形成出来るのは海軍ぐらいしか思い付かないので見張りに聞いた。

見張りには双眼鏡で相手の旗印を確かめた

「……いえ、海軍のマークはありません。」

見たことの無いマークを掲げています」

船長もその報告を聞いて望遠鏡で見るが、確かに海軍のマリーンというマークでは無く、太陽から線が沢山出ているようなマークだった。

グランドラインで生まれ育った彼はそんなマークを見たことが無いので分からない。

分かる事は海軍でも無いし、海賊船でも無いという事だけだった。

「どうしますか船長!?!」

部下達が指示を仰いできた。

「どうするって決まってるだろ!？」

全速転身!! 急いで逃げるぞ!!」

船長の命令に部下達は急いで自分の持ち場に移動して、舵を切る等をして逃げようとする。

しかしそれは遅すぎた。

いや、例え艦隊が見えない内から転身したとしても艦隊との速度は違い過ぎるのだし、レーダーに捉えられている時点で逃げる事など不可能なのだ。

ドーーーーーン!!!

とまだ遠い地点にいる敵船から砲撃音がした。

しかし海賊達は慌てない。

あまりに遠すぎる。

あれでは当たる筈は無い。

精々警告射撃のつもりだろう。

海賊達がそう思っても仕方がない。

この世界に2000m以上離れた地点から撃たれた砲撃が当たる事などあり得ないのだ。

この世界で砲撃するのは敵船に乗り移れるぐらい接近してようやく当たるのだ。

海軍の砲塔ならそれなりに離れた距離でも当たる事はあるが、それでも2000m以上も離れた距離からでは無理だ。

奇跡が起きれば当たるかも知れないが、奇跡はそうそう起きないから奇跡なのだ。

そう思い、砲撃を完全無視して逃げる操作をしていたら船中央部に13cm榴弾が命中した。

帆を操作していた海賊達は弾け飛び、帆も下部が砕けて折れた。

木造船に13cm榴弾では一撃でも致命的なダメージを負わせられる。

船底のバラストに命中して爆発したため、船底に大穴が開いた。

突然降り注いだ砲弾? に海賊達はまたもや固まった。

何せ当たる筈無いと確信していた敵弾が見事命中して、帆は既に無くなり船底には大穴が開いたのだ。

この世界は現実と違って砲戦でも敵を沈める事はそんなに難しく無いのだが、それでもたった一撃で致命傷を負わされる事などあり得ない。

自分達の常識が破壊し尽くされた時、再び敵からの砲撃音がした。その音を聞いて海賊達はパニック状態に陥ったのは仕方がないだろう。

何せ一撃で帆は使用不可能になり、帆を操作していた仲間はほとんど体が弾けて死んだのだ。

その死体がまだあちこちに転がっているのだが、パニック状態の海賊達には最早視界に入らない。

中にはもうダメだと船から飛び降りる者達もいたが、体が弾けて海に飛び散った仲間の死体の血の匂いを嗅ぎ付けたサメに食われる運命になるしかない。

結局、敵の砲撃で死ぬかサメに食われるかどちらかを選ぶしか無いのだ。

迷っていた者達もいたが敵は容赦しない。

砲弾が船尾に命中して避難していた海賊達に命中。

ちなみに船長はその砲弾によって四肢が弾けて死んだ。

船長の死を間近で見た部下達は最早ダメだと一か八かをかけて海に飛び込んだ。

一応刀等で武装して、来るサメとの生存競争に備えた。

しかし、サメが来る前に敵船が近付いてきた。

遠目でもデカイ事が分かっていたが、近くで見るとそのバカデカさが分かる。

自分達の船の3倍近くデカイ船に思わず見上げた。

もしかして助けてくれるのかと思い、海に漂っていた海賊達は出せるだけの声で叫ぶ。

「オーイー！！！！ 助けてくれーーーー！！！！」

「降参する！！！！」

抵抗しないから引き上げてくれーーーー！！！！」

普通なら海軍船でも海賊船でもある程度は引き上げるだろうが、相手が悪い。

敵船からの返答は連続して聞こえる銃声だった。

必死に流木等にしがみついていた海賊達は7・7mmや12・7mm機銃弾を喰らい、弾けた仲間達のようになった。

そのバラバラになった死体をようやく来たサメ達が喰う。

敵船は念のためにしばらく辺りを搜索したが、生きてる人間はいないと確認したので艦隊に戻っていった。

この事実を決して表舞台には知られないだろう。

彼等は自然災害に遭遇したぐらい理不尽な目にあっただった。

## 14 新たなる拠点

あの海賊船を沈めて5日、ようやく目的地に到着した。

この国は群島国家で幾つかの島で構成されている。

俺が拠点にした島は一番人口が多い本島から離れた位置にある。

これは機密保持のため、わざわざ無人島を選んだのだ。

ちなみにこの島は俺の領土となっている。

この国の王から大金で買い取った。

それとこの島で秘匿兵器等を開発する。

そのため、黙っていて貰うためにある献上品をした。

麻薬入りの酒だ。

麻薬はやっぱりこの世界でもあった。

原作では全く出なかったから無いのかと思っていたが、マイナーなだけで普通にあった。

麻薬を含んだ酒を王に献上して依存症にした後、うるさい重臣供を始末して代わりに商会から出向した人材を配置した。

逆天下りだな…。

これでこの国を取ったも同然だ。

本当は国家運営などしたくなかったが、グランドラインで海軍や人に見つからない拠点を得るには国を乗っ取るしか無かった。

だから仕方なく国家運営も追加だ。

と言ってもやることはそんなに無い。

国家運営は部下達に任せてるし、余程の失敗をしない限りこの世界なら国が滅ぶ事は無い。

国家予算は商会からいくらでも出せるし、商会が進出すればインフ

ラや雇用問題も解決だ。  
むしろ乗っ取られて良かったんじゃない？  
まあ、プライドは傷ついただろうけど…。  
ワポル程ヒドイとは言わないが、そんなに国家運営に興味が無い王  
だったから王が薬中になっても大した混乱も無かったし。  
何せ政務は重臣に任せっきりだったからな。  
典型的な二世国王だったらしい。

ボロいが、一応存在する無人島の港に入港した俺達は直ぐに島の  
改造を始めた。

まずは持ってきた資材等で港の拡張、整備だ。  
だが俺の私有地となった島だから好き勝手に改造出来る。

小さくて古くさいボロボロだった港を解体して周りの土地や山を削  
って巨大な港を建設する。

勿論港湾設備も充実させる。

ちなみに秘匿艦艇の建設所は周囲の無人島を更に買い上げ、ダイナ  
マイトで穴を開けてドッグを作った。

勿論、俺の私有地は全て立ち入り禁止区域に指定されている。  
例え海軍だろうが勝手には入れない。

島のインフラ整備も始めた。

この島は立ち入り禁止区域に指定したから思う存分整備する。

まずは道路を整備して分厚いコンクリートで舗装した。

戦車で走っても簡単には傷付かないように。

そして水道設備や下水道を整備してとりあえず暮らせるようにした。  
火力発電所や水力発電所等の発電所を建設して電気を問題無く使え

るようにする。

ちなみにこの島は大体四国くらいの大きさがあるから電車を開通させた。

流石に無いと困るしな。

自動車は開発はしたのだが、まだ性能が微妙だから実用化には至っていない。

島の一等地になる予定の所に北郷商会のグランドライン支部が完成。

一応本社は南の海にある。

そして他にも社員用のマンションや社宅。

商品生産用の工場や研究所。

他にも社員が利用出来る体育館、テニスコート、温泉設備等々福利厚生施設を建てた。

やっぱりやる気を出させるにはGoogleみたいな福利厚生施設が必要だからな。

今回は国家じゃないから愛国心で洗脳出来ないなので代わりに会社愛を植え付ける。

他の企業より何倍も待遇が良い会社なら愛する筈だ。  
規則を破った際の罰則が強いけど…。

本島の方も改造を始めた。

以前のバカ高い税金を減税して人気を取る。

そして道路を拡張整備して石畳で舗装する。

これで交通や流通はかなり向上した。

そして北郷商会を出店させて何時も通り他店を吸収合併して市場を独占させる。

そして上下水道整備のために水道と下水道を整備する。

この世界なら水道があっても不思議は無いだろう。

減税して生活しやすくして公共事業と店舗拡大で雇用は激増。

国民は現政権への支持を高める。

あんまり意味無いけど、この国の国軍統制のために統帥権を握った。

お飾りだがこの国が舐められると不味いので国軍を鍛える。

今までのなまっちょろい鍛え方から、近代的な厳しい訓練を課した。

そしてお世辞にも強いとは言えない装備を北郷商会製の高品質な武器に変えてやった。

ちなみに配った武器はこの世界相応な物だけ。

一応国軍は俺の軍じゃないからね。

それに、普通の装備でも侵攻してくる海賊を追っ払う事ぐらいは出来るだろう。

もし出来なかつたら自衛隊に救援要請すれば良いんだし。

ちなみにこの国のフリーの記者が自衛隊の艦隊の写真を撮り、記事にしようとしてたからその前に取り押さえ、自白剤を使用して尋問した。

公開しようとしていた記事や写真、隠してある予備等も洗いざらい



吐かせた後、射殺。

死体はバラバラにして海に流した。

証拠は全て隠滅して、隠してある予備も全部処分して無かった事にした。

幸いにも独身だったから始末するのはコイツ一人で済んだ。

## 15 技術獲得

グランドラインに進出して1年。

聖地マリージョアにて大事件が勃発。

元奴隷の魚人、フィッシュアイガーが聖地マリージョアを襲撃、千人以上の奴隷を解放したらしい。

しかしそんな事は序の口、何より大騒ぎになったのは、フィッシュアイガーが天竜人を攻撃した事だった。

神にも等しい天竜人が元とは言え奴隷に、魚人に攻撃されたというのは大きすぎる事実だった。

この事件によつて魚人は更に恐怖される事になったが、憎悪もされるようになった。

ただでさえ魚人は人間より強いというのに、今回みたいに人間に襲撃をかける事になったら大変な脅威になる。と大多数は受け止めたのだった。

何か色々大変らしいが、こつちには特に影響無い。

何故ならまだグランドラインに進出して1年目だからそんなに奥に進めていない。

だから精々が新聞での出来事。

それに今回の事件のせいで人間と魚人の確執は更に深まったから好都合だ。

これなら海軍も魚人討伐や魚人島攻撃も受け入れやすくなるだろう。こつちにとつても魚人なんか絶滅してくれた方が助かる。

出来るなら魚人島に核攻撃を仕掛けたい所だ。

まあ、まだ原爆も出来てないが…。

とりあえず今回の事について商会としては魚人に対して遺憾の意を示し、負傷した天竜人に見舞いとして献金や献上品をしとく。あんま意味無いだろうがやらないよりはマシだ。側近とかは覚えておいてくれるだろうし。

さて、ここからが本題だ。

本当ならすぐにからくり島の未来国バルジモアナに行つて様々な技術を手に入れたいが、あそこは冬島で年中海が凍つてる。だから島に入るには砕氷船が必要だ。

砕氷船はあるにはあるんだが、まだ性能が心配だし、商会のレベルもまだまだだからからくり島には行かず、地盤を固めるために周囲の島から攻める事にした。

グランドラインの入口付近の島はあんまり強い海賊はいないし、外の海の家賊は激減したから入ってくる事は滅多に無い。

だから入口付近にいるルーキーやロートル、雑魚海賊団を殲滅させる事にした。

グランドライン入口の7つの島の市場は完全に独占した。

原作で賞金首の島だったウイスキーピークはまだバロックワークスが出来てないからただ賞金稼ぎが多いだけの島だったので簡単だった。

この7つの島に基地を建設し、部隊を駐留させた。これでルーキーは殲滅出来る。

何せログポースに導かれれば必ず7つ島の内、どれかに勝手に来る。エターナルポースでも持つてなきや不可能だ。

まだ入口付近と言えど、やはりグランドライン。外の海に比べて技術レベルが高い。

戦闘機開発は順調に進んでいる。

現在は戦間期の戦闘機や、まだ積載量は少ないが爆撃機が完成した。

この世界なら航空機はかなり役立つ存在になるから何とか長距離飛行が可能な航空機を作らなくては。

そうすればあのカームベルトの恐怖を味わう事なく往復出来る。

戦車の開発も順調だ。

今まではあのタンクでしかなかったが、全周旋回式砲塔の47mm砲を装備して攻撃力がかなり上がったし、速度もかなり上がった。

現代の戦車を知ってるからまだオモチャみたいだが、この世界の歩兵戦ならかなり強いだろう。

ロケット技術はかなり進んでいるからこのまま行けば人工衛星打ち上げも近いだろう。

何せ今のままではこっち（グランドライン）とあっち（南の海）を繋ぐ通信手段は電伝虫だけだ。

電信は中継局をカームベルトに設けられる訳も無く、距離が遠すぎて無理。

無線も同様。

だから衛星を飛ばして通信出来るようにしなくてはならない。

電伝虫ではいつ盗聴されるか分からないからビクビクしながら通信

している。

何せ普通の電伝虫に比べて盗聴防止用の白電伝虫は数が少なすぎる。かなりの広範囲を探しても極僅かしか見つからない。

だから現在白電伝虫を使ってるのは俺からの直通回線くらいだ。

遂に中性子発見の報告が入った。

これで原爆開発の糸口が掴めた。

既にある程度の距離を飛ばせるロケット技術と誘導出来る電子技術を持つているから、核弾頭が出来れば新世界だって核攻撃可能になる。

まあ新世界に行くかは微妙だけどね。

新世界はとんでもない地獄だって噂だからな。

多分覇気使いとかが一杯いるんだろう。

流石に俺でも覇気使いは厳しい。

もし進出するんだったら最低でも戦後ぐらいの兵器や装備が必要になる。

そこまでして行きたいか？ と聞かれれば微妙だ。

何せ新世界に行くには司法の門を越えて行かなくてはならない。

ただでさえカームベルトに遮られて連絡が取れにくいのに、更に遮られてはやりづらくて仕方がない。

だから新世界進出は微妙。

ていうか民間人は新世界に行けんのか？

能力者対策として商会支部や本部、自衛隊施設、秘匿兵器開発所や研究所等は海楼石で建設することにした。

何らかの能力で壁をすり抜けられる危険性があるからな。

壁や床、天井などを全て海楼石にすれば能力者はただ歩くだけで能力を封じられる。

オマケに海楼石はダイヤモンド級の硬度を持つから傷に強い。

一石三鳥だ。

16 原作崩壊 (改正) (前書き)

賛否両論あると思います。

## 16 原作崩壊（改正）

グランドライン進出から更に2年の月日が経ち、信じられない報告が入った。

イーストブルー支部から「赤髪海賊団殲滅」を定期連絡で報告された。

あまりの事に言葉を失った。何度も真偽を確認したが、間違いなく船長、赤髪のシャンクスの首を取ったと伝えてきた。

詳しい情報を求めたところ、イーストブルーのゴア王国フリーシャ村付近の海域で沿岸警備をしていた駆逐艦が接触、先制砲撃を仕掛けて航行不能にしたら降伏して来たので、後は何時も通り金品や貴重品を接收して全員射殺した。

しかし、何時もと違う事もあった。

それは俺がグランドラインに渡る前にイーストブルー支部に赤髪のシャンクスについての説明をしておいたからか、何時もなら部下は金品等を接收後に船員達の頭を撃ち抜き、船長は海軍に引き渡すために本人と判別出来るように頭は撃たず、心臓を撃つのだが、俺がシャンクスはいかに強いかを説明したので現地司令官は警戒して金品等を接收する前に、シャンクスや船員全員の頭と心臓を撃ち抜いて殺した。

ちなみに射殺される直前のシャンクスは12cm砲弾の破片を食らったのかかなり弱っていた。

流石の四皇もいきなりの砲撃には勝てなかったらしい。

他の船員も同様、念のためにかなりの数の砲撃を加えたから船と同時にほとんどの船員も死んだか重症だった。

そこを撃たれたら死ぬしかない。



一応真偽を確かめるとしてシャンクスの死体の写真を送るように命じたら直ぐに送ってきた。

その写真では、頭を吹っ飛ばされたせいか判別は難しかったが、トリードマークの赤髪と妻わら帽子。

間違いなくシャンクスだと分かった。

ちなみに船内には悪魔の実があつたらしいが、「悪魔の実は早急に確実に焼却処分せよ」という俺の至上命令を守ってその場で焼いた後で調べた所、その実は超人系（パラミア系）のゴムゴムの実だつたらしい。

これで原作は完全に崩壊した。

主人公に大切なファクターであるシャンクス、ゴムゴムの実が無くなったのである。

にしても呆気なく終わったな。

まあ、まだ原作より10年以上前だからシャンクスもまだそんなに強くなかったのか？

それに、いくら強くても12cm単装砲を装備する駆逐艦に勝てる訳無えか。

念のためにあの海域には駆逐艦や潜水艦を余分に配備していて良かったな。

これで邪魔な主人公はいなくなった。

一応更なる命令として、「フーシャ村にて新たな海賊が誕生したら即刻処分せよ」と命じた。

「但し、ポートガス・D・エースのみ見逃せ」とも命じた。

ルフィには原作に来て欲しく無いが、エースは別だ。

アイツは極上のエサとして使えるからな。

とにかく、これで最強無敵の原作メンバーはいなくなつた。  
あのメンバーはルフィさえいなくなれば何ら脅威に値しない。  
後は黙つて見ていれば良いだけだ。

念のため、ナミの故郷であるココヤシ村があるコノミ諸島に駐留  
している部隊の装備をこの世界相応の物にしておこう。

だってあの地域はアーロンが攻めてくるからな。

半端な装備ではアーロンに勝てない。

だったら鹵獲される危険性を下げるためにあの海域の軍艦も外輪式  
の蒸気船にしておこう。

普通の海賊なら普通に勝てるから問題無いだろう。

アーロンが襲つてきて自衛隊が殺されれば海軍にアーロン討伐依頼  
への口実になる。

いくらジンベエが七武海入りの恩赦としてアーロンをインペルダウ  
ンから釈放したと言えど、現地民を虐殺して協力企業の社員が殺さ  
れれば動かざるを得ない。

世界政府や天竜人から圧力をかけるように要請するから断るなど不  
可能にしてやる。

まあ、無くても世界政府の支持は取つてるから海軍に圧力をかけ  
られなくは無いが、天竜人の支持を得た方が更なる圧力をかけられ  
る。

天竜人に海軍に対して圧力をかけるよう要請してもしてくれないだ  
ろうが、天竜人が支持しているという事実を勝ち取れば無言の圧力  
になる。

クソの役にも立たない奴等だがその名前は使える。  
ていうかそれ以外何も無いしな。

グランドラインに入って3年。  
やはり技術レベルはかなり上がった。

戦艦にしても蒸気タービンが完成。

超弩級巡洋戦艦の金剛級が完成。

今までよりデカく、早い戦艦が完成。

主砲も薩摩級の30cmから36cmになったから攻撃力もかなり  
上がったし、速力は27.5ノット出る。

これならカームベルトでも楽に走破出来る。

他にも戦艦として伊勢級戦艦を建造中だ。

金剛級は36cm砲を4基だが、伊勢級は36cm砲を6基積んで  
いるから攻撃力はかなり上だし、装甲も戦艦だから分厚い。

ちなみに戦艦の訓練を行っている場所はカームベルトだ。

あそこなら慢心なんてあり得ないし、相手に事欠かない。

一応戦艦同士や艦隊での訓練もしてるけどね。

航空機の開発が進み、水上機の開発に成功。

これに伴い、水上機母艦である若宮級も建造した。

ハッキリ言ってまだ性能が低いからあんまり役に立たないが、技術  
レベルの向上とノウハウ獲得のためだ。

陸上機のレベルも順調に上がってるからそろそろ艦載機の開発も進

める。  
ちなみに陸上機のレベルは木製複葉機で、全金属製単葉機はまだ出てない。

トランジスタが完成した。

これで電子技術はかなり上がった。  
ちなみに現在は集積回路を開発中。  
何か電子技術だけ物凄い早さで進んでいるな。

トランジスタ開発により、人工衛星開発も本格化した。

ロケット技術についてはもう大部分が出来ているから、これからは衛星開発だ。

人工衛星さえ出来れば世界地図を描けるようになる。

この世界はまだ未開な地が多すぎて世界地図が無い。  
だから衛星を打ち上げて誰よりも早く情報を得られればかなりの優位に立てる。

医療技術もかなり上がった。

出来るなら医療大国、ドラム王国にも進出したかったが、ワポル統治下のドラム王国ではとてもじゃないが安心して商売出来ない。

やっぱりワポルが黒ひげから逃げた後に上陸するしか無いか。

そうになったらワポルと一緒に逃げたイツシー20だっけ？ を捕らえねる必要があるな。

ていうか、アイツ等以外いらぬし。

医療技術の発達によって熱帯地域のウイルスのワクチンや予防薬が

完成。

これでジャングルでも恐る必要は無い。  
と言ってもリトルガーデンみたいな太古の島に上陸しても無意味だ  
がな。

流石にあの島に進出しても得られるのは学術的価値だけか。

まあ、一応調査団を派遣して恐竜等、太古の生物や環境を調べるの  
も悪く無いか。

自動車技術もかなり上がった。

燃費も良くなったから長距離を走れるようになったし、大型エンジ  
ンの開発でトラックも完成した。

しかし走ってるのは俺の島だけだからあんまり意味無い。

大陸がレッドラインぐらいしか無いから自動車の価値があんまり無  
いんだよなあ……。

17 天竜人との交渉（前書き）

この小説はご都合主義です。

## 17 天竜人との交渉

グランドライン進出から3年が経ち、ようやくシャボンティ諸島に到達した。

その気になれば直ぐに行けたのだが、地盤を固めながら進んだため原作に比べて3倍の時間がかかった。

本当ならもう少し後に行く予定だったが、もうすぐジンベエが七武海入りを果してアールンをイーストブルーに解き放つだろうから、アールン討伐を海軍に依頼するには天竜人の協力が必要だ。

まあ、無くても世界政府の支持は取ってるから海軍に圧力をかけられなくは無いが、天竜人の支持を得た方が更なる圧力をかけられる。天竜人に海軍に対して圧力をかけるよう要請してもしてくれないだろうが、天竜人が支持しているという事実を勝ち取れば無言の圧力になる。

クソの役にも立たない奴等だが、その名前は使える。ていうかそれ以外何も無いしな。

シャボンティ諸島には商会総帥である俺自身が赴いた。

本当は来たくなかったが、使者を送るだけでは天竜人の不興を買いかねないからな。

シャボンティ諸島に着いた俺は天竜人の屋敷に行き、定期的に行っている献金と献上品を差し出した。

更に今回は

「遂に我が社も天竜人様が治めるシャボンティ諸島にまで来る事が出来ました。

つきましては、その記念としまして天竜人様に捧げるためだけに作

った極上酒『竜神酒』も納めに参りました。

これ以上の美酒は無いと断言出来る極上酒で、正に天竜人様に相応しい酒でございます。

御賞味下されば望外の喜びです。」

と、グランドラインに入る前からの付き合いの側近にその酒を渡した。

酒は何度も献上しているからそんなには警戒しないだろう。

多分毒見はするだろうが、何ら問題無い。

何せ竜神酒は麻薬入りの酒だ。

それも天竜人のために麻薬の純度を70%に上げた極上品だ。

ちなみに傀儡にした王に献上している酒の純度は精々50%の粗悪品だ。

別に麻薬を広める気は無いからあんまり生産してない。

だから天竜人のためだけに作ったというのは嘘では無い。

酒自体も本当の極上品で一本軽く500万はする。

間違いなくこの世界一の極上酒と言えるだろう。

だから何ら嘘は言っていない。

数日後、天竜人のロズワード聖からの召喚命令が来た。

俺は正装した後に、召喚命令を言い渡しに来た奴の案内でロズワード聖の屋敷に 来て、応接室のような場所でひざまつきながら待った。

しばらくひざまつきながら待っていると、護衛なのか何人かを連れてきながらロズワード聖が入ってきた。

「お前があの酒を持ってきた男かえ？」

俺の評価は酒を持って来ただけかよ。

「はっ。」



北郷商会総帥、北郷一刀と申します。

本日は天竜人様、ロズワード聖とお話し出来、感動に震えております」

俺のお世辞にロズワード聖は何も反応せずに立っている。

まあ、この程度は慣れているからな。

いや、当たり前だと思っっているんだろう。

俺も天竜人に転生したかったぜ。

「うむ。

あの酒は我等天竜人のためだけに作った極上酒らしいな」

「はっ。

最高の材料、最高の技術、手間暇をいとわず作った極上酒と自負しています。

御賞味頂けたでしょうか？」

「うむ、あの酒は確かに極上酒だった。

今まで飲んだどの酒より美味だった。

そのあまりの美味さに直接お前に褒美の言葉を言いたくなっただえ」

「それはそれは、ありがとうございます。

お口に有ったようで何よりでございます」

「あの酒…竜神酒と言ったか？」

今後も竜神酒を献上するのだえ」

「はっ！　そこまで気に入って頂き誠にありがとうございます。

竜神酒はご指示通り、定期的に献上させて頂きます」

ロズワード聖はもう何も無いのか帰りそうだが、俺はここからが本題だ。

「ロズワード聖。

実は…1つお願いしたい事がございます」

俺の言葉に側近が「無礼者！」と怒鳴るが、麻薬がまだ効いてるの

かロズワード聖は上機嫌そうに

「よい。

何だえ？　お願いとは」

「はっ。

恐れながら我が社、北郷商会の後見となって頂きたいのです」

「後見？」

「はっ。

我が北郷商会は世界中で商売を営んでいるため、海賊や魚人など面倒な輩に出会う事がよくあります。

海賊など人間が相手なら我等でも何とかなるのですが、魚人等の亜人相手ではどうにもならず、海軍に応援を要請しております。

しかし、海軍は1企業の我々の応援要請に素早くは動いてはくれず、甚大な被害を被っております。

そこで天竜人様でいらっしやるロズワード聖に後見になって頂ければ、海軍も我が社の要請に迅速に対応してくれるでしょう。

ですから何卒、我が社の後見になって頂けないでしょうか？」

俺の長い説明にロズワード聖は面倒そう。

「勿論、後見になって頂けるなら今まで以上の献金や献上品、更に竜神酒よりも極上酒を開発し、直ぐにロズワード聖に献上致します」  
そう言つて更に頭を下げる。

原作を見る限りロズワード聖は天竜人の中ではまだマシな部類の筈だ。

少なくともバカ息子の無駄遣いをたしなめたりしている場面はあった。

俺の更なる極上酒という言葉に食いついたのか、ロズワード聖は少し悩んだ後に

「……あい分かったえ。

お前の会社の後見になってやる」

その言葉を聞き、俺はひざまついたまま礼を言う。

「ありがとうございます。」

これで我が社も安泰です。

ロズワード聖には深く御礼を申し上げます」

「うむ。」

では酒を頼んだえ」

そう言つてロズワード聖は退室した。

よし、これで海軍に対しては上に立てる。

何せ天竜人直直からの後見承諾を得たんだ。

それにあの後、側近に天竜人、ロズワード聖が北郷商会の後見になったという証明書も発行して貰つたから証拠になる。

サインは本人が分らないが天竜人のサインが書かれた証明書だ。

何よりも効力を持つ。

ちなみにこのシャボンティ諸島にも北郷商会の出店はしたが、吸収合併等を行わず普通の店舗を置いただけだ。

何せここシャボンティ諸島では天竜人がいるからな。

下手に市場を独占すると天竜人と会う機会が増えてしまう。

出来る限り近付きたくも無いからシャボンティ諸島では細々と商売する。

それとロズワードが後見になつた事で商会の経営に口出ししないように後日「雑事は私が全て行いますのでロズワード聖はそのような面倒事に関わる事はありません」と付け足した。

ロズワードも「うむ、分かった」と返したからこれで経営は今まで通り俺が握る。

多分何も言つては来ないだろうが、万が一があるから一応言質は取つた。

まあもしそういう事態になったら約束なんて簡単に反故して口出ししてくるだろうが、その時はのりくらりとかわすか、世界政府との全面戦争が始まる。

どちらかが死ぬまで終わらない大戦が勃発するだろう。

ちなみにこの後見については五老星にも通達済みだ。別に直ぐに知る事になるだろうが、一応知らせといた。五老星に天竜人の権力が及ぶか分からないが、牽制程度にはなるだろう。

それに、これを口実に向こうが攻めてきても問題無い。

それならこちらに大義名分が出来るから思う存分滅ぼせる。

まだ原爆が出来ていないから完璧とは言い難いが、間もなく完成するだろうからそれまで持ちこたえれば必ず勝てる。

## 18 絶対包囲

海軍本部元帥、センゴクはまた頭を抱えていた。

「……………まさか天竜人まで味方につけるとは……………」  
センゴクが憎々しげに見ているのは報告書類。  
その内容は「天竜人が北郷商会の後見になった模様」というのだっ  
た。

まさかと思い、センゴクは天竜人の側近に事実確認をした所、側近  
から後見証明書を見せつけられるという返答が帰ってきた。

「……………これで我々は北郷商会に手を出せなくなってしまった」  
何故なら海軍に命令を下す世界政府は北郷商会の多額の献金と海賊  
の大量討伐のせいで非常に好意的。  
むしろ海軍よりも自衛隊を頼りにしている者達もいる。  
そこに絶対的権力を持つ天竜人が北郷商会の後見になったのだ。  
最早北郷商会が余程の事をしない限りは手出し所か探る事も不可能  
になってしまったのだ。

決して口には出さないが、あの我が俣クソ野郎共にどうやって後見  
になることを了承させたのが気になる。

というより、天竜人にどうやってたら自分の意見を通させたのか是非  
ご教授願いたいのだが北郷商会が教える筈無いし、天竜人を探るな  
どバレたらとんでもない事になる。

仮に探れば北郷商会が嗅ぎ付け、天竜人に報告するだろう。

そもそも天竜人を探るといふ行為自体やってはいけない事だから無  
理だ。

「第一次調査では北郷商会は秘密の艦隊を有しているのではないか？ という報告が入ったというのに、これでは更に深部を探る第二次調査が出来ない」

やはりあの巨大な戦艦達が誰にも目撃されていないというのは不可能で、極希だが目撃情報があったのだった。

と言っても普通は誰も信じず、北郷商会も否定しているので噂以上にはならなかった。

「しかも、もし北郷商会から海軍に応援要請があったなら断れない所か、何をにおいても優先的に艦隊を派遣しなくてはならなくなってしまう」

北郷商会からの要請とは、世界政府からの明確な圧力と天竜人からの無言の圧力をかけられるからだ。

もし海軍が要請を無視すれば北郷商会は世界政府に報告する。

そして世界政府も北郷商会に言われるままに海軍に圧力や命令を出させる。

オマケにそこに多分本人は何も言っでは来ないだろうが、天竜人の無言の圧力がある。

何せ北郷商会の後見に天竜人がなっているんだ、もしその要請を断るといふのは婉曲的に天竜人の命令を拒否した事になる。

そんなことは許されない。

だから北郷商会の要請（命令）に海軍は逆らえないのだった。

「…………ふふふ。」

まさか海軍が1企業の言いなりになるとはな……………。

唯一の救いは北郷商会がバカな要請はしてこないだろう。という事だな」

そう、北郷商会は基本的に何ら法は犯してないし、むしろ海軍の役に立ってくれている。

北郷商会の私兵隊、自衛隊の基地がある島では何かが起きたら海軍基地では無く、自衛隊の基地に通報する者達の方が多いのだ。基本的に自衛隊が犯罪者を確保したら海軍基地に引き渡すので一応こちらの顔も立ててくれている。海軍としてもとてもありがたい。だからこそ何も出来ない。

もし北郷商会がその有り余る権力を利用して好き勝手動くのなら海軍も抵抗出来るのだが、北郷商会や自衛隊は模範的で何ら欠点が無いので反撃材料が見つからない。

唯一なりそんな秘密艦隊や兵器についても存在を否定されれば強くは突っ込めない。

それに、仮にその秘密艦隊等があったとしても何の罪で裁けば良い？ただ商社が自衛隊のために艦隊を建造してたや、商品にするためだつたと言われればそれで終わりだ。

それにそんなことをすれば間違いなく世界政府から明確な圧力をかけられるだろう。

何せ別に悪いことでは無い。

精々が過剰防衛と注意勧告程度でしかない。

あまりにも超ハイリスク、超ローリターンなのでやってられない。

「ふふふ……………」

我々は完全に包囲されたのだな……………」

そう、海軍は北郷商会に完全に包囲されていた。

自分達に命令を下す世界政府や天竜人を完全に味方につけ、市民は北郷商会に頼る。

最早海軍に逃げ道は無かった。

## 19 アーロン放流

更に2年が経ち、グランドラインに進出して5年目

フィッシャータイガーが死に、アーロンが黄猿に捕まりインペルダウンに収監された。

そのままインペルダウンに居れば良いモノを、ジンベエの野郎が七武海加入の引き換えに解き放ちやがった。

一応商会として抗議するが、別に商会がアーロンの被害にあった訳じゃ無いからあんまり強くは言えない。

まあ、でも「もしアーロンが我が社に被害をもたらした場合迅速な処理をお願いしますね」と約束を取れたから良しとしよう。

これで海軍は北郷商会から応援要請が来たら可急的速やかに応じるしか無い。

何せ散々注意したのにそれを無視してアーロンを解き放ち、それで市民に被害が出たら海軍の責任だ。

放置すれば海軍のイメージダウンは避けられない。

後はアーロンがコノミ諸島に来るのを待つだけだ。

既にコノミ諸島の自衛隊の数は必要最低限以外は異動させたし、武器もこの世界相応にしてある。

それに水上戦で勝てるとは思えないので駆逐艦も下げ、代わりに蒸気船を常駐させている。

これで自衛隊員を皆殺しにされ、軍艦を全て沈められても大した被害は無い。

精々が死んだ自衛隊員の家族にやる遺族年金ぐらいだ。



それと商会の店舗もデカイ所は改装工場や建て直し等の理由で臨時休業にしよう。

そうすれば人員も減らずに済むし、商品の略奪も無いだろう。

　　またもや原作崩壊が起きた。

赫足のゼフ率いるクック海賊団がグランドライン入りしたが、入口の島付近で自衛隊に殲滅された。

他の海では凄くてもグランドラインでは小物でしかなかったのは取らず。

足技を警戒して念のために船には近付かず、砲撃で船を沈めて機銃掃射で全員射殺したらしい。

流石の足技も海の中で機銃で撃たれば何も出来なかったようだ。

これで黒足のサンジは登場しないな。

多分サンジは普通にコックをやって終わるのだろう。

もしくは嵐に巻き込まれて奇跡的に無人島に辿り着けてもゼフがないから食糧は無いだろうから1週間保たないだろう。

いや、雨水だけでも奇跡が起きれば2週間保つかも。

まあ、どっちにしろ原作よりは保たない。

もしかしたら自衛隊の船が見つ付けてくれるかも知れないが、そんなことが起きればまさしく奇跡だ。

　　アラバスタにも進出した。

まだオアシスもあるし、水不足も原作よりかはマシだから今の内に進出だ。

こんな砂漠だらけで口クナ資源も無さそうなアラバスタに進出した

目的はバロツクワークスの破壊、サー・クロコダイルの逮捕だ。クロコダイルは何となく俺と性格が同じそうだから出来るなら殺しておきたい。

だが既に七武海入りしてるから流石に手は出せない。

だから数年後にニコ・ロビンと合流してバロツク・ワークスを創設して理想国家建国を始めるまで待つ。

アラバスタ王国転覆を企てているとして海軍に通報すれば良い。ダンスパウダーを輸入しているとかで突き出して背後関係を洗えば俺同様、幾らでも埃が出てくる。

ああいう奴は後々脅威になりかねないから潰しておくに限る。

本当なら確実に殺しておきたいが、七武海は海軍の配下だから海軍に任せるしかない。

それに、インペルダウンに収監されればルフィはいないから出られないだろうしな。

とりあえず今は出店して勢力拡大だ。

オアシス・ユバにも出店していずれクロコダイルが砂嵐を何度もぶつけてくるだろうから、それを口実にしても良いだろう。

クロコダイルの理想国家建国は良い考えなんだけどさ、バロツクワークスを創設する意味あったか？

あんな犯罪組織を作ったら自分の首を締めるだけなのに。

何で秘密組織の癖に大々的に動くんだよ……。

全員がコードネームで呼びあい、バロツクワークスのマークが入った船で移動する。

秘密にする気無いだろう？

何で俺みたいに商社を装ったりしない？

何もかもが中途半端。

そついう所がどっか小物臭するんだよなあ……。

また戦艦のレベルが上がった。

僅か2年でここまで上がるか？ という脅威的速度だ。長門級を飛ばして加賀級戦艦が完成した。

最初は長門級で良いかなあと思っていたが、既に加賀級を建造出来る技術を持ってたし、攻撃力が高い方が良い。という理由で長門級を抜いた。

にしても加賀級は全長が234mあるから十分大型海王類とタメを張れるな。

攻撃力も41cm砲5基だから今までと比べ物にならないほど高い。ちなみに現在、紀伊級戦艦を建造中だ。

これが完成すればそろそろ戦艦の建造は休止だな。

これ以上作っても仕方ないし。

出来るなら大和級までは作りたいがな。

でも戦う機会無いだろうから無駄だしなあ。

ぶっちゃけもうカームベルトあんまり怖くないし。

航空機の技術もかなり上がった。

ようやく全金属製単葉機が出来たからな。

ちなみにこの世界でも航空機は基本的アメリカを真似する。

やっぱり日本軍の長大な航続力や火力は魅力的だが、やはり防弾装備が無いと…。

この世界なら落とされる危険性は限りなく低いが、あり得ない文明を持つ国があるから警戒するために必要だ。

それに、バカデカイ鳥と戦う事にもなるからタフさが必要なのだ。

機体はP-36を基にして武装は12.7mm機銃4基にした。

既にデカイ鳥には7・62mm機銃ではあんまり効果は無い事が分かったからな。

海上機はF4Fを基にした。

最初はF2Aを開発したのだが、要求性能を満たせなかったから繰り上げてF4Fにした。

他にも輸送機としてC-47を開発したし、爆撃機として四発重爆のB-17を開発した。

まだ使い道が無いが、いずれはドラゴンを殺すために爆撃でもしようかな？

反乱軍とかマジ邪魔。

艦載機を開発したんだから本格的な空母も建造した。

戦艦改装型空母を作る必要は無いから初めから空母として建造して、飛龍級空母を作った。

サイズには不満があるが、これからデカクしていけば良い。

既に翔鶴級も建造中だし。

信じられない成果が上がった。

何と人工衛星打ち上げ成功。

通信衛星を打ち上げて送信したらちゃんと返事が帰ってきた。信じられん……。

まだ10年足らずで人工衛星打ち上げが成功するなんて。

確かにグランドラインに来てからとんでもない発想の奴や天才様が大勢いたし、俺の未来知識があるが、こんなに早いなんてあり得な

い。

天才達に設備が整った研究所、豊富な資金、尽きない原材料や実験台、未来知識を渡したらとんでもない速度で技術レベルが上がっていく。

あまりの早さに自重命令を出したが、この様子では変わってないらしい。

まあ、別に悪く無いから良いんだけどさ……。

何か………育てていく内にとんでもない速度で進化し続けるモンスターが出来上がった気分だ。

俺に絶対の忠誠を誓ってるから良いんだけどさ………。

このまま行けば原作に入ったら間違いなく戦後のレベルに達するな。もしかしたらベトナム戦争辺りまで行くかも。

## 20 アーロン捕獲

グランドラインに来て6年目、待ちに待った報告が届いた。

コノミ諸島のココヤシ村に駐留している自衛隊員から緊急連絡が届いた。

ちなみに緊急時の連絡は直接俺のいる基地に繋がる。

「本日正午、東の海、コノミ諸島、ココヤシ村に駐留している隊員から緊急連絡が入りました。」

『ノコギリのアーロン率いる魚人海賊団がコノミ諸島に接近、直ぐ様迎撃処置を取ったが警戒船は沈められ乗員は全滅！！』

その後地上戦を仕掛けたが全く歯が立たず、このままでは地上部隊も全滅する！！

早急に援軍を乞う！！』との事です」

俺の執務室には報告してくれた通信参謀は勿論、各幕僚も勢揃いしている。

「……………最後の通信からどれくらい時間が経った？」

「約2時間です」

「……………そうか……………」

ならコノミ諸島の隊員の生存は絶望的だな……………」

俺の考えに全員賛成なのか誰も何も言わず、俺の指示を待ってる。復讐を。

魚人共の首を取れと。

「海賊団を率いているのはノコギリのアーロンだと言ったな？」

「はい」

「去年インペルダウンから釈放された魚人か……………」

やはり釈放などさせるべきでは無かったか」

去年ちよっとした騒ぎになったのはまだ記憶に新しい。

そのため幕僚達も頷く。

「これがもしアーロンで無ければ早急に援軍を派遣して魚人共を焼き魚にしてやるのだが、今回は海軍がアーロンを釈放した事が原因だ。

だから責任は海軍に取って貰う」

自分達で始末するのではなく海軍に任せるのか？ と何人かの幕僚は不満気だ。

「まあ落ち着け。

確かにこれ程の屈辱を受けたのは自衛隊創設史上初なのだから自分達で処理したいのは分かる。

それに魚人用に開発した弾丸や毒ガス等々様々な対魚人用兵器を開発したのだから実戦に使いたいのも分かる。

しかし、今回の事の発端は海軍の不手際。

それをハッキリとさせるために私自ら海軍本部のセンゴク元帥にアーロン逮捕を依頼する。

残念ながら始末は出来ないだろうが、今度こそ二度とインペルダウンから出させない。

それが殉職した隊員達にせめてもの手向けだ」

俺の命令を聞き、全員が敬礼して退室していった。

さあて、待ちに待った瞬間だ。

散々あんだだけ警告したんだ。

それが現実になった事を知ったらセンゴクはどうなるかな？

こういう時のために開通させたセンゴクのオフィスに直接繋がる電伝虫にかけた。

『はいセンゴクです。』

何の御用でしょうか？』

俺専用の電伝虫だから一々誰かとは聞かない。

「本日正午、東の海、コノミ諸島付近の海域にノコギリのアーロン率いる魚人海賊団が出現しました」

「…何ですと？」

「コノミ諸島駐留の自衛隊は軍艦を出して海上戦を仕掛けましたが、魚人に海の上で勝てる訳も無く、全滅しました。

そしてココヤシ村に上陸を許してしまったので次は地上戦を仕掛けましたがやはり常人が魚人に勝てる訳も無く崩壊寸前に追い込まれ、生き残った隊員が報告をしてきました。

そして最後に通信があつたのは2時間前、それ以降はありません」

「……………」

「念のためにコノミ諸島の基地全てと連絡を取りましたが、全て繋がりませんでした。

この事からコノミ諸島はアーロンの支配に落ちてしまい、自衛隊は全滅してしまつたと断定しました」

「……………」

「さて……………私が何を言いたいのかはもうお分かりですよね？」

「……………はい、至急コノミ諸島に海軍を派遣してアーロンを逮捕せよ、ですよね？」

「はい、出来るなら我々の方であの魚人共を皆殺しにしてやりたい気持ちですが、しかしあえて貴方に連絡した。

…何故かは分かりますよね？」

「……………はい、アーロン一味が東の海に出たのはジンベエの七武海入りと引き換えに海軍がアーロンを釈放したため。

だから海軍が責任を取れ。という事ですよね？」

「まさしくその通りです。

それに、世界政府を経由せず貴方に直接お願いしている理由についても理解して頂けてますよね？」

海軍を動かすなら世界政府を経由した方が早いのに、わざわざ直接センゴクに伝えたのは海軍を立ててやっているから。



一応北郷商會が海軍にアーロン逮捕を依頼した形になるからな。

『…はい、分かっております。』

海軍を立てて頂き誠にありがとうございます。

至急、本部の中将以上の者をコノミ諸島に派遣します。』

「我が社の依頼に依えて頂き誠にありがとうございます。」

では、アーロンの支配に晒されている市民のためにも早急な解決を期待しております。」

そう言つて電伝虫を切つた。

これで良い。

センゴクにちゃんとこちらの要望と誠意を分かつて貰えたから動かない訳は無い。

これでもし早く動かなければ直ぐに世界政府に通報して圧力をかけさす。

そうなれば海軍の面子丸潰れだし、北郷商會加盟の新聞社に 海軍の不手際とコノミ諸島の市民を軽視しているなどのネガティブキャンペーンを全紙でしてやる。

それはセンゴクも分かつてるだろうから早急に対処するだろう。

後は待てば良い。

1週間後、アーロンを逮捕したとセンゴクから連絡があつた。

スゲエ早いな……。

てつきり早くても2週間はかかると思つてたのに、まさかその半分とは。

どうやら此方の誠意を分かつてくれたらしい。

俺の通報後、センゴクは直ぐに黄猿をイーストブルーのコノミ諸島に派遣。

アーロンパークを建設していた所に黄猿来襲。

当然魚人達は抵抗したが黄猿に勝てる筈も無く、アツサリと捕まった。そして異例の早さでアーンはインペルダウンに連行され、二度と出る事が無いよう最深部に収監された。

よし、これで厄介事は1つ無くなった。

一応センゴクにはアーン捕縛の礼と多額の寄付をしといた。

多額の寄付に何か言うかと思っただが、既に何か諦めたのかアツサリと受け取った。

まあ、寄付と言っても実質は命令だからな。

受け取る以外の選択肢は無いのだし。

更に北郷商会加盟の全紙に海軍を称える記事を掲載した。

内容は

イーストブルーのコノミ諸島に侵略してきたアーン一味を自衛隊が迎撃したが失敗、北郷商会は海軍にアーン捕縛を依頼した。

すると海軍は極めて迅速に動いてくれてアーン一味を瞬く間に逮捕。

アーンの支配下にあった島民を無事解放した。

という自衛隊を少し落としながらも海軍をかなり持ち上げた内容だった。

この記事に最近低迷気味だった海軍の人気は急上昇。

海軍の下手際は見事隠されたのだった。

やっとアーンが終わった。

ナミがどうなったかは知らなえが、まあ多分解放されただろう。

まだガキだったし、もし逮捕されかけても村の奴等も庇うだろうし。

さあ、次はクロコダイルか……。

アイツはアールン以上に面倒だろうからなあ。

何とか逮捕させよう。

ついでにロビンも一緒に逮捕させちまおう。

何か面倒そうだし。

オハラ生き残りだと通報すれば喜んで捕まえてくれるだろう。

もしかしたら殺すかもな。

まあどうでも良いけど。

遂に原爆が完成した。

誰にも知られないように無人島に地下核実験場を建設し、起爆させた。

起爆は成功、かなり深く埋めたのに結構な地震が発生した。

これで恐れるモノは無くなった。

魚人だろうが何だろうが核には勝てない。

オマケにこの世界に大陸はレッドラインしか無く、島しかないから核攻撃しても被害は最小限に抑えられる。

さあ、次はプルトニウム型原爆の開発だ。

それに原子炉が完成すれば莫大なエネルギーを得られるから無給油で10年以上船を稼働出来る。

この世界には正に至宝になり得る。

戦車技術も向上した。

ようやく近代的な戦車としてBT-7快速戦車が完成。あんまり活躍する機会が無いから微妙だが、陸上の巨獣討伐等で意外にも役立つていた。

まだ45mm砲だから攻撃力は低いけど、もうすぐ76.2mm砲を持つT-34/76中戦車が出来るだろう。

海列車のパシフィック・トムが完成して全線開通した。

海列車があるなら普通の蒸気機関車があっても不思議は無いだらうから蒸気機関車を公表した。

群島世界だからあんまり必要性は無いけど、とりあえず俺の島に線路を引いた。

四国ぐらいの大きさを持つというそれなりにデカイ島だからかなり重宝された。

そるにアラバスタ王国みたいに結構デカイ国もあるからそっち方面にも売り込もう。

とんでもない事実が発覚した。

北郷商会は、というか俺が反能力者派だから能力者や悪魔の实の処分を推進している。

商会の拡大のおかげで今までかなりの数の悪魔の实や能力者を始末出来たのだが、最近、処分した筈の悪魔の实が新たに発見された。今まで発見した悪魔の实は全て焼却処分していたからこれにはマジで驚いた。

更に、今まで始末した能力者の悪魔の实まで復活しているから厄介

だ。

どうやら悪魔の実は処分しても超自然現象のせいなのか、新たに生まれるらしい。

これは不味い。

これまで結構な数の能力者や悪魔の實を処分してきたからこのままでは復活してしまう。

それに、今まで通りの処分方法では悪魔の實は無くならない。

そこで、今後はやり方を変えた。

能力者については今まで通り必ず殺す。

悪魔の實については海楼石の箱に封印し、更に箱をコンクリで固めて地下施設に保管することにした。

これなら實が消える訳ではないから新たに生まれる事は無くなるだろう。

## 21 医者ゲット

グランドライン進出から8年目。

医療大国ドラム王国で訳分かんない肅正が始まった。

何故か国王ワポルに反抗的な医者は国外追放に遭い、その結果ワポルに忠誠を誓わない医者はいなくなりドラム王国に医者は20人しかいなくなつた。

イッシー20とか言われてるらしい。

何故医者減らしたのかというと、ドラム王国では医者にかかるためには国王ワポルに忠誠を誓い、ひざまついて頭を下げなくてはいけないとの事だ。

頭がイカれるとしか思えない。

流石無能の二世だ。

国外追放の憂いにあつた医者達に北郷商会へ勧誘した結果、全員が入つてくれた。

20人の優秀な医者は残念だが、それでも医療大国という名だけあつてそれなりの数がいまし、技術レベルも高い。

良い買い物をしたものだ。

欲しかった高度な医者が大量に手に入つたんだからな。

出来るならくれはも欲しかったけどあの婆さん破天荒だし扱いづらいからいらぬ。

精々チヨッパを鍛えてれば良い。

ニコ・ロビンがグランドライン入りしたという報告が入った。ウエストブルーからリヴァースマウンテンを越えて入ってきたようだ。

ちなみにリヴァースマウンテンは衛星で監視してるから誰が入ってきたかは直ぐに分かる。

ロビンはクロコダイルを釣るための大事なエサだから放置するよう命じた。

まだ海賊じゃないから問題無いだろう。

アイツの存在価値はその程度だ。

八十八の実の能力は結構汎用性高くて使い勝手良いが、海楼石弾頭の銃には敵わない。

それはクロコダイルにも言えるんだけどね。

後はクロコダイルと合流してくれるのを待つだけだ。

多分来年あたり合うだろう。

それまでは衛星監視に留める。

そしてバロックワークスを創設したら何人かスパイを潜入させよう。

一応証言や証拠にもなるしな。

紀伊級戦艦が完成した。

41cm砲を5基搭載してるのに速力は30ノットに達する高速戦艦だ。

これで戦艦はほとんど完成しきったからこれ以上の建造は必要無いが、前回の世界では作らなかつた大和級も建造しとこう。

それで本当の最後になるだろう。

現在は旧式戦艦の近代改装作業をしている。

一々新たに作るのには面倒だし金もかかるから改装に留める。

それでも性能はかなり上がる筈だ。

翔鶴級空母も完成した。

これで発展する航空機に追いついた。

鳳翔級や飛龍級では航空機とのレベルが合っていないからな。

現代に比べれば小さい小型空母でしかないが、この時代ではかなり巨大だ。

まあ、比べるのを間違っているがな。

ちなみに現在エセックス級空母を建造中だ。

初めから甲板をアングルドデッキにしてあるから発艦しながら着艦も可能だ。

潜水艦の開発も順調だ。

ガトー級潜水艦が完成した。

しかし、このグランドラインでは水中にとんでもない化物がいる事があるから潜水艦は微妙に危険だ。

だから現実世界程は活躍しないだろう。

新たな航空機が完成した。

陸上機ではP-47Nサンダーボルト。

海上機ではF8Fベアキャット。

どちらも急に飛んだが、技術レベルから見ると一々1つ前を作る意味が無いから一気に飛ばした。

どちらも20mm機銃4基を装備してるから攻撃力はかなり高い。

コイツ等なら巨鳥も簡単に振り切れるし、撃ち落とせる。



それに爆撃能力もあるから対艦攻撃も可能だ。  
だからわざわざ爆撃機や攻撃機を作る事は無かった。  
必要無いからな。

にしてもレシプロ式は最終形態に入ったな。

これ以上は開発してもあんまり意味ないからやっぱりジェット戦闘機を作る必要があるな。

と言っても既に開発中らしい。ジェット技術は既に教えてあったからな。

まだジェット機は出来てないのにミサイルは完成した。

防空ミサイルや戦闘機に付ける対空ミサイルなど様々なミサイルが完成した。

電子技術やロケット技術が異常な程進んでいるからか、この分野の開発速度は正に異常だ。

敵機が無い状態でミサイルは必要無いかと思われたが、この世界は非常識な生物が沢山いるからのには困らない。

いつか新世界にいった時のために開発は進めとく。

原爆投下が可能なB-29が完成した。

今まで原爆は出来ただけで原爆を投下出来る爆撃機は無かったからな。これで長距離爆撃が可能になったし、ある程度は好きな場所に原爆を投げる。

ブルトニウム型原爆も完成したから、今は水爆の開発をしている。

この世界は群島世界だからメガトンクラスの水爆で島を攻撃すれば島は無くなる。

まあ、もし核攻撃する必要があっても使うのは戦術核ぐらいだろうな。

流石にわざわざ戦略核を使う必要無いし。

ちなみに現在ICBM（大陸間弾道ミサイル）も開発中だ。

SLBM（潜水艦発射弾道ミサイル）はまだ発射出来る潜水艦が出来てないから保留。

研究はさせてるがな。

ICBMさえ出来れば例えサウスブルーにいても新世界を攻撃可能になる。

そうなれば最強だ。

その他サイド

イーストブルーのある島にて

その島は平和だった。

いや、その島だけではない。

イーストブルー全体が平和だった。

何故ならこのイーストブルー全体に北郷商会加盟店と自衛隊の基地が点在するからだ。

「いやー…。」

最近とんと海賊を見なくなったなあ？」

漁師が仲間に話しかける。

「全くだ！

10年程前まではそこら中に海賊がウヨウヨいたからな。

おかげ口々に漁に出られなかった」

昔を思い出したのか二人は顔をしかめる。

「あの時代じゃ、ちよつと沖に出て漁をするだけで命がけ。運が悪かったら海賊に襲われるからな……」

「オマケに海賊が襲ってきても俺達を守ってくれる筈の海軍は全然来てくれない。」

例え来ても全部終わった後だ！」

海軍に恨みがあるのか二人はヒートアップする。

「大体、海軍は偉そうな事ばかり言う癖に肝心な時には全然役に立ちやしない！」

アイツ等は人口が多い島にしかいねえからここみたいな小さな漁村は巡回もしない……」

「村を襲われたとしても全然気付かないし、こっちから通報しないと来ない！」

挙げ句の果てに襲撃後に通報したら「何で海賊がいるうちに通報しない！」なんて言っつきやがった！

海賊がいるうちに通報なんて出来るかよ!?

そんなことしたら間違いなく殺される!!

オマケに通報したのに何もしない!!

海賊を追う訳でもなく、ただ書類を作っつて、はいサヨナラだ!!

ふざけやがって!!」

ますますヒートアップする二人。

しばらく海上で海軍に対する愚痴を叫び続けた。

粗方出尽くしたのか二人も落ち着いてきた。

「でも東の海に北郷商會が進出してから一気に変わったな……」

「ああ……」

最初はただ他の海から来た会社としか思わなかったけど……。  
俺達に平和をくれた」

「商会進出と一緒に自衛隊の基地を建設し出した。」

最初は物騒な奴等が来て大丈夫か？と不安になったが、今考えるとバカだったよなあ？」

「全くだ。」

最初は警戒して話しかけられても無視してたよな」

懐かしいように穏やかな顔をする。

「自衛隊の基地が出来てしばらく経ったら、また何時ものように海賊が襲撃をかけてきやがった」

「ああ、また何もかも略奪されるんだろうなあ、て諦めてたよな」

「でもその海賊達に自衛隊は直ぐに襲撃をかけて瞬く間に海賊を撃退した」

「あんどきや驚いたよな？」

まさかあんなに早く出動して、村人を的確に避難誘導してくれたおかげで被害ゼロ。」

海賊も全員捕縛して海軍に引き渡したよな」

「その後自衛隊はてつきりそのことを理由に威張りくさるののかと思いきやそんな事はせず、礼儀は忘れないし、台風が来た時には被害を減らすためにかけずり周り、復興に尽力してくれた…」

「北郷商会の方も被災後は炊き出しや商品の値段を安くしたり、時にはダダで売ってくれるとかして助けてくれたなあ。」

「ああ…。」

更に自衛隊の活動のおかげで東の海全体の海賊の数が激減した。

だから今じゃ沖に出てても安心して漁が出来る」

「本当…北郷商会には頭が上がらない」

「ああ……正に救世主だな」

このような会話が4つの海で最近行われるようになった。

それは住民達が平和を実感出来てきた証拠だった。

住民達は「この平和は誰がもたらしてくれた？」と聞かれれば間違

いなく海軍の名は出さず、「北郷商会や自衛隊のおかげ」と言うだろう。

それほど迄に北郷商会は信頼されている。

もし海軍が北郷商会を弾劾したとしても、住民達はそれを信じず、北郷商会を信じるだろう。

住民達にとってはそれほど迄に北郷商会は最早無くてはならない存在だからだ。

## 22 ワニ動く

グランドライン進出から10年目

サウスブルーからリヴァースマウンテンを越えてグランドラインに入ってきたロビンを無視した結果、原作通りクロコダイルと出会い、秘密組織（笑）バロックワークスを創設した。

あんまりいらなと思うが、まだ初期の内にスパイを紛れ込ませた。ちなみにスパイはそこそこ強いのでフロンティアエージェントのMr.12に任命された。

微妙な立ち位置だけど一応エージェントだからそこそこの任務は貰えるらしい。

大抵は賞金稼ぎの真似事だけだね。

他にもオフィサーエージェントの部下であるビリオンズやフロンティアエージェントの部下であるミリオンズにもスパイは潜入している。

下っぱが意外と良い情報持つてる事が多い。

何せ汚れ仕事や面倒事を上役から押し付けられるからな。

戦艦の改装は順調だ。

真空管からトランジスタや集積回路に更新したからレーダー機能も今までと比較にならないくらい上がったし、他にもレーダー連動射撃装置等様々な新機能も装備させた。

機関も最新式のボイラーやタービンに変えたから速力はかなり変わった。

たかだか数年でここまで変わるのか？ ってくらい変わったな。

エセックス級空母が完成した。

ちなみに最初からアングルドデッキにしたり、ジェット機を運用する事を前提にして建造した。

現在はキティホーク級を建造中。

エセックス級ならジェット戦闘機でも問題無く運用出来るだろう。装備には対空や対艦ミサイルを配備してるから防御力はかなり高い。ちなみにCIWSはまだ開発中。

遂にジェット戦闘機が完成した。

陸上機はF-86Dセイバードッグ

海上機はF9F-6クーガーだ。

いきなり発展型を開発したのは前記したが、既に電子技術等は何世代も先にいつてるからだ。

一々初期型を生産する意味も無いしね。

集積回路が完成した。

これで電子技術は更に上がる。

現在はマイクロプロセッサを開発中。

原子炉も完成した。

これによりこの広大な海を無補給で航行出来るようになった。

早速スタージョン級原子力潜水艦の建造を始めた。

既にVLS（垂直発射システム）は開発出来てたからいきなりスタージョン級から建造を始めた。

でもこの世界では何故か潜水艦はあるからあんまり潜水艦では勝てない気がする。

この世界の兵器ってデタラメだし。

ちなみに原子力空母としてエンタープライズ級も建造中だ。

戦車も新たに開発した。

BT-7からT-34/85にバージョンアップした。

以前の45mm砲から85mm砲に変わったから攻撃力や防御力は比較にならない程上がった。

最早これ以上の戦車は必要無いように思えるが、ここで開発を止めていずれ追い付かれるのは嫌だから開発は続ける。

現在はT-55を開発中だ。

ヘリも開発した。

攻撃ヘリとしてAH-1

輸送ヘリとしてCH-47を開発した。

現在はAH-64アパッチやUH-60ブラックホーク等を開発中だ。

でもヘリだと島から島への移動は難しいからあんまり使い勝手良くないんだよなあ。



商会内でスパイを摘発した。

最初はまたCP9が政府関係かと思ったが、自白剤を大量投与して尋問した結果、バロックワークスの一員と発覚。

更に追求すると北郷商会を乗っ取る計画のための下準備中だったらしい。

まあここまで巨大化した企業だ。

クロコダイルが利用しようと考えても不思議は無い。

スパイが知る限りの情報を吐かせた後、自白剤のせいで頭がイカれたスパイは始末。

そして聞き出したスパイの集合場所を襲撃。

スパイや連絡員を皆殺しにした。

後日、スパイ達の死を新聞に掲載。

正体や死亡理由は不明と発表。

しかし全員分の顔写真を掲載したからバロックワークスにはハッキリと伝わっただろう。

新聞に掲載された後日、何人かが突然退職した。

どうやらこちらが知らなかっただけでまだスパイがいたらしい。

スパイ達は知られる前に逃げようとしたのだろう。

しかし、こっちはそこまで甘くない。

急に退職した者は全員調査するようになっていた。

何時ものなら直接的には調べないが、今回はあまりにタイミングが良すぎるので直ぐ様確保。

そして同じように自白剤で尋問したら全員バロックワークスの一員と判明。

まだ商会に残っているスパイ全員を吐かせた後、残っていたスパイごと今回は秘密裏に始末。

死体はミキサ―で碎いて海に捨てた。

今頃魚の餌になつてゐるだろう。

その後、スパイ達に吐かせた情報からバロックワークスへの中継地点を発見、襲撃をかけて皆殺しにした後、調べたがクロコダイルに繋がる証拠は出なかつたからここで終了。

とりあえずはここで終わらせる。

もしクロコダイルへの証拠があればそのまま行けたが、やっぱりそんなに甘くは無かつたか。

多分見つかる可能性を考えていたんだろう。

処刑した奴等はミリオンズかビリオンズだけでエージェントはいなかつたし。

全員ロクな情報を持つてなかつた。

まあ良いだ。

これで商会への潜入は諦めるか延期するだろう。

潜入すればいかに危険かが分かつただろうし、リスクが高い事も新聞で知らしめた。

後はクロコダイルがまた面倒な事をしないうちに逮捕させれば良い。

## 23 ワニ捕まる

クロコダイルが動き出して更に2年が経ち、グランドラインに進出して12年目

バロツクワークスが出来て1年ぐらいが経ち、クロコダイルがアラバスタ王国に護衛として就いた。

クロコダイルの護衛就任から少しして、急にオアシス・ユバに雨が降らなくなっていた。

しかしその代わりに王都アルバーナに雨が降るようになった。

人々はそれを王の奇跡と称えたが、実際はただダンスパウダーを燃やしたただけだ。

何故ならスパイがダンスパウダーの運搬やダンスパウダーを燃やして雨を降らせたと報告してきた。

これだけでも一応クロコダイルを逮捕出来なくは無いが、まだ弱い。ただ雨の量をコントロールしてるだけじゃ国家転覆には結びつかない。

更に1年経ち、オアシス・ユバに頻繁に砂嵐が襲うようになった。そのため、北郷商会の店舗も砂嵐の被害に遭い、かなりの損害を被ってる。

このままでは更に砂嵐の被害に遭うので店舗をユバからナノハナに移転した。

これでクロコダイルを調べる口実になる。

何せ明らかに砂嵐の頻度が異常だからな。

いくらグランドラインでもこれはあり得ない。

更なる異常として国王ネフェルタリ・コブラにダンスパウダー使用疑惑が浮上した。

港に陸揚げされた荷物を運んでた荷車が壊れ、荷物を包んでいた袋が破れて中から大量のダンスパウダーが漏れ出した。

オマケにその荷物を運んでいた男達は聞いても無いのに何故か「この荷物はアルバーナの国王に届けなくてはいけない」と証言だけしていつて消えた。

そしてそれが切欠で国民はユバや他のオアシスに雨が降らなくなっ  
てしまったのは国王のせいだと思い、反乱軍を結成。

まだ小規模だが、その拡大速度は侮れない。

いずれはアラバスタ王国全土に波及するだろう。

それなのに更に混乱する情報が来た。

何と王女ビビと護衛官イガラムが失踪。

誘拐事件かと思われたが王宮は否定。

アラバスタは更なる混乱に落ちたのだった。

よし、ついにクロコダイルが尻尾を出した。

犯罪組織の創設と反乱煽動、これで決定的だ。

証拠としてスパイが明らかにワニを意識したダンスパウダーを燃や  
す降雨船や反乱を煽動するように書いてある命令書、更にはダンス  
パウダーを運搬してた奴の証言等々、様々な証拠を掴んだ。

これで無罪なら海軍は終わってる。

その時は圧力をかけるしかないな。

さて、久々にセンゴクと話すか。

前は電伝虫だったが、今回は色々証拠書類があるから直接言った方が早いな。

俺は証拠書類を持って艦隊で海軍本部に向かった。

艦隊と言っても帆を持つ装甲スloop艦の船団だ。

流石に戦艦ではいけないからな。

海軍本部の軍艦は確か装甲を持ってたからこれなら違和感はそんなに無いだろう。

海軍本部に着き、受付で

「北郷商会総帥、北郷一刀です。

センゴク元帥に『大変重要な案件があるので至急お会いしたい』とお伝え下さい」

そう言った後に、少しだけ待たされて会議室のような場所に案内された。

そして間もなくセンゴクも入ってきた。

「こうして直接お会いするのは初めてですね。

改めまして北郷商会総帥、北郷一刀です。

本日はお忙しい中、時間を取って頂き誠にありがとうございます」とりあえず挨拶をしとく。

「これは丁寧にありがとうございます。

海軍本部元帥、センゴクです。

さて、今日はどうなされましたか？」

こちらは営業スマイルとは言え笑ってるのにセンゴクは無表情のままだ。

軍人はダメだねえ。

組織のトップが会えば必ず政治的なやり取りになるのに。

「はい、今回も誠に心苦しいですが、海軍さんにあるお願いをしに

参りました」

俺のお願いと聞いてセンゴクは若干反応する。

前回のアーン同様、面倒になるのが分かっているのだろう。

「…お願い…とは？」

「はい、まずはセンゴク元帥。

貴方はバロツクワークスという組織をご存知でしょうか？」

「…バロツクワークスですか……」。

確か最近出来た賞金稼ぎの真似事をしている秘密組織でしたね…。「  
この頃のバロツクワークスはまだ賞金稼ぎで有名だったからな。」

「はい、バロツクワークスは表向き賞金稼ぎをしています、実際  
は大規模な犯罪組織です」

「…犯罪組織…ですか？」

「はい、賞金稼ぎの裏で様々な犯罪を犯しています」

俺はバロツクワークスが行っている犯罪について纏めた書類を後ろ  
に控えていた秘書に出させた。

内容は殺人や誘拐、詐欺、強盗、強姦など様々だ。

スパイの証言書付きだから説得力がある。

「我が社の社員をスパイとして潜入させた結果、このように様々な  
犯罪を犯している事が判明しました」

センゴクは俺が用意した資料を食い入るように見てる。

明らかに犯罪だからな。

これだけでも海軍は動く。

しかしこれではクロコダイルが捕まらないのでここからが本番だ。

「さて、これだけでもそれなりの犯罪組織ですが、これだけならわ  
ざわざ直接貴方に伝えには来ません」。

前回事様、電伝虫で伝えれば事足りますからね」

俺の言葉にセンゴクは顔を上げる。

センゴクも思ってたのか特に動揺していない。

「…何故わざわざ直接来たのかと言いますと……。」

このバロツクワークスのボスがとんでもない大物だからです」

「…大物…ですか？」

「はい、ボスの名前は……サー・クロコダイル」

「……！！ まさか……。」

「そうです。」

王下七武海、サー・クロコダイルがバロツクワークスのボスです」

まさかの人物に流石のセンゴクも目を見開き、驚きを露にした。

「発端はアラバスタ王国での砂嵐被害から始まりました……。ある地域で例年と比較すると異常に砂嵐が襲ってくる事態がありました。しかし、

砂嵐が襲う地域に我が社の店舗があるので、何故こんなに砂嵐が起きるのか原因究明に当たりました所、砂嵐の発生地点はサー・クロコダイルが拠点にしているレインベースからでした。

サー・クロコダイルはスナスナの実の能力者。ならば砂嵐ぐらい簡単に起こせる。

しかし七武海の海賊が何故砂嵐を大量に発生させるのか分からないので、サー・クロコダイルについて徹底的に調査を行いました」そしてまた書類を出し

「その結果、サー・クロコダイルと犯罪組織バロツクワークスと繋がりと判明し、バロツクワークスにスパイを潜入させました」書類の内容はクロコダイルの調査結果で、バロツクワークスと頻繁に連絡を取っている事が書かれています。

「スパイに探らせた所、クロコダイルはある物を集めていました」

「…ある物？」

「ダンスパウダー……という物をご存知でしょうか？」

「……確か雨雲を発達させて雨を降らせる粉でしたね……」

「はい、奇跡の粉とも呼ばれていますが、本来成長して違う地域に降る筈だった雨を無理矢理降らせるという物なので使用は固く禁止されています。」

しかし、あるうことかクロコダイルはアラバスタ王国にて頻繁にダンスパウダーを使用していました」

俺は言い終わるとスパイがダンスパウダーを運搬したことや使用した記録を見せた。

「ただでさえ降雨量が少ないアラバスタ王国でダンスパウダーを使えば使用した地域以外では深刻な水不足が発生します。」

事実、オアシス・ユバでは数年に渡って雨が降らないにも関わらず、首都アルバーナでは頻繁に雨が降ります。

その原因はダンスパウダーを使用しているからです」

「……………」

センゴクは書類を見たり俺の話の話を聞いたり大忙しだな。

「水不足により国民は干上がり、困窮しています。」

そしてそんな中にある事が起こりました。

アラバスタ王国の港町で大量のダンスパウダーが発見されました。

オマケにそのダンスパウダーは国王、ネフェルタリ・コブラの元に届ける予定だったという噂が広まり、国民の怒りが爆発。

各地で反乱軍が結成され、政権打倒に動いています

……………既に察しはつくと思います、ダンスパウダーをわざと発見され、噂を広めたのはバロックワークス。

つまりサー・クロコダイルです。

ちなみにダンスパウダーを運搬していた内の一人がスパイだったのでこれは確定情報です」

センゴクは驚き過ぎたのか最早無表情だ。

「七武海、サー・クロコダイルはアラバスタ王国転覆を狙っています。」



反乱を煽動し、反乱軍を拡大しています。

何故このような事をしているのか？

それを知るためにバロックワークス内を探ってみますと、驚きの人物を発見しました。

その人物とは……………ニコ・ロビン」

またもやセンゴクの目は見開かれた。

「そうです。

悪魔の子、ニコ・ロビンです。

調べた所2年程前に西の海からリヴァースマウンテンを越えてグランドライン入りし、サー・クロコダイルと出会いバロックワークスを設立した模様です」

クロコダイルだけでも大事なのに、オハラ生き残りのロビンまで一緒とは…。

センゴクは遂に頭を抱える。

「以上が確認が取れた情報です。

ここからは不正確な情報と私の推理に過ぎませんが、恐らくクロコダイルはこのまま反乱軍を拡大させて政権を転覆させ、自らがその新国家の王になるつもりでしょう。

でなければこれ程の大掛かりな事に対して収支がつきませんから。

……………それと、これも不正確な情報、というよりは噂でしかありませんが、アラバスタ王国の王宮地下にポーネグリフがあるらしいのです。

そこにオハラの生き残りのニコ・ロビンも一緒にいる。

つまり……………何が言いたいかはお分かりになるでしょう…」

俺の言葉にセンゴクは黙って頷く。

海軍上層部なら最強最悪兵器プルトンの事は知っている筈だからな。俺は名前しか知らないが、名前からして多分核兵器に近いんだろう。

確かにそれなら最悪の兵器だな。

「さて、それをお願いの話ですが。

砂嵐のせいで我が社はかなりの損害を被りました。

もしこのままアラバスタの反乱活動やバロツクワークスの活動が続けば更なる莫大な損害を受ける可能性が非常に高いため、王下七武海サー・クロコダイル並びにニコ・ロビンの逮捕。

そしてバロツクワークスの解散。

以上を北郷商会総帥、北郷一刀の名の元に海軍本部に依頼します」「俺の要請にセンゴクは

「分かりました。

海軍本部の名にかけ、早急に当たらせて頂きます」

センゴクが礼をしながら言った。

「ありがとうございます。

前回同様、この話は海軍さんにしかしていません。

どうかこの気持ちをお汲み取り下さい」

言外に対処に遅れたら世界政府や天竜人からの圧力をかけるという意味があるがな。

「……分かっております。

早急に対処させて頂きます」

「そうですね、それは良かったです。

……ああ、それとこの書類は置いていきますのでどうかお役立て下さい。

他の証拠書類も全てお譲り致します。

……どうか良しなにお願ひします」

此方側のスパイ活動の記録は消去しろ。という意味だ。

「……何から何までありますがとうございます。

ご期待に沿える事をお約束します」

その後、軽く挨拶して海軍本部を後にした。

流石にこれだけの大事だから多少時間はかかるだろうが、あまりに時間をかけすぎるとはいいからそこまですべて時間はかからないだろう。

何せクロコダイルに加え、ニコ・ロビンがいるんだ。

今度こそ逃がさないために出来る限り迅速に動く筈だ。後はゆるりと待つ。

そういえば既にビビとイガラムがバロックワークスに潜入してたな。

まあ、どうでも良いか。

この国難の時に王女が自ら動いて犯罪組織に加担したんだ。

もしかしたらアイツも逮捕されるかもな。

組織に潜入するってことは必ず何かしらの犯罪を犯しただろうし。にしてもバカだよなあ。

イガラムが潜入するのは分かるけど、何でわざわざ王女が潜入する必要がある？

どんだけ人材いないんだよ？

もしビビが捕まってアラバスタ王国王女は犯罪組織に入り様々な罪を犯した。とか報じられたらそれこそ国家の危機になる。

王族が動くって意味を理解してないのか？

センゴクに報告して1ヶ月後。

海軍本部はクロコダイル摘発に乗り出した。

まだ準備段階でしかなかったクロコダイルは突如攻め込んできた海

軍に動揺した。

何せ派遣されて来たのは海軍本部大将青雉、クザンだ。

最初は何の事か分からないと惚けたが、バロックワークスのボスである事を初め、様々な罪状を読み上げられ、更にはニコ・ロビンと手を結んでいるなど、何故知られたか分からないがクロコダイルは最早言い逃れは不可能と思いつつアツサリと捕まった。

相手は大将の青雉だからな。

自分の能力と相性が悪すぎるし。

そして芋づる式にニコ・ロビンも逮捕された。

こっちは捕まれば殺される事が分かっているからか多少抵抗したが、青雉に軽くいなされて結局逮捕された。

バロックワークスについてもクロコダイルが全て自供したから主要幹部も全員逮捕。

ビリオンズも全員逮捕されたが、数が多いミリオンズは何人かは逃げおおせたらしい。

しかし賞金首になってしまったからいずれは同業者（賞金稼ぎ）に捕まるだろう。

ちなみにスパイは摘発前に逃げたから被害無し。

ネフェルタリ・ビビも一旦は逮捕されたが、身元が明らかになると父親のネフェルタリ・コブラが釈放するよう圧力をかけてきたので詳しく取り調べた結果、自国を脅かす組織に潜入して情報収集をしていただけとしてビビとイガラムは釈放されアラバスタ王国に帰国した。

一方、反乱が拡大していたアラバスタでは、あのダンスパウダー騒ぎはクロコダイルが仕組んだ事や、ユバに頻繁に砂嵐が襲う事や

雨が降らなくなってきたの等々、全てはクロコダイルが元凶だったと海軍が説明した事により反乱は徐々に鎮静化していった。このままいけばいずれ反乱は収まるだろう。

そこで北郷商会在砂に埋もれたオアシス・ユバ復活プロジェクトを掲げた。

掘削機械でオアシスがあつた場所を掘ると間もなく水が出てきた。砂に埋もれただけで水脈は枯れてない事は分かつてたから簡単だ。しかしこの事を大きく報じてユバは復活すると広めた。

新たに作ったオアシスを囲むように店舗を出店し、錆びれかけていたユバに活気を取り戻させた。

そして新たに道路や建物を建設するとして大量に雇用を出した。

すると反乱軍に入ったが、最早反乱活動が無くなり無職になっていた若者はこぞつてユバに押し寄せた。

これによってユバは元の活気を取り戻し、反乱も激減していったのだった。

よし、これでクロコダイル編も終了した。

アイツはほつとくと何するか分からねえからな。

原作が崩壊したんだから俺が止めるしか無かった。

ちなみにロビンはクロコダイル同様、インペルダウンに収監されたとなつてはいるが実際は逮捕されて始末された。

やっぱりオハラ生き残りという事が脅威だったからだろう。

極秘に処刑され、センゴクが俺に伝えてきた。

まあ、俺が調べれば簡単に分かるからな。

その前に信用獲得のために話したんだろう。

やはりセンゴクは賢いな。

これで粗方の脅威は取り払ったな。

後の奴等は別に無視して良い。

さあ、そろそろやつと原作の年になる。

ここからが異常な程色々あるからなあ…。

まあそれも事前に潰しまくったからほとんど無いがな。

エースが白ひげ海賊団の2番隊隊長に就任した。

これで白ひげ死亡フラグが立った。

アイツがいないと白ひげを合法的に殺すのは難しいからな。

わざわざ新世界に行って襲撃するか、いずれ出来るICBMで蒸発させるかも考えたが、やはり原作通り死んでいただく。

ついでに黒ひげも殺せば一石二鳥だ。

原作では白ひげ海賊団の大多数に逃げられたが俺は逃がさない。

白ひげを殺せば大海賊時代は終焉に向かう。

まあ、ロジャーが死んだ瞬間に終わりが始まったからな。

超長距離爆撃機B-52が完成した。

爆撃機は勿論、輸送機にも使えるからこれで島から島へ空輸が可能になった。

まだ極秘だから公には使えないが秘密基地への移動や、グランドラインから本拠地がある南の海への移動がかなり楽になった。

そのせいか爆撃機というか輸送機になった。

イーストブルーからクロネコ海賊団殲滅の報告が入った。

船長の百計のクロはもう船を降りて執事になっていたが、計画の肝  
心要のクロネコ海賊団がいなくなってしまうた。

更にはあの島にも自衛隊の基地を建設したから海賊が襲ってきても  
無駄だ。

もし基地を壊滅させて自衛隊員を皆殺しに出来ても本部から援軍が  
わんさか来るからいずれは負ける。

それを悟ったのか、クロネコ海賊団壊滅のニュースを聞いたクロは  
カヤの屋敷を去った。

別の新天地を探すのだろう。

まあ、そうはさせないけどね。

クロが小型船で島を発ったのを見計らい、沖合いに出たクロを駆逐  
艦の遠距離砲撃で沈めた。

いくらクロの抜き足があっても、あれは言ってみれば超高速で動い  
ているだけ。

海の上は歩けないから簡単に仕留められた。

やり方次第ではどんなに強いキャラでも簡単に殺せる。  
所詮人間だからな。

ミサイル巡洋艦、ミサイル駆逐艦を開発した。

ミサイル巡洋艦はベルナップ級

ミサイル駆逐艦はキッド級を模した。

これで艦隊の攻撃力や防御力はかなり上がった。

今までは戦艦や自分自身で何でもさせていたが、本来主力艦艇は護  
られるべきなのだ。

第一自衛隊では最早戦艦は終わった艦艇だ。  
今では航空機全盛の時代だから戦艦の主砲なんて必要無くなった。  
唯一使えるとすれば地上砲撃ぐらいだ。

大和級戦艦が完成した。

時代（自衛隊内）は最早ミサイルや航空機の時代だからあんまり必要無いように思えるが、その巨大な艦体と主砲は十分相手を威圧出来る。

並みの国なら大和級を前に出せば直ぐに降伏するだろう。

それぐらい存在感は凄まじい。

それに、巨艦を建造する技術等も蓄積出来るから微妙に役立っている。

でも完成と同時に旧式艦になってしまったがな。

一応技術レベルに合わせてミサイルも装備しているから戦力にはなる。

今後も改装を重ねながら長い年月を生きるだろう。



## 24 原作直前

グランドライン進出11年目

遂に来年、原作が始まる。

と言っても既に原作メンバーは死んでる奴もいるから原作もクソも無いがな。

そうそう、ロビンに続いてサンジも死んだ。

原作通り客船で見習いコックをしていたらしいが、ゼフは最早いな  
いからクック海賊団には遭遇しなかったが代わりに嵐に遭遇して船  
は沈没。

原作ならゼフが助けてくれたが、この世界にもういないからそのま  
ま船と一緒に沈んだ。

原作でも助かったのは奇跡だったからな。  
やはり奇跡は簡単には起こらないらしい。

ナミは現在どっかの船で航海士している。

最初はアーロン逮捕と同時に海軍に捕まったが、村民からの説明で  
何故アーロン一味に入ったかを知ったから情状酌量として釈放。  
後は普通に子供らしい性格をしていた。

そしてある程度成長したから世界地図を描くという壮大な夢を実現  
させるためにココヤシ村を去った。

ちなみにナミが乗っている船は商会所有の船だ。

自衛隊はアーロンに負けてしまったが懸命に戦ったし、アーロン逮

捕後に新たに来た自衛隊の復興活動や商会の大きさから航海士として入社。

今はイーストブルーを回る船団の中にいるが、今後の活躍次第ではグランドラインの船団に派遣される事になる。

でも世界地図なら既に完成してるんだよなあ。

人工衛星を打ち上げて上空から隅々まで撮影したからこの世界の地理は既に分かっている。

公にはしてないが世界地図や地球儀もある。

まあ、それを知らない方が幸せだろう。

知ったら夢が無くなるからな。

フランキーは微妙に脅威になり得る存在だ。

何せ自分の体をサイボーグ化する程の技術力。

それにあのチートの固まりのサウザントサニー号を建造した船大工でもある。

出来るならフランキーは欲しいがバカだから操り難いし、性格的に合いそうに無いから取り込みはやめた。

しかしかと言って放置して良い存在でも無い。

何故ならフランキーは古代兵器プルトンの設計図を所有している。

最初はプルトンを作るためにフランキーから設計図を奪うかとも考えたが、建造すると必ず海軍や世界政府を敵に回す事になるからリターンの割にはリスクが高過ぎる。

それに、究極兵器としては既に核兵器が完成してるからそんなには必要無い。

そうなるとあの設計図が存在すると不味い。

フランキーが建造するとは考えにくいが、スパンダムがもし設計図

を手に入れたら絶対建造するだろうから先手を打った。

ウォーターセブンにも商会は出店してるからそこに出張という形で作業員を派遣した。

そしてフランキーが一人になるのを見計らってスナイパーライフルにて射殺。

いくら体が機械に出来ていても肝心の頭は人間のままだからスナイパーライフルに撃ち抜かれれば即死だ。

周囲に誰もいないのを確認してフランキーの体内を調べ、プルトンの設計図を発見したら直ぐ様焼却処分する。

フランキーの死体は首を切り落として踏み潰し、死因は首を切られたように見せかける。

そして作業員は翌日自衛隊の艦艇でウォーターセブンを脱出した。フランキーの死は直ぐに知られ、余程の恨みを持った者の犯行として調べられている。

しかし犯人は既に島にいないから探しようが無い。正に完全犯罪。

ようやく待ちに待った最強兵器、ICBM（大陸間弾道ミサイル）が完成した。

これでどこだろうが核攻撃可能になった。

いざというときの保険のためだから使う機会が無いと良いがな。

試射として革命軍の拠点でも核攻撃しようかなあ？

多分アイツ等いずれ邪魔になるだろうし。

革命軍が白土の島、バルティゴを拠点にしてるのはもう調べはついてる。

今までは新世界だったから手は出せなかったが今なら簡単に島を蒸

発させる事も可能だ。

しかし問題なのは核攻撃後だ。

島の大部分が蒸発するような攻撃なら大勢に見られる危険性があるし、必ず調査が入る。

そうするとICBMだと見つかる危険性が高いかも……。

だったら潜水艦から発射するSLBM（潜水艦発射ミサイル）を開発だ。

既にある程度は出来てるから時間はかからない。

潜水艦からの発射なら発射地点はバレないだろうから見つける危険性は低い。

そうと決まれば戦略原潜の開発だ。

オハイオ級戦略原潜を開発すれば最強だ。

何せICBMと違ってどこから攻撃を受けるか分からないからな。

新戦闘機が完成。

F-4ファントムが出来た。

第2世代を一気に越したのは遂にからくり島の未来国バルジモアナに上陸を果たしたからだ。

からくり島は年中海が凍ってるから島に行くには砕氷船が必要になる。

航空機で行こうかとも思ったが天候が不安定で心配だったから長らく行かなかったが、技術レベルの向上のおかげで砕氷船のレベルも向上した。

そのおかげでようやく上陸して拠点を築けた。

百貨店等を出店して島の外の商品を多数取り扱うので島民には好評

だ。

何せ今まではこの島にくる商人はいないからほとんどを自給自足することを迫られていた。

だから定期的に砕氷船で見たことの無い商品を多数仕入れる北郷商会は歓迎された。

そしてある程度商會を広めたら科学者や技術者等の募集を始めた。待遇に高給は勿論、研究設備充実や資金も無制限に使えるなど科学者が聞いたら喜ぶ内容を書きまくった。

その結果、かなりの申し込みがあった。

やはり天才が多い島でも待遇に差があるし、資金や原料不足など不満が沢山あったのか何でも無制限に食いつく天才が多い。

天才は基本的にバカだから簡単に釣れる。

思考レベルがガキと同じだからな。

勿論入社してくれるなら約束通り設備が整った研究室を与えたり、資金制限無く研究をしても良い。

但しそれは会社からの命令に沿った研究をだ。

流石に好き勝手に研究するのに金は出せない。

代わりにそういう奴等は違う島の大学の教授として赴任すれば好き勝手に研究しても良い。

後輩を指導して新たな天才なり秀才を量産してもらえればな。

こんな感じで大量の天才を得た結果、研究開発は爆発的なスピードとなり、第三世代戦闘機が完成。

とんでもないレベルにまで上がったな。

その代わりにとんでもない金食い虫を飼う事にもなったがな。

予算を無制限にしたせいでマジで湯水の如くポンポン金を使いやがる。

普通の国なら傾く額を毎年だからな。  
俺の能力が無かったらとても不可能だ。  
その代わりに天才さんには死ぬまで働いてもらうがな。  
ちなみに採用試験で適性検査もしていて、正義感とか面倒なモノを  
持つてる奴等はどうなに優秀でも不採用だ。  
科学者に正義感なんて邪魔でしかない。  
獅子身中の虫になるのがオチだからな。  
大概の犯罪組織の壊滅は科学者の反乱が原因とかだ。  
俺はそんなの許さん。

F - 4と平行してキティーホーク級空母が完成した。  
これでF - 4も問題無く使用出来る。  
後は原子力空母のエンタープライズ級の完成を待つだけだ。

黒ひげ海賊団がドラム王国に上陸した。  
ドラム王国は最初こそ防衛に乗り出したが、黒ひげのヤマミの実  
の能力に恐れをなして国王ワポルは軍を引き連れ真っ先に逃げ出し  
た。  
唯一残ったドラム王国守備隊長ドルトンや民兵は奮戦したが敵わ  
ず、黒ひげ海賊団に負けて国は荒らされた。  
一方ワポルは適当に逃げ出したせいで帰る事も出来ず、ドラム王国  
周辺海域を漂流していた。

ドラム王国にも商会を出店したかったから今がチャンスと思い艦  
隊を差し向けた。

ワポル海賊団の船であるあの大型潜水仕様船ブリキング号は衛星からの監視で簡単に見つかった。

艦隊で近付くとヤバイ事を悟ったのか潜水してそのまま逃げようとしたが、対潜魚雷をかまして沈めた。

爆雷でも良いかと思ったが、それだと当てるのに時間がかかるから誘導式の対潜魚雷を直撃させた。

見事魚雷が命中したブリキング号は大穴が空き、大半の乗組員を道連れにして沈んでいった。

その中には悪魔の実の能力者なため、泳ぐ事など出来ないワポルも沈んでいった。

海面には運が良い元軍人の奴等が漂っていたが、そいつ等は全員機銃の的にされて終了した。

結局は死ぬしかない。

一応ワポルの船を沈めた証拠として何体かの死体をさらって服や装備を取る。

ついでにブリキング海賊団の海賊旗も回収した、

そして面倒だが一度船を偽装船に乗り換えてドラム王国に上陸した。最初は海賊かと怪しまれたが、商船だと分かって警戒を解いてくれた。

そしてドラム王国元国王のワポルは自分達の私兵が討ち取ったと説明。

証拠に奪った軍服や装備、海賊旗等を見せた。

その結果、国民は歓喜の声を上げた。

何せいつ帰ってくるか分からない独裁者が死んだという知らせだからな。

狂喜乱舞するのは当たり前だ。

国民が喜んでいいる内に商会の出店許可を求めた。それに代表となつていいるドルトンは快諾。

これで新たな市場を開拓した。

更に医者がいけないというので商会で病院を建設すると決定した。勿論医者は他の島から派遣させる。

それを聞いて国民は北郷商会を救世主の如く崇めた。

まあ、こちらとしても出店するんだから病院が無いと困る。

だから丁度良い。

オマケに勝手に感謝してくれるんだから楽で良い。

くれはの患者が激減するだろうが、それは仕方ない。

誰だつて確実に治してくれる代わりに法外な治療費を要求する医者より、適正価格で診てくれる医者の所に行く。

医療だつて競争社会だからな。



## 25 原作開始

この世界に来て22年。  
ようやく原作の年になった。

しかし既に原作の欠片も無い。  
何せサンジ、ロビン、フランキーは既に死んでるし、ナミは商会の船に乗っている。

ちなみにナミは今までの功績から今年からグランドラインの商隊に派遣されたようだ。  
このように主人公組も最早破綻している。

そして唯一残っている主人公様はやはり原作通り海賊としてフーシャ村を出た。  
能力は無いが散々鍛えてきたから常人より遥かに強い。  
まあこの世界は能力が無くても普通に強くなれるからな。  
それにエースだって初めは能力が無かったけど島を出たんだ。  
だったらルフィがそれに習っても不思議は無い。

しかしそれで終わりだ。  
モンキー・D・ルフィは最重要危険指定人物だから常に監視していた。

だからルフィが何時発つかも分かってたから、あの海を舐めてるとしか思えないような小船である程度沖に出たのを見計らい。  
待機していた潜水艦を浮上させて20mm機関砲で沈めた。  
最初は76mm砲でもぶちこんでやるうかと思っただが、明らかにオ

ーバーキルだし逃げられる可能性がある。

何せこの世界のルフィは悪魔の実を食べてないから普通に泳げる。見失いでもして逃げられたら自分達が処刑されると思った潜水艦の乗組員達は機関砲で確実に殺した。

流石の主人公様も突如現れた船？ に面食らってる間に機関砲で撃たれれば避けられる筈も無い。

機関砲弾が体をカスった瞬間体は弾け、即死だった。

乗組員は殺した証拠として原型を留めている頭を回収して冷凍保存した後に潜行してイーストブルーの支部に帰還した。

船内では作戦成功に乗組員達は祝杯を挙げていた。

イーストブルーの支部からサウスブルーの本部を経由してグランドラインの俺の元にモンキー・D・ルフィ抹殺完了の報せは届いた。証拠としてルフィの頭を回収したとして写真も送られてきた事から、間違いなく死亡を確認した。

これで原作は完全に崩壊した。

今までワンピースの二次小説で主人公モンキー・D・ルフィが死んだというのは見たこと無い。

恐らくはこれが初だろう。

何故か二次小説でもルフィは死なないからな。

何で人気あるんだろう？

ジャンプらしい主人公だからか？

海軍サイドの二次小説は沢山あるのに、ルフィを捕まえるのは皆無だ。

たかだか海賊風情に何を期待してるんだか……。  
どんなに取り繕うが所詮海賊。それ以上でもそれ以下でも無い。

まあ、良いか。

とりあえずこの世界ではもうルフィはいない。

これで恐れるモノは無くなった。

唯一、主人公補正を持つてるルフィだけが恐かった。

例え最強キャラっぽい鷹の目のミホークでも核には勝てないからな。核が炸裂する前に切られたら分からないが、上空何百メートルで炸裂されればどうしようも無い。

流石に放射線は切れないからな。

原作ではルフィが遭難してコビーに出会うが、コビーがアルビダの船に乗る前にアルビダは沿岸警備の艦艇に殺されたから会う筈は無い。

コビーがどうなったかも知らないしな。

別にアイツそんなに重要じゃないし。

コビーと一緒にロロノア・ゾロとも出会うけど、ゾロの処刑を別に止めなかったからそのまま処刑された。

いずれ何億にもなる剣豪も刀を取り上げられて縛られればそこらのモブと変わらない。

普通に銃殺された。

この処刑は止められたけど別に何もしなかった。

だって助ける必要無いし、僅かだが不確定要素になる可能性があるから敢えて傍観した。

何らかの修正が効くかと思っただけど何も起こらず、哀れゾロは銃殺されて和道一文字はヘルメツポが商会に売ってきたから安値で買い叩いた。

ヘルメツポも値段なんて分からないから一千万の名刀を5万で売り  
払った。

後日、和道一文字は重要文化財として商會が建てた博物館に飾られ  
る事になった。

さて、ゾロを処分出来たからもうモーガンはいらない。

アイツ等家族がいると商売がやりにくいと苦情も来てるから支部の  
大佐から降りて貰おう。

大体たかだか支部の大佐の分際でまるで自分は支配者の如く動くな  
んて身の程知らずが…。

支部の大佐なんて本部じゃ大尉と同格の癖に。

今回は別に緊急性は無いから電伝虫ではなく手紙でセンゴクに報告  
した。

内容は

『第153支部のモーガン大佐が権力を利用して島の独裁者のよう  
に振る舞い市民を弾圧している。

税金を使い自分の巨大な石像を建設したり、気に入らないという理  
由だけで海兵を殺害。

モーガンの息子は父親の権力を利用して略奪や傷害、殺人まで犯し  
てるのに何ら裁かれる事も無い。

我が社の店舗にも無理難題を押し付けたり商品の強奪等を行ってい  
て非常に迷惑している。

そのため早急な処置を期待する』

大体こんな感じだ。

手紙では敬語だがな。

後日、イーストブルーの海軍本部から派遣された大佐がモーガン

親子を逮捕。

犯行に加担した海兵も罪によって逮捕や処罰された。

新たに赴任した大佐は北郷商会を刺激しないよう念入りに選ばれた人物だったので何ら問題無い。

一応センゴクには礼状を送つといた。

そちらの対応に満足しています。という意味だ。

いやあ、海軍って便利で良いわ。

やっぱり軍を利用出来ればわざわざ動く必要は抑えられる。

他のオリ主達も海軍と敵対なんかせずに協力関係を築けば良かったのに。

でも海軍ってどこか抜けてるよな？

だって囚人を護送するときにモーガンの斧やクロコダイルのフックとかを摘出しなからな。

完璧武器に使える物を取り上げないなんて信じられん。

つまり体に着いている物なら監獄に何持ち込んで良いのか？

だったら武器や爆薬を体に仕込めばインペルダウンだって簡単に脱獄出来るぜ。

むしろ何でこんな欠陥制度があるのに囚人達はやらないのかが分からない。

原作見る限りインペルダウンに入っても熱湯消毒ぐらいしかされないからいくらでも誤魔化せる。

そついう事を考えないのか？

オマケに護送中は海楼石の手錠をかけられて能力を封じられるが、インペルダウンの中に入れば檻は海楼石製だが手錠は外されるから基本的に能力は使いたい放題。

本当に閉じ込める気あるのか？ と聞きたくなるほど警備が杜撰だ。

どうせインペルダウン内を公開することは無いんだから全員始末すれば良いのに…。

そうすれば無駄な税金を使わずに済む。

インペルダウンの警備と維持費にいくらかかるのか分かってんのか？  
俺の莫大な献金が一気に吹っ飛ぶ程だ。

インペルダウンが存在する意味が分からん。

死刑制度が無いのならまだ分かるけど、ゴールドロジャーやエース等を公開処刑した事からしっかり存在するのは明白だ。

何故海賊を生かす？

現実世界のように絞首刑にすれば手早く済むのに……。

## 26 エース逮捕

ルフィがいらないこの世界はかなり静かだった。

クロネコ海賊団はいないし、キャプテンクロも死んだからウソップはまだカヤの屋敷に嘘をつきに行ってる。

カヤもまだ精神疾患からの病弱体質は治ってないから屋敷から出ない。

多分あのまま二人は平和に過ごして終わるのだろう。

だってウソップ弱いからな。

アイツが一人で海に出たら最弱の海イーストブルーでさえ生き残れないだろう。

まあ、このまま平和に海賊ゴッコしてる方が幸せかもな。

海上レストラン、バラエティエは存在すらしてない。

まあ当たり前か。

ゼフはグランドラインで死んだし、サンジは白骨死体が無人島に上がったのが確認され、死亡が確定した。

海賊艦隊提督、ドン・クリークも存在しない。

ドン・クリークがまだ監獄を脱獄して小さかったうちに始末したからだ。

いくら並外れた腕力があっても自動小銃には勝てない。

まだあの金ぴかのダサイ鎧は着けてなかったから普通に射殺された。

それと道化のバギーも殺した。

能力持ちのグランドライン帰りには雑魚だったバギーは、あるうことか自衛隊の基地がある島を襲撃した。

切られても何ともないバラバラの実の能力は凄いけど、撃たれれば死ぬから別に苦戦もしなかった。

迫撃砲や機関銃でバギーは勿論、あの猛獣使いや曲芸野郎も普通に死んだ。

あのバギー玉の威力には結構驚かされたが、こちらもお見舞いして船ごと沈めた。

アーロンはインペルダウンにいるからアーロンパークは無い。

手下の魚人達も一緒に逮捕されたからインペルダウンにいる。

ちなみに原作みたいにタコの魚人が逃げないように圧力をかけたので、アーロン一味はかなり深部の重警備フロアに収監されている。

逃げられたら海軍のメンツ丸つぶれだし、北郷商会からの圧力や締め付けを食らいかねないので絶対逃がさないように見張っている。

そういえば原作のアーロンはあれ以降全く出ないな。

多分インペルダウンに収監されただろうけど、それにしてもインペルダウン編には出なかったな。

もしかしてあの時死んだのか？

まあ、多分内臓は破裂しただろうから死んでもおかしくはない。

誰も治療なんかしないだろうし。

グランドラインについても静かだ。

バロックワークスは既に無いからアラバスタ王国は北郷商会の協力によってかつての活気を取り戻した。



ドラム王国もワポル死亡の報せに正式にドラム王国は崩壊。しかし原作と違ってチヨッパーやくれはの活躍は無かったからサクラ王国にはならなかった。

確かドルトン王国だったかな。

ドルトン本人は否定したが国民の熱狂に負けてそうなった。

この国も北郷商会のバックアップによって病院の建設や医者が増加で平和になった。

代わりにくれはの収入は激減。

たまに来る重傷や重病人を診てしのいでいる。

チヨッパーもあのままくれはの弟子をしてる。

多分くれはが死ぬまでやるだろう。

……もしかしたらチヨッパーよりくれはが長生きするかも……。

空島編は全く無い。

いくら世界中に拡大している北郷商会でも空島には行かなかった。

まあ、衛星で空島がある事は確認したのだが、行ってもこちらの常識は通用しないし、いちいち五月蠅い法律がありすぎるから出店出来ない。

エネルギーを殺せばマシンになるだろうが、物資の輸送に手間がかかりすぎてやってられない。

ダイヤルは欲しかったけどそこまでしてはならないからな。

ウォーターセブン編も無しだ。

海軍が狙っていたプルトンの設計図はフランキーの死亡で無くなったのが確認されたから引き上げた。

だからガレーラカンパニーにはカクヤロブ・ルツチ、カリファ等はいない。

いきなり辞められた事でガレーラカンパニーには大変な損害だっただろう。

それにグランドラインにも北郷商会の造船会社があるから両社で凌ぎを削ってる。

ガレーラカンパニーは早さと獨創性で売ってるが、北郷商会は種類の豊富さと安さ、堅実性で対抗している。

オーダーメイドならガレーラカンパニーが好まれるが、一般的な船や安いが頑丈な船が欲しい奴等は北郷商会で買う。

ガレーラカンパニーはぶっ飛んだ技術力を有してるが値段が高いから売上は微妙。

一方北郷商会はぶっ飛んだ技術こそないが平均よりは上だし、安くて質が良いから自然に北郷商会の方に依頼が行く。

何せ北郷商会はグランドライン中にチェーン店舗があるから売上で勝てる訳が無い。

ちなみにガレーラカンパニーのお得意様は海賊だ。北郷商会は海賊船の建造を全面的に禁止している。

その北郷商会の造船所が他の造船所を吸収合併しているから、今や海賊船を建造してくれる大手はガレーラカンパニーぐらいしか無いので海賊からの注文は殺到している。

しかし自衛隊によってグランドラインの海賊も激減傾向だからいざれガレーラカンパニーも北郷商会に吸収合併されるだろう。

シャボンティパーク編も無い。

シャボンティパークでは何時も通り天竜人が幅を効かせている。

ちなみにこの島にある北郷商会の店舗の仕事は基本的に天竜人に竜神酒を運搬するだけ。

最早立派なジャンキーになられたロスワード聖やチャルロス聖、シヤルリア宮も勿論ジャンキーだ。

過剰摂取で死なれても困るから純度は上げず、酒を毎日届ける。

ロズワード聖が他の天竜人にも話したのか、他の天竜人からも竜神酒の注文が入った。

その天竜人にも竜神酒を飲ませて酩酊状態にしてから後見になって欲しいと依頼。

薬を決めてハイになった天竜人達は喜んで受諾。

こうして権力を更に強める事に成功。

天竜人達は扱いが簡単で良い。

バカだからいちいち売上の確認なんてしないし、酒さえ届ければ満足だ。

ジャンキーは薬さえあれば幸せになれるからな。

まさに天国だろう。

そして待ちに待った時が来た。

バナ口島にて黒ひげ、マーシャル・D・ティーチが白ひげ海賊団2番隊隊長、ポートガス・D・エースを捕縛。

エースと引き換えに元はクロコダイルがいた空きの七武海の座を要求。

白ひげを誘き寄せる餌になると考えた海軍はティーチの要求を受諾。マーシャル・D・ティーチは七武海入りして、エースはインペルダウンに死刑待ちとして収監された。

この時をどれだけ待ったか。

これのためにエースの進路には自衛隊の艦艇を配置しないでおり等、面倒な調整をしてようやく駒はつとめを果たしてくれた。

この世界では重要キャラがかなりいないから少しは変化するだろう

が、大筋は変わらないだろう。

幾ら白ひげ傘下の新世界の海賊船40隻以上が集まっても海軍は50隻以上を集めるらしいし。

本部の佐官や将軍も軒並み集まるから戦力も充実してる。

あの化物大将3人が勢ぞろいするんだ。

勝ちが決まってる。

一方、海賊側はルフィがいないからインペルダウン組は不参加。シャンクスもいないから停戦の仲介も不可能。

ならどちらかが勝利を納めるまで戦争は終わらない。

原作以下の海賊側対原作通りの海軍。

普通に海軍側が勝利するだろう。

更にそこに北郷商会がつけば完全勝利は確実。

湾内の陸上戦はハッキリ言って無理だが、アウトレンジ攻撃をすれば容易い。

今までの偽装船ではなく、戦艦の艦隊で行けば間違いなく勝てる。

あのモビーディック号は反則だが、普通の船なら精々50m強。

これが木造船の限界だ。

そんな中に悠に100mを越える戦艦が現れれば誰もが驚愕する。

……いや待てよ、モビーディック号という前例があるし、この世界なら少し驚いて終わりか？

流石に大和級で行けばかなり驚くだろうがまだ早い。

ていうか逆に大和級だとデカ過ぎるし、威力が高過ぎて海軍にも被害いくだろうから無理だ。

それに技術をいっぺんに出しては優位性が無くなる。

あくまで此方側が勝利して尚且つ今後のパワーバランスを勝ち取れるようにしなくてはならない。

ただ勝つだけならマリンスフォードに戦略核を撃ち込めば終わる。

完全勝利は確實だが代わりに海軍も相手にすることになる。

まあそうなっても問題無いがな。

世界政府を破壊して天竜人を皆殺しにし、海軍を壊滅させれば自ずと俺の時代が来る。

ただ大義名分が無いからその後の占領計画が難しいのが難点だな。

違法な人体実験や世界政府非加盟国に対する弾圧や迫害、奴隷化等々あるがまだ弱い。

それに世界征服なんてしても面倒なだけだし、国家運営は飽きた。

だからこの世界ではただ商會を築いただけだからな。

さて、とりあえず今はセンゴクにエース処刑の際に自衛隊も協力する。というのを了承させないとな。

権力を利用すれば簡単だが、あまり高圧的に出ると印象が悪すぎる。海軍を立てつつ、こちらの要求を飲ませなくてはいけない。

## 27 終焉のスタンバイ

現在俺は海軍本部から少し離れた海域にいる。  
これは白ひげの攻撃の余波を受けないようにするためだ。

あの後センゴクに電伝虫で援軍の申し出をした。

～電伝虫での会話～

「お久しぶりですセンゴク元帥。  
お変わり無いでしょうか？」

「ありがとうございます。私は変わり無いです。  
さて、今日のご用件は何でしょうか？」

生憎今は少し立て込んでまして「  
少しぐらいは挨拶しろよ。」

そこまで余裕無いか。

「それは申し訳ありません。」

して、忙しいとは白ひげとの全面戦争の件でしょうか？」

「……はい、白ひげの2番隊長ポートガス・D・エースの処刑を  
公表しましたから間違いなく白ひげは救出しにくるでしょう。」

現在はその戦いに備えて準備をしている真つ最中です「  
隠すことなく「邪魔だ」と言ってるね。」

「話と言うのは、実は私達もその戦いに混ぜさせて頂きたいのです  
よ」

「………何故でしょうか？」

「私達北郷商会の目標は海賊時代の終焉。」

ですから白ひげや傘下の海賊団が40以上は集まるこの好機を逃し

たく無いのです」

「……それはつまり我々海軍ではご不満という事ですか？」

「まさかそんな！」

そう聞こえてしまったのなら申し訳ありませんでした。

勿論我々も海軍さんが勝つと確信しています。

何せ七武海を初め、本部の佐官や將軍クラスは軒並み招集されてますしあの大将3人全員参加しますから。

間違いなく海軍側が勝利します」

「……………」

「しかし、だからと言って完勝は難しいでしょう。

相手にはあのグラグラの実の能力者の白ひげや屈強なその部下達。間違いなく海軍側も相応の痛みを受けます。

ですから我々は海軍さんの負担を減らし、完全な勝利に近づけたいと思っっている次第です」

これにはセンゴクも黙って少し考え始めた。

俺の言った通り勝てるだろうかかなりのダメージを受けるのは想像に難くない。

なら俺の援軍はありがたいが、海軍としてのメンツが立たない。

何せ民間企業の助けを借りた勝利ではイメージが悪い。

「……………ありがたいお話ですが……」

これは我々海軍と白ひげの戦いです」

「それは勿論重々承知しています。

ですから我々は初めは参戦致しませんし、中継映像に映らないよう少し遠くの海域に待機します。

海軍さんがエースを処刑して放送を終了させてから我々は参戦致します。

言わば我々は後始末です。

逃げた海賊を仕留めるだけで、あくまで主役は海軍さんです」

「……………」

悩んでるな。

この条件なら海軍がエースを処刑してその後の戦いも海軍がやった事になるから海軍に損は無い。

むしろ損が無さすぎて疑ってる。

そりゃそうだ。

この条件では俺に旨味が少なすぎる。

明らかに海軍有利な人体。

普通は信じない。

しかし戦力が欲しいし、俺からの頼みという事なので簡単には断れない。

もし断れば圧力をかけてくる可能性が否定出来ないからな。

「どうかお願いします。」

我々に海軍さんのお手伝いをさせて下さい」

そしてダメ押しな一言。

これで北郷商会からどうしても頼まれたという事になるから承諾しても問題は無い。

それにこれだけ頼んだのに断れば北郷商会との付き合いは確実に悪化する。

そうなると海軍としても非常に痛手を負う事にもなる。

結局承諾するしか無いのだ。

「……………分かりました。」

そこまで言うのなら参加を認めます……………」

「ありがとうございます。」

海軍さんには深く御礼を申し上げます」

「……………その代わりに条件の遵守についてお願いします。」

それと、もし映像が終了してもポートガス・D・エースの処刑までは待って下さい。

せめてそこまでは我々だけでやらないと海軍のメンツが立ちません」

「分かっております。」

我々が参戦するのはエースが処刑され、中継が終了した後です。

……………ああ、それと注意事項という事になりますが、我々が参戦する



前には私がセンゴク元帥に電伝虫にて通信します。

そして私が参戦すると言ったら海賊船から出来るだけ離れて下さい」

「……何故でしょう？」

「それはその時までの秘密です。」

しかし、しいて言うなら新兵器を試すためです。

その新兵器は威力が高いのですがその代わりに命中精度に若干の不安があるので巻き込まれよう指示をお願いします」

「…新兵器ですか？」

「はい、当日とんでもない事が起きるかも知れませんが落ち着いて対処して下さい」

「……」

「それでは本日はご無理を聞いて頂き誠にありがとうございました。当日は私も向かう予定ですので処刑当日にまたお会いしましょう」

このように何とか勝ち取った。

まあ、譲歩したようで別に何も譲歩してないから良いんだけどさ。

最初からエースが死んで映像が切られた辺りで入ろうと思ってたし。大勢にこの戦艦の艦隊を見せる気は無かったからむしろ好都合。

ちなみにこの海域にはカームベルトを通って来たので正義の門は通過してない。

無いとは思うが海軍から海賊へ情報バレを防ぐためだ。

普通の船ならこの海域特有のタライ海流に巻き込まれて自由に動けないだろうが、この艦隊の艦艇は全部スクリーンが着いているから海流に逆らいながら進む事も簡単だ。

最初は白ひげ海賊団みたいにコーティングして潜水しようかとも思ったが、カームベルトの中は大型海王類だらけで危険だからやめた。海上なら警戒が必要だが誤魔化せるからそっちを取った。

現在はカームベルトを抜けてグランドライン内だから停止中。

海軍本部が見える位置についてはバレるから直視は諦めて電伝虫からの映像と衛星監視に留めている。  
衛星だと見にくいし、音声は映像からしか分からないが大まかには分かるから我慢だ。

ちなみに艦隊の旗艦は香取級戦艦。

勿論俺が乗ってるので居住性や通信機能などをアップしている。

後は敷島級戦艦、富士級戦艦、春日級装甲巡洋艦など基本的には日露戦争時代の艦隊だ。

これぐらいならバレても問題無く、優位に立てるだろうというライオンだった。

史実と違うのは機銃の装備が多い事だ。

これは対能力者用で海楼石弾頭だ。

あの不死鳥の能力を持つマルコだつてこの対空放火の前では無力だ。  
12.7mm、20mm、40mmなど様々なバリエーションの機銃弾なら能力者には絶対勝てる。

幸いにもここには魚人はいないし、一番の脅威たるオーズJr.は海軍が仕留めてくれるから心配しなくて良い。

ていうかアイツに30cm砲弾は通用するのか？

もしアイツが生きててこつちに来やがったら逃げるしか無い。

流石にアイツは無理だ。

46cm砲弾、いや対艦ミサイルが必要だな。

## 28 終焉の始まり

エース処刑5時間前。

各艦に最終チェックをやらせ、特にトラブルも無いとの報告が入ったその時、とんでもない報告も入って来た。

インペルダウンにて黒ひげ、マーシャル・D・ティーチ死亡との報告だ。

原作通りティーチは七武海の権力を利用してインペルダウン最下層の囚人達を解放して自分達の仲間にしようとしたが、この世界ではある出来事が無い。

そう、モンキー・D・ルフィがいない。

つまり誰もエースを助けに来ないから脱獄騒ぎも無い。

オマケに結構重要な役割のバギーもいないから騒ぎにもならない。Mr.3はバロックワークス壊滅の時に捕まったからインペルダウンにいるが、Mr.3一人で脱獄を企てようなんて思わないから無意味。

つまりインペルダウンは通常通り運営しており、更に死刑囚エースの護送任務があるため警戒は厳重。

そんな所にティーチが明らかに敵対行動を取れば看守達が防御体制を取るし、所長のマゼランの元にも連絡が行く。

ティーチのヤミヤミの実の能力のせいで看守達は苦戦を強いられるがそこにマゼラン登場。

看守達を何十人も殺傷していることを見てマゼランはドクドクの実の能力を使用。

ティーチ達はマゼランの能力を知らないから毒を諸に受ける。

原作ならルフィ達の脱獄騒ぎ鎮圧のために看守長のシリユウが出され、マゼランを裏切りティーチ達の仲間に着いて解毒剤を渡すが、この世界では脱獄騒ぎなんて無いからシリユウを出す理由が無い。ティーチ達はしばらくは毒でもがき苦しんだが死亡。黒ひげ海賊団は全滅した。

原作でのボスキャラがこんな簡単に死ぬとは俺でも予想しなかった。

いや、正確には予測は出来ていたが何らかの方法で生き延びるのでは？ と思っていた。

それがあんなにアツサリ死ぬとは…。

俺がいるせいか原作組にも奇跡は起きないらしい。

センゴクの所にも黒ひげ海賊団の裏切りと死亡の報せが入ってきたが、今はそんな事より白ひげとの決戦前だから後回しにされた。

ヒデエ扱いだな…。

まあそれもそうか。

今は白ひげとの一大決戦直前、七武海と言えど裏切り者の死亡程度を気にしてる余裕は無いか。

それにティーチ、ていうか黒ひげ海賊団の面々はやたら運命や巡り合わせを重視してたからこれも巡り合わせなんだろう。

原作ではアイツ等に運があり、この世界では無かった。

それだけの事だ。

エース処刑時間まで3時間前になった頃、テレビ？ 中継も始まった。

映像の中には海軍本部を50隻以上の艦隊で囲み、処刑台付近に総勢10万人の海兵や将校が並んでいた。

処刑台のすぐ下には椅子が3脚あり、そこに海軍本部大将の黄猿、赤犬、青雉が座っていた。

間違いなく海軍最強の布陣。

そして処刑台には死刑囚エースとセンゴク元帥、死刑執行人2人がいる。

ちなみに七武海の中にボア・ハンコックはいない。

まあ、原作でも七武海に興味無さそうだったし、ルフィがいないんだから来る意味無いか。

センゴクの演説が始まった。

エースの親父がゴールドロジャーだったと伝えられた瞬間、一瞬だが全ての音が無くなった。

誰もが既にロジャーの血筋や関係者は皆殺しにされていたと想像していたからな。

市民は勿論、海兵達も啞然としている。

ちなみに商会や自衛隊の幹部クラスは既に知っていたので別に何も感じてない。

静寂の後、一気に人々は話し始めた。

記者達はこの事を号外に出そうと本社へ電伝虫で伝えているし、一般人は海賊王の血筋がまだ生きていた事に恐怖する。

ある程度驚きが収まった頃にセンゴクがエースの出生の事実を語る。そして最後にエースを処刑する事によって白ひげとの全面戦争になるうと構わないと改めて叫ぶ。

センゴクの叫びに海兵達も呼応する。

原作なら黒ひげの工作によって正義の門が開くというのがセンゴクに伝えられるが、この世界では黒ひげ海賊団は全滅したし、軍艦の乗っ取りも無いのでそんな報告も無い。

代わりに突如白ひげ傘下の海賊団43隻が現れたのだった。

海軍はいきなりの出現に驚くが、俺等はかなり前から衛星監視で接近を知っていたので「ようやくか」と思っていた。

にしてもとんでもない海賊船ばかりだな。

やたらめつたら大砲が多いのや海軍船よりもデカイ船、何でそんなマークにしたのか？ と聞きたくなる海賊船等、様々いる。

それに船長全員がスゲー個性豊かだ。

本当に人間かよ？ と聞きたくなる奴等もかなりいる。

海賊団と海軍で睨み合っていると、突然マリノフォードの湾内から水泡が出てきて、潜水艦の急浮上みたいにコーティングされたモビーディック号が現れた。

次いで3隻のモビーディック号より少し小さい船も浮上してきた。にしても改めて見るとモビーディック号ってあり得ないよな？

竜骨を持つ木造船の大きさは60mぐらいが限界なのに、あれは明らかに80mはいつてる。

もしかしたら100mに近いかも…。

まあ、この世界なら100mクラスの木があっても不思議では無いがな。

モビーディック号から白ひげ、エドワード・ニューゲートが現れた。そして両手を思いつきクロスした後一気に何かを殴った。

その瞬間空間にヒビが入り、そして海底火山が噴火したかのような爆発が水面から出てきた。

衛星画像や映像越したが、信じられない光景だな。

たかだか一人が自然現象を引き起こすなんて…。  
そして少し経った後にマリンフォードを挟むように大津波が押し寄せた。

確かに世界を滅ぼす力を持つてるな。

この世界ならこれクラスの大津波が頻繁に押し寄せれば間違いなく世界は終わる。

でも世界を滅ぼすという意味なら自衛隊も有してるがな。

何百発という戦略核弾頭。

そして俺の能力を用いれば世界を滅ぼすのは簡単だ。

にしてもあれ程の大津波を起こしたら間違いなく気象にも重大な影響を及ぼすだろうな。

長い冬や夏、極端に降らない雨など様々な異常気象を引き起こす。

それを考えているのだろうか？

考えて無いだろうな。

白ひげは基本的に自分の身内以外はどうでも良い考えだろうから。

大津波がマリンフォードに到達する前に青雉がヒエヒエの実の能力で大津波を凍らせた。

まあ、ああしないと終わるしな。

ていうかもし大津波が到達したら白ひげ海賊団にもかなりのダメージなんだが、それは考えなかったのか？

大津波を凍らせた青雉は白ひげに攻撃を仕掛けるもあえなく負け、体を砕かれた青雉が湾内に降り注ぐと湾内が一気に凍りついた。

白ひげ海賊団の船の動きを封じたが、代わりにデカイ足場を与えてしまったので海賊達は一気に船を降りて陸上戦？ を仕掛けてきた。

後方にいる海賊達も攻撃として砲弾を海軍の軍艦に放つが、その砲弾を中将達が切り落とす。

相変わらずデタラメだな…。

飛んでる砲弾を切り落とすなんてあり得ん。

そして遂に直接の戦闘が始まった。

そろそろ俺達も動くか。

白ひげもあの大津波以降はそんなにデカイ技を使わないだろう。

何せあんな大技使えば大事な大事な息子達が大勢死ぬだろうからな。今の地点では参戦するには遠すぎるからマリンスフォードに接近する。

幸いにも周辺海域は霧が深いから見つからないだろう。

まあ念のためにそんなには接近しないがな。

少なくともエースが処刑されたらすぐに攻撃でき、尚且つ見つからない所迄だ。



## 29 終焉の始まり2

待機位置に着いた時、マリنفォードへの映像電伝虫の中継が切れた。

そして原作通り大渦蜘蛛のスクアードに白ひげは心臓を貫かれた。マルコがスクアードを抑えにかかるが、スクアードは抵抗し、赤犬から吹き込まれた事を叫ぶ。

やっぱりここは原作通りなんだな。

原作ならこの前にインペルダウン組が合流するが、この世界では勿論そんなの無く、普通に乱戦が続いていた。

スクアードが喚き、白ひげが「それでもお前を愛そう」とかなんかドラマみたいな事をやった後に、白ひげも戦場に降り立った。

巨人の海兵が白ひげに突っ込むが、白ひげは巨人の剣を軽く受け止め、また空間を掴んだ。

そして掴んだ空間を思いつき引つ張った瞬間、マリنفォードは勿論、周囲の海が傾いた。

そしてその傾きによってまた大津波が起きたが、何故か今回も大津波はすぐに砕けて無くなった。

ちよつとヤバかったな。

あの大技を忘れていたからあのままじゃ横波を思いつきり食らうと思っていたが、何故か波は直ぐに無くなり、遠くにいた俺達には少し大きい波程度しか来なかった。

流石に戦艦でもあの大きさの波はヤバかったから助かった。

俺達がホツとしてたらマリソフオードで動きがあった。

突っ込んでくる海賊達を阻むように湾内にデカイ隔壁が上がってきた。

しかし巨体のオーズが邪魔して1区画の隔壁が作動しない。

それでも海軍は最終作戦を開始した。

包囲壁の中にいる海賊達に（海兵も結構いる）赤犬の降り注ぐマグマのような攻撃を食らい、モビーディック号は沈み、足場になっていた氷は溶けて海に戻った。

そして浮かんでる海賊達に包囲壁に備えられている大砲で撃ち始めた。

なんかワンピースの世界にしてはマトモな軍事的攻撃だな。

確かに考えは悪くないけど決定打に欠けてるから結構海賊達は生きてる。

しかしあの壁何で出来てるんだらう？

白ひげの攻撃に耐えるなんて信じられん。

もしかして海楼石でも混じってるのか？

包囲壁を作動させて海賊の動きを制限したセンゴクはエースの処刑執行を宣言した。

このまま執行されるのかと思いきや、今まで倒れ込んでいたオーズが膝立ちだが立ち上がった。

しかし今や虫の息。

今にも死にそうだ。

海賊達がヤケになったように海を泳ぎ、包囲壁の穴を目指す。

その海賊達を包囲壁の大砲が狙うが、その前にまたコーティングされた白ひげ海賊団の船が上がってきた。

海軍はその海賊船を沈めようと撃ち始めるが、その前に外輪が着いてるのか帆を張らずに船は進み出し、その船をオーズが引き上げ、船を包囲壁に突っ込ませて包囲壁を破壊した。

それにぶちギレたのか海軍はオーズに集中放火を浴びせ、遂にオーズは死んだ。

広場上がった海賊達は一気に処刑台に突撃を始める。

白ひげも処刑台への攻撃をしようとするが、青雉の攻撃によって凍らされる。

しかし何故か通用せず、氷は割れて青雉は白ひげよって突き刺される。

またもやしかし、青雉には通用せず、白ひげに攻撃をしようとしたらダイヤモンド、ジョズに防がれる。

このようにやったりやり返されたりを繰り返してる。

マジで人間の戦いには見えねえな。

しばらく乱戦が続く。

マルコが能力を使ってエース奪還に動くがガープに阻まれ失敗。

それでも白ひげは尚も奮戦するが、遂にここで無理が祟った。

刺された心臓付近を押さえて座り込み、吐血する。

それにマルコが目を奪われ、その隙について黄猿が攻撃する。

その攻撃は見事マルコを貫くが何故かまだ生きてる。

他の戦線でも自分達のボスの吐血に気を取られてやられる者達が増えてきた。

更に隙だらけになった白ひげにも赤犬から攻撃を受けて更にヤバイ状態になる。

しかしここで原作と違いが出てきた。

マルコは原作なら海楼石の手錠をはめられて能力を封じられるのに、この世界では手錠を避けた。

代わりに黄猿の攻撃をまた受けたが。  
やっぱりルフィがいないからその分気を取られるモノが減ったから  
か？

赤犬に続くために他の海兵達が銃やバズーカ、刀などで白ひげに追  
撃する。

明らかに白ひげは弱っているが、そんなの関係無いとばかりに海兵  
達を蹴散らす。

しかし遅すぎた。

既に執行人が刀を構え、センゴクが死刑執行を命じた。

それを止めようと白ひげは動くが、今まで受けた傷が深すぎて動き  
が鈍った。

原作なら白ひげの代わりにルフィが霸王色の覇気を出して執行人達  
を気絶させるが、ご存知この世界にはルフィはもういない。

無情にも刀は降り下ろされ、エースの首が落ちた。

切り落とされた瞬間、エースの首がハネ上がり、そして処刑台の上  
に転がった。

それを見た瞬間、俺は全艦に移動命令を出した。

攻撃位置に着くためだ。

そしてその間に約束通りセンゴクに電伝虫をかけた。

海軍サイド

センゴクはとうとうエースの処刑を実行出来た事で満足していた。白ひげとの決戦の途中だが、とりあえず目的を達成出来たので一息ついたのだった。

しかし彼に休息は許されない。

エース処刑は達成出来たが、まだ白ひげとの決戦は継続中だ。

今はエースが処刑されて全員の動きが止まっているが、じきに動き出す。

そう思っていたら後ろから声をかけられた。

「センゴク元帥。」

総帥から電伝虫が入っています」

その声の主は北郷商会から派遣された人物だった。

処刑や戦闘の様子を北郷に伝えるために映像電伝虫と電伝虫を持って初めからいた。

と言っても今の今まで存在を忘れてしまっていたが。

そして同時に北郷との約束を思い出した。

映像は切れ、エースの処刑は完了した。

という事は自衛隊が参戦してくる筈だ。

そう思い出しながら電伝虫の受話器を取った。

「……はい、センゴクです……」

「お久しぶりです。」

さて、とりあえずおめでとうございます。

無事エースを処刑出来た事にお祝い申し上げます」

「……ありがとうございます」

「映像電伝虫は切れ、エースの処刑も完了した。」

という事で契約通り我々も参戦します」

「……はい……」

センゴクとしては来ないで欲しいのだが、既に契約したし、これからエースを殺された恨みを晴らすために来るだろう。白ひげ海賊団と戦うのだから戦力は多いに越した事は無い。

「現在そちらの海域に向かっています。」

もう間もなく攻撃可能位置に着きますので、最初に言った通り後方の海賊船から海兵達を引き上げて下さい。  
巻き添えを食いますから。

それと、もしかしたらそちらにも攻撃が行く可能性があるので御注意下さい。

勿論そちらを攻撃しようなんて思いませんが、当たらないようにしますが、誤射というのは出てしまうものなのでどうかご勘弁を」  
そう言つて電伝虫は切れた。

とりあえず受話器を返して考える。

前にも言われたが何をやる気だ？

あの口調では大砲を撃つように聞こえたが、ただ大砲を撃つだけならあんなに注意はしないだろう。

それに大砲だけならわざわざ参戦するなんて言つて来ないし……。

とりあえずは言われた通り後方にいる兵士達に後退命令を出した。

と言つても後方にいる兵士達は遠すぎて命令が届かないだろう。

無意味かも知れませんがやれるだけやっつく。

何が起こるのか全く分からないからだった。

北郷サイド

センゴクへの通達は終わり、次は艦隊全体に届く無線を取った。

『遂に今日、ゴールドロジャー亡き後、最大勢力を誇った白ひげ海賊団とその傘下の新世界の海賊共を殲滅する……！』

奴等海賊は最早旧時代の遺物だ……！！

今までのような海賊が幅を効かせる時代は終わり、海軍や我々北郷商会のような商船が海を支配する時代が変わる……！！

我々北郷商会が掲げた「海賊時代に終焉を」を果たす時が来たのだ  
……！！



白ひげは自分になると言うが、部下達はそれを良しとしない。白ひげは既にボロボロだが、原作ほど決定打を受けていないからもしかしたら治療すれば治るかも知れないのだ。

そのため、部下達は必死に白ひげに撤退するよう説得を始める。しかし白ひげは既に死ぬ気でいるので譲かず、逆に撤退しろと命令する。

その船長命令に従うしかないか、と白ひげ海賊団や傘下の海賊団は思ったその時、マリンフォード湾外の海軍の軍艦や海賊船が並んでいる地点に突如何かが落ちてきて大爆発を起こした。

その爆発音は凄まじく、マリンフォードの処刑台にいたセングクにもハッキリと聞こえた。

「な、何なんだアレは……………？」

セングクが驚いていると遠くの方に大砲の発射音が聞こえた。

何かと思つて見ると、遠くの方だがとてつもなく大きい軍艦が見えた。

双眼鏡で見してみると、その船は鉄で出来ており、とてつもなく大きい砲台をこちらに向けていた。

「あれは……………一体……………？」

セングクが呟くと

「あれは我が自衛隊の艦隊です」

北郷商会から派遣された人物が答えた。

「…アレが言っていた艦隊ですか……………」

想像していたモノと全然違う艦隊を見てセングクは絶句する。

「はい、あの艦隊は主に戦艦で構成された自衛隊最強の艦隊です」

「……………戦艦……………ですか？」

聞いたことの無い単語にセングクは聞き返す。

「はい、戦艦とは絶大な攻撃力と防御力を兼ね備えた最強の艦です。完全鋼鉄製で重厚な装甲を持ち、長大な射程距離と攻撃力を主砲を併せ持つ、言わば移動砲台です」

よく分からないが、今までの軍艦とは違うというのはよく分かった。



そうしてるとまた電伝虫が鳴り出した。  
それを彼は受話器を取り「はい……はい……分かりました。  
お伝えします」そう言って電伝虫を切った。

「総帥からの伝言です。」

後方の海賊は我々が担当しますから、白ひげや前方にいる海賊をお願いします。

特に白ひげは早急に仕留めて下さい。

艦隊が攻撃を受ける可能性があるので」

そう言われて白ひげの存在を思い出した。

突然の事で驚いてしまったが、未だ戦闘中なのだ。

「何をしてる!!!」

白ひげを討ち取れ!!!」

固まっていた大将達に命令する。

それを聞いた3大将達は白ひげに狙いを絞り、攻撃を開始した。

やはり何が一番厄介かは分かるからだろう。

また、大將や中將クラスには北郷商会の事は既に伝えてあるので予測はついたのだろう。

北郷サイド

僅か5000mという至近距離に加え、動かない静止目標なので簡単に命中している。

海軍の軍艦も多数当てているが、それは仕方ないだろう。

一応撤退要請はしたんだ。

後々問題になることも無い。

「総帥、何か飛行物体がこちらに向かっています」

部下の報告に艦橋から覗くと、確かにマリンスフォードの方から何か

が飛んできた。

海軍や海賊はまだ飛行機を保有していないから除外。見た目が青い炎っぽい外見から不死鳥のマルコか。

「対空戦闘用意！！」

すぐに対空機銃の準備をさせた。

と言っても事前に準備してたから機銃要員が機銃座に着いただけだ。

「目標、白ひげ1番隊長、不死鳥のマルコ！！」

海賊に海楼石弾の威力を見せてやれ！！

迎撃開始！！！！」

開始命令に各機銃が迎撃を始めた。

12.7mmや20mm機銃が海楼石弾を撃ち出す。

それにマルコは避けない。

まあ、どうせ食らわないと過信しているんだろう。

それが常識だからな。

しかしそんな常識はここでは通用しない。

20mm機銃弾がデカイ羽に命中。

その瞬間、羽が弾けた。

それにマルコが驚愕していると12.7mmや20mm機銃弾がマ

ルコの体や頭にも命中。

マルコの体が弾けて落ちていった。

呆気ない…。

どんなに強くても所詮は能力者。

この機銃の前では無意味なのだ。

砲撃が再開され次々海賊船や海軍船を沈めていく。

やはり30cmや25cm榴弾なら装甲スループ船程度は簡単に沈められる。

装甲があるから鉄鋼弾が必要かとも思ったがいらなかったようだ。な。鉄鋼弾では貫通するだけであまりダメージは与えられないだろうし。

唯一脅威だった白ひげも3大将が総攻撃を仕掛けてるから間もなく死ぬだろう。

既に勝負は決したとして何とか生き残ってる海賊達は懸命に逃げようとしているが、所詮帆船のスピードなので簡単に沈められる。

更に副砲も使えるように徐々に徐々に距離を詰めていく。

帆船に主砲なんて使ってられないからな。

15cmや8cm砲で十分だ。

## 海軍サイド

突如現れた見たこともない艦隊に海軍、海賊双方は最初こそ混乱したが、謎の艦隊は海賊を主に撃破しているし（海軍船もそれなりに巻き込まれている）センゴク元帥や大将達は気にせず白ひげや海賊の殲滅を続けているので他の海兵達もあの艦隊は味方なのだと思っ

一方、海賊側からしたら最悪だ。

海軍だけでも強敵なのに、更にとてつもない攻撃力を持った敵が現れたのだから。

前方には海軍、後方には謎の艦隊。

逃げ道が見つからない。

更にとんでもない出来事が起きたのだ。

不死鳥の能力を持つマルコが艦隊に挑んだが、あえなく撃墜され、間違いなく死んだからだ。

再生を司る不死鳥の能力を持つマルコは決して死なない筈なのに、体をバラバラにされて海に沈んだ。

能力者が海に沈むというのは死を意味する。

「…………なぜ不死鳥の能力を持つマルコが死んだのだ…………？」

セングクが派遣された人物に聞いたら

「あれは海楼石の弾丸による対空放火ですからね」

「…海楼石の弾丸？」

「はい、正確には海楼石の弾頭弾というべきですが、あの対空放火に使われた弾は海楼石で出来ているので能力者、非能力者分け隔て無く殺せます」

それを聞いてセングクは戦慄した。

今まで自然系や特殊な超人系能力者に銃は効かないという不文律が破られたのだ。

「…しかし海楼石は貴重な鉱物。

あんなに大量に撃つ程あるのですか？」

そう、海楼石はとても貴重な資源だ。

もしも海楼石がそんなに大量にあるのなら海軍も海楼石の弾丸を開発しただろう。

しかしその絶対数が少ないのでインペルダウンの牢や手錠と言った物しか開発出来ない。

銃にしても唯一あるのはネット弾で使用したら回収してまた使っているのが原状だ。

それに海楼石鉱のほとんどは海軍が所有しているのに。

何故北郷商會が海楼石を大量に保有しているのか？

セングクの頭の中は疑問だらけだ。

それを見抜いたのか

「海楼石の出所や何故大量に保有しているかについては機密事項です。」

どうかご配慮を」

礼をしながら口止めしてきた。

確かに聞いても答えは返って来ないだろうし、下手に藪をつつくと

面倒になるだろうからセンゴクは聞かない事にした。

それに、今大事なのは白ひげの始末や白ひげ海賊団の殲滅だ。幸い味方になってくれている北郷商會を疑う余裕は今は無い。

北郷商會が海賊達の逃げ道を塞いでくれたのだ。

だったら前方にいる白ひげ海賊団の殲滅は自分達海軍の仕事だ。

センゴクは部下達を奮起させるために指示を出し、白ひげ海賊団殲滅に本格的に動いたのだった。

### 30 終焉の始まり3

北郷商会が参戦して30分。

白ひげ海賊団船長、エドワード・ニューゲートは3大将によって殺された。

エースに続いて絶対的ボスの白ひげまでもが死んだ事によって白ひげ海賊団の士気は最低にまで落ち込み、潰走を始めた。

しかし後方には北郷商会が大口径砲で待ち構えているので逃げ道は無い。

更に前方には膨大な数の海兵と海軍本部が待ち構えている。

だから前に逃げても助かる可能性は無い。

原作なら赤髪のシャンクスが停戦仲介に来て双方共逃げられたが、この世界にそんな都合の良い存在はいないので地獄は続く。

追い詰められた海賊達は唯一の希望にすぎり、まだ何とか残っていた海賊船や打ち捨てられた海軍の軍艦に乗り、後方の自衛隊の艦隊に決戦を挑んだ。

決戦と言っても別に戦う事が目的ではなく、一部の船を自衛隊と戦わせて後はそれぞれ逃げる気だったのだ。

しかし、自衛隊は、北郷はそんなに甘くなかった。

自分達に向かって来る船は主砲や副砲で直ぐに沈め、逃げた海賊船を追う。

海賊達がどれほど急いだ所で帆船と戦艦の機動力は比べる迄も無い。それに全艦で追いかける訳では無く、追いかけるのは戦艦よりも機動力がある装甲巡洋艦だ。

戦艦よりかは攻撃力が低い、25cm主砲を持つ装甲巡洋艦に木

造船が勝てる訳無く、アツサリと沈められた。

一方、残った戦艦群は湾外のまだ残って機会を伺っていた海賊達への砲撃を継続中だ。

最早湾外は帆船のスクラップ場になり、ゴミとなった船しか無い。

そこに、この世界にしては分厚い装甲の船がこちらに突っ込んできた。

多分砕氷船だろう。

あのマークから見ると、氷の魔女、ホワイティ・ベイの船だな。

成る程、その分厚い氷を割るために張った装甲のおかげで榴弾の雨に耐えたようだ。

自分が囷になって他の奴等を逃がすつもりだろうが、それは夢物語に過ぎない。

「弾種、徹甲弾に変更!!!」

砕氷船ごときで戦艦に勝負を挑むバカに現実を教えてやれ!!!」

砕氷船の構造上、多分スクリューが外輪を付けているのだろうが、やはり出力が小さいからか遅い。

榴弾から徹甲弾への変更は余裕で間に合い、わざわざ近付いてくれた事で簡単に命中させた。

徹甲弾が艦橋に命中した事で多分船長、ホワイティ・ベイは死んだ。他の艦も徹甲弾を撃ち、砕氷船を穴だらけにして沈めた。

そして再び榴弾に変えて帆船や海賊達を狙う。

またしばらく撃ち続けていたら、センゴクから電伝虫が入ってきた。

「はい、何でしょうか？」

『今までの援軍、心から感謝致します。しかしもう大丈夫です。』

海賊達も最早戦意を失っていますし、逃げるための船もありません。ですからもう援軍は大丈夫です。

どうか、後は我々海軍にお任せ下さい』

センゴクから引き上げ要請が来た。

確かにもうやることは無いな。

湾外にいた船は残らず沈めて今ではただの木片でしかない。

海賊船にいた奴等も粗方始末したし、逃げる奴はいないだろう。

ここは海軍を立てるためにもう引くか。

「分かりました。」

ではもう我々は引き上げます。

後始末をどうかよろしく願います。

また後日お会いしましょう」

『…はい、今回の事について色々お聞きしたいので後日、処理が終わり次第願います』

電伝虫を切り

「攻撃終了。」

撤収準備終了後、基地に帰るぞ」

終了宣言をする。

それを聞いて各武装の点検や後始末等を終えた後、グランドラインの基地への撤収を始めた。

兵士達は別に疲れた顔をしてなかった。

まあやったのはほとんど標的射撃でしかないからな。

訓練よりも楽だっただろうから疲れる訳は無い。

一番疲れたのは大量に砲弾を放った砲身だろうな。

もしかしたら交換が必要になる程かも…。

撃ちまくったからな。



ちなみに決戦を見物していた海賊船が数隻いたが、ついでに全部沈めとく。

原作の海賊もいたけど、グランドライン出身以外の海賊はいなかった。

多分まだ規模が小さかった頃に自衛隊に殺られたんだろう。

### 3 1 時代の变化

白ひげとの決戦から1ヶ月。

白ひげが滅茶苦茶にしてくれた海軍本部の被害確認や死傷した海兵の集計などがようやく一息ついたらしいので、俺は艦隊を引き連れマリンフォードに向かった。

艦隊の陣容は決戦の時とほぼ同じで戦艦と装甲巡洋艦で構成されている。

流石に数は決戦時に比べれば少ないが、それでも海軍の軍艦50隻以上と戦っても余裕で勝てるだろう。

無いとは思うが、海軍が俺を脅威と見なして襲撃をかけてくる可能性もあるからな。

その場合に備えて完全装備をさせた親衛隊も乗船させてるから俺が逃げる時間くらいなら稼げるだろう。

そのために原潜も付近で待機している。

マリンフォードに着いた艦隊を海兵は出迎える。

事前に行く事を告げていたから出迎え要員が待機していた。

出迎える兵士達は艦隊を見てヒビっていたがな。

そりゃそうか、こんなにデカイ船は滅多に無いし、完全に鉄で出来ている軍艦を間近で見たことなんて無いだろうからな。

俺が旗艦から下船すると出迎え要員達が敬礼しながら言う

「お待ちしております。」

北郷商会総帥、北郷一刀様

「お出迎えありがとうございます」

形式的に礼を言う。

一応こっちは一般市民だからな。

「お久しぶりですセンゴク元帥。  
お変わりなさそうで何よりです」

「ありがとうございます。」

北郷様もご健勝そうで何よりです  
とりあえずお互い軽い挨拶。

今回は交渉のための会談だからな。

「さて、今回の交渉というのは何でしょうか？」  
知ってるが聞いておく。

「…はい、今回お聞きしたいのは先の決戦に自衛隊が使った艦隊。  
戦艦等についてです」

「ほう……戦艦についてはご存知でしたか？」

「はい、そちらより派遣された連絡員の方に大まかですが聞きました」

「成る程。」

では今日は戦艦の細かい説明を聞きたいという事でしょうか？」

「はい、その通りです」

それから俺は持参した戦艦についてや、艦種、兵器、装甲、機関等の書類を見せながら軽く解説をした。

センゴクは書類を見ながら熱心に俺の説明を聞いていた。

「…以上が大体の説明です。」

これ以上詳しい説明は私には無理ですので技術士官に聞かないといけません」

「……いえ、大変勉強になりました」

大まかには理解したらしい。  
流石元帥まで上り詰めた頭脳だな。

「それで……戦艦の説明を聞いた海軍さんは如何致しますか？」  
言外に戦艦買うか？ と聞いてる。

「……出来るなら我が海軍に何隻か戦艦や装甲巡洋艦を売って欲しいのですが……」

やはり買いに来るか。

まあそうだろうな。

あの決戦で無敵に近い戦いをしたからな。

それを欲しがるのは道理だ。

「戦艦や装甲巡洋艦のお買い上げですか？」

それだとそれなりにお値段しますが？」

「……大丈夫です。」

貴重な戦力になりますから予算が足りる限り買います」

まあ海軍の予算はそれなりにあるから艦隊を1セット買うのも可能だろうな。

それでもかなり厳しいがな。

「……そうですか、お買い上げありがとうございます。」

……では、その代わりと言っては何ですが、我々も是非欲しい物が  
あります」

ピクツとセンゴクは反応する。

「……欲しい物……ですか？」

「はい、海軍さんが先の決戦に実戦投入したあのロボット……。  
パシフィスタ……でしたか……？」

あれを一体譲って欲しいのです」

センゴクもそれを予期していたのかあまり驚かない。

「…………」

「勿論タダとは言いません。」

訓練に必要な練習艦に、実戦投入出来る戦艦を無料で差し上げますし、練習艦の指導要員として技術士官も派遣致します。それに売買する戦艦等の値段も勉強させて頂くつもりです。

「……如何ですか？」

パシフィスタ全体の値段を告げる。

破格の値段だろう。

量産機一体でこれだけの物が手に入るんだからな。

あのパシフィスタにはそれだけの価値がある。

何せどうやったのか知らないがバーソロミュー・クマの能力と黄猿の能力を併せ持ち、完全に兵器化出来ているなんて魅力的過ぎる。

あの技術が手に入ればこちらの技術もかなり上がる。だからこれだけの対価を支払うのだ。

と言つても骨董艦だけだな……。

しばらくセンゴクは考えていたが、決断した。

「……………分かりました。」

そこまで言うのならパシフィスタを一体お譲り致します……」

折れた。

まあ初めから決まっていたからな。

本当なら天竜人や世界政府のコネを使って無料で貰う事も出来たのだが、それでは海軍のメンツが立たないから戦艦などを代わりに上げるんだ。

流石にタダで奪えば悪印象しか抱かないからな。

これなら等価交換だから納得いく筈だ。

「ありがとうございます。」

では、パシフィスタについては後日戦艦と引き換えという事で」

そう言つて礼をする。

俺の気遣いを理解しているセンゴクも答礼する。

「さてと、ではお譲りする艦はまずスクリュー推進機関操作習得のために蒸気フリゲート艦の開陽級を一隻」  
そう言つて資料を見せる。

資料には開陽級の写真とスペックが載っている。

ちなみに開陽級は3本マストと蒸気機関を有してる初期型のスクリュー推進艦だ。

それでもそれなりにデカイし攻撃力はあるがな。

「それと練習艦として装甲コルベット艦の龍驤と装甲スループ艦の葛城級も一隻ずつ」

これはどちらも今の海軍軍艦と同じかそれ以上の戦闘力を有する。

「そして戦艦として扶桑級戦艦を譲渡します。

本来なら3本マストを有する戦艦ですが、パシフィスタをお譲りして頂けるといので近代化改装した扶桑級をお譲り致します」

改装前と改装後扶桑級のカタログを渡す。

改装前と改装後ではまるで違うからな。

センゴクはよく分からないがとりあえず「ありがとうございます」と頭を下げた。

「以上がパシフィスタと引き換えに無料譲渡する艦です。

次は売買する艦についてです」

センゴクはカタログから目を離して俺を見る。

これから第2ラウンドだからな。

「先ずは当社がお売り出来る戦艦なのですが、本来なら先程の扶桑級がお売りできる最大の戦艦です。

ですが……今回はパシフィスタを頂けると、長いお付き合いの海軍さんがお相手ですから。

特別に先の決戦にも参加した富士級戦艦もお売り致します」

富士級戦艦のカタログを取り出す。

「……これは！」

カタログを見てセンゴクは目を見開く。

明らかにさつき迄のスペックと違うからな。

大きさ、早さ、兵装等何もかもが大違いだ。

「富士級戦艦は現在我々が使っている主力艦と遜色無い戦艦です。

どうかお役立て下さい」

「……………幾つものお心遣い誠にありがとうございます」

交渉の結果、とりあえず海軍は扶桑級戦艦2隻、定遠級戦艦1隻、富士級戦艦1隻。

吾妻級装甲巡洋艦2隻、八雲級装甲巡洋艦2隻。

浪速級防護巡洋艦1隻、秋津洲級防護巡洋艦1隻、須磨級防護巡洋艦2隻、千代田級防護巡洋艦2隻。

東雲級駆逐艦、春雨級駆逐艦5隻ずつ。

他にも機雷敷設艦や掃海艦、砲艦、水雷艇等を数隻ずつ。輸送艦等も数隻購入した。

譲渡分も含めるとかなりの数になるし、幾ら値引きしたと言ってもかなりの値段になるのに躊躇わずポンポン買いやがった。改めて海軍の予算の凄さを思い知った。

ちなみに駆逐艦や掃海艦等の指導員も派遣することになったが、それは無料だ。

これだけ買ってくれからな。

それに弾薬代や燃料代でこれから儲けられるしな。

何せ油田のほとんどを北郷商会が独占してる。

流星に新世界の油田は無理だったが、他の海の油田はほぼ全て先に取った。

だから重油は北郷商会から購入するしかない。

鉄についても鉄鉱山はほぼ押さえたから北郷商会から売って貰うしかない。

クズ鉄を使っても戦艦建造には海軍が持つてる量では足りないからクズ鉄さえも北郷商会から買うしかないのだ。

これで狙い通り北郷商会が世界を完全に牛耳った。

今までの体制では鉄や原油をあまり必要としなかったが、これからの時代は鉄や原油はどれだけあっても足りない体制になる。

海軍は大艦隊を築きたくても鉄や燃料を北郷商会に買うしかない。いずれ海軍も独自に戦艦を建造するようになるだろうが、消耗品は必然的に北郷商会から買うしかない。

これで何もしなくても莫大な利益が出る。

莫大な利益によって予算は増加し、研究に費やす予算も増加してこちらの技術レベルはまた上がる。

そしてまた海軍に旧式をライセンス生産なりさせて利益を得る。

素晴らしいスパイラルだ。

「こんなにも大量のお買い上げありがとうございます」

ホクホク顔で交渉を終わらせようとしたらセンゴクが止めてきた。

「お待ち下さい。」

まだ売って欲しい物があります」

「？ 何でしょうか？」

「海楼石の弾丸です」

やっぱ欲しいか。

アレがあれば能力者でも簡単に殺せる事が証明出来たからな。

「……海楼石弾ですか……」

アレは当社でも貴重な物ですからね……」

まあ俺の能力があるから幾らでもあるんだけどね。

でも世間では海楼石の稀少さは広まっているから高くて文句は言



わないだろう。

「そこをなんとか……。」

我が海軍に販売しては頂けませんか？」

「……う……ん……。」

……それは機銃で使うような大きい海楼石弾ですか？

それとも普通の銃で使うような小さい海楼石弾ですか？」

「出来るならその両方をお願いします」

「う……ん……。」

機銃用の海楼石弾なら値段もかなり張りますし、小銃用の海楼石弾なら海楼石弾を撃てる小銃も無ければ撃てませんから小銃も買う必要がありますか？」

「…小銃とは何ですか？」

一般的に普及している銃とは違うのですか？」

俺はボルトアクション式ライフルと金属薬莖について説明した。

「…以上のように海楼石弾を撃つには小銃が必要です。

ですから海楼石弾を買うなら必然的に小銃も買わなくてはいけません。」

海楼石弾に比べれば安いですが量を買うとなかなかの値段になりますよ？」

「……ですが海楼石弾はどうしても必要なので。

機銃用と小銃用海楼石弾、それに小銃も大量に買います」

「そうですね。」

…では海楼石弾は数に限りがありますが、代わりに小銃を大量にお買い頂けるなら安くしてきます」

「ありがとうございます」

このように歩兵用武器の販売もした。

小銃の他にも手榴弾、機関銃、迫撃砲、火炎放射機等も大量に売った。

これで海軍も一気に近代軍になったな。  
ちなみに海楼石弾には2種類あり、プラスチックで覆った連射可能なサボット弾と、何にも覆ってない一発撃てば銃身がダメになる旧式だ。

サボット弾は技術的なコストとして旧式の3倍以上の値段にしたから海軍は旧式の一発しか撃てない海楼石弾の方をメインに買った。

後日、約束通り新品のパシフィスター一体（説明書付）と引き換えに先ずは無料艦を譲渡。

技術士官や指導員も派遣した。  
売買した艦は順次持つてくる事になった。

いきなり大量に戦艦を持つてきても係留する場所が無いと意味ないからな。

現在海軍本部の港を大改装しているようだ。

武器についてはもう送った。

海軍本部の練兵所では日々小銃や機関銃の発砲音が鳴り響いている。

よしこれで一段落だ。

これから海軍と長い付き合いになるだろう。

頑張つて新世界の海賊達を殲滅して貰いたいからドンドン兵器を売ろう。

後面倒なのは革命軍と魚人達か。

どちらも脅威になるからな。

早々に始末しなくては…。

## 32 革命の終焉

海軍の大口受注のおかげで北郷商会は更に裕福になった。

海軍は商会から貰った練習艦で必死に運用方や兵器類の使用方を覚えるために訓練中だ。

流石にこの世界でも今までと全く違う艦の運用には時間がかかるだろう。

そのため、しばらくは今まで通りの船を建造して白ひげ亡き後、パワーバランスが崩壊した新世界の治安維持に奔走している。

ちなみに原作ではマリンフォードは白ひげに崩されて新世界に移転させたが、この世界ではそんなにダメージを受けなかったから修復して現在もマリンフォードにある。

それとインペルダウンの大量脱獄も無かったからセンゴクは元帥のまままだ。

今更コングに変わられても困るしな。

センゴクなら今までの付き合いで対応の仕方は分かるし、ちゃんと（色々）分かっているから変えられたら困る。

センゴクには長く元帥をやってもらうからな。

さて、白ひげ編が終わったんだから今度は魚人を皆殺しにしてやりたいが、まだ出来ない。

何せ一応とは言え世界会議レヴェリーに参加してる国だからな。

下手に潰すと面倒になる。

今は機会を待てば良い。

あのバカ魚共は勝手に自分から破滅の道を辿るのだから…。

という訳で魚人は後回しにして、革命軍の殲滅を先にする。

革命軍の本拠地はグランドラインの白土の島、バルディゴにあるのは知ってるから手っ取り早く殲滅させよう。

何か世界中に幹部はいるらしいが、本拠地が無くなれば動揺したり武器の入手に手間取るだろうからその隙に駆逐すれば良い。

ていうかリーダーのドラゴンや幹部のほとんどが死ねば革命軍は尻すぼみになって自然解消する筈。

何せ世界を敵に回すのは疲れるし、成功確率が低すぎるから長続きしない。

革命は起きれば面倒だが起きる前なら鎮圧は簡単だ。

しばらく衛星でバルディゴを監視していたら、何か集会でもあるのか主要幹部やリーダーのドラゴンまでもバルディゴに集まる日があった。

これをチャンスと見た俺は直ぐに攻撃準備を開始。

マリنفォード付近に潜行していたオハイオ級原潜に攻撃準備命令を出した。

ちなみにマリنفォード付近の海域にいた理由は、これから行われる凄惨な出来事を海軍の仕業に見せかけるからだ。

商会の仕業とバレルの可能性は低いが、もしミサイル発射を見られてそれが噂にでもなったらヤバイから、マリنفォード付近の海域から発射する。

ここなら見られて噂になっても場所が場所だから誰もが海軍の仕業と考える筈だ。

商會がバレたらヤバイが、海軍ならこんな事をしても何とか押さえられるだろう。  
革命軍の本拠地への攻撃なら海軍がやっても何ら不思議は無い。  
海軍には身代わりになって頂く。

良いよね？

あんなに戦艦とか上げたし、値引きしたんだ。  
許してくれるさ。

原潜からの発射準備完了の報告が来たので発射命令を出した。  
命令を受け取った原潜は衛星とリンクしてバルディゴにロックオンして、戦略核ミサイルを発射した。

発射後は速やかに海域を脱して基地に帰還する。

もしも海軍が探りをいれてきたらヤバイからな。

爆雷はまだ売ってないけど何らかの方法で原潜が攻撃されたら不味いし。

原潜から発射されたミサイルはGPSに沿ってバルディゴに向かう。  
う。

巡航速度で飛んでるから普通のミサイル程速くは無いが、確実にバルディゴに向かっている。

敵レーダー等を気にする必要は無いから高高度を飛ぶ。

そしてしばらく飛行した後、遂にバルディゴが見えて来たので一気に降下。

最終目標地点の革命軍本拠地に向かう。

バルディゴの住民は突っ込んでくる核ミサイルに「あれは何だ？」と指差すだけ。

革命軍の中には「何かは分からないがアレはヤバイ」と感じた奴が会議をしている建物に入り、幹部達に逃げるように伝えに行くが既に遅い。

核ミサイルは本拠地の建物上空で炸裂。

その瞬間、この世のものとは思えない爆発がし、バルディゴにあった建物や森、港、船、人間などは蒸発した。

それほど大きくない島に北郷は念のためと戦略核を使用したのだ。島は大きくえぐれ、辺りは一気に焼け野原と化した。

そして頭上には大きなキノコ雲が立ち上る。

しかし、そんな大事件が起きたのにそれを目撃した生きた人間はいなかった。

何故なら島にいた人間は全員蒸発したし、近くにいた船は核の衝撃波で転覆して乗員は熱線にやられた。

更にこの島は革命軍の本拠地に選ばれる程周りに島が無く、見つかりにくい場所にあるので大爆発は勿論、キノコ雲さえ見つかることは無かった。

キノコ雲は誰にも見つかる事なく上空に上がり、雲を形成してバルディゴ周辺に高濃度の放射能を持つ黒い雨を降らせた。

これで奇跡的に生き残りがいても重大な放射線被曝を受けるので長くは生きられない。

正に北郷にとって核は完璧な爆弾だった。

### 33 新世界進出

白ひげ死亡から半年。

白ひげが死んだ事で原作通り新世界のパワーバランスは一気に崩壊した。

今まで白ひげが縄張り宣言をしたことで平和が保たれてきた島々には今まで白ひげを警戒して手を出さなかった古参の海賊達が一斉に襲いかかった。

古参の海賊達にしてみれば今まで白ひげに与えられてきた鬱憤を晴らすつもりだったが、襲われる側は堪ったものじゃない。

何せ今まで白ひげのおかげで危険な新世界でも平和を謳歌出来ていたのに、海軍によって白ひげが抹殺された事により一気に地獄に落とされたのだ。

民衆は海軍を憎んだ。

正に狙い通りだ。

当初は新世界には進出しないつもりだったが、未知なる技術がある可能性があったし、世界中に進出しないと北郷商会のブランド力が弱まる。

それに今までは公に戦艦等の近代艦艇を使う事は出来なかったが、海軍にバラしたし、海軍も保有するようになったから解禁だ。

先ずは先遣隊を派遣し、足掛かりを作りて新世界に進出した。

何せ新世界には足を踏み入れた事が無いからブランド力は皆無。

世界政府加盟国なら伝はあるが、その島にたどり着く事が先ず困難

なのだ。

何せ新世界は非常識の塊のグランドラインが楽園と称される程の海域だ。

新世界出身の奴や新世界に行ったことのある奴、海軍の新世界についての資料など出来る限りの新世界の情報を集めてから新世界に向かった。

新世界に向かった艦隊は金剛級や伊勢級等の超弩級戦艦で構成される。

これなら嵐にも耐えられるし、攻撃力や防御力も十分。

本当ならミサイル駆逐艦やミサイル巡洋艦を派遣したかったが、何が起きるか分からないから別に失っても差ほど問題では無い艦にした。

しばらくしてようやく報告が入ってきた。

とんでもないデカイ海王類や異常気象、信じられない現象等が多々あったらしいがようやく拠点を確保したらしい。

元は白ひげの縄張りだったが、白ひげの亡き後に別の海賊の襲撃を受けて占領され、奴隷のように扱われていた。

そこに自衛隊の艦隊が現れて海賊と海上戦になるが、戦艦の副砲に簡単に沈められ、陸に残った海賊達も殲滅。

やはり新世界に行っても所詮は人間。

機関銃には勝てないし、能力者でも海楼石弾の前では無意味だ。

海賊達を殲滅した後、自衛隊は島を海賊の支配から解放。

島の住民は自衛隊を神の使いのように崇め、感謝したらしい。

まあそうだろうな。



新世界では海軍の力は他の海域程強くないし、広まって無いから助けは来ない。

オマケにこの事態を引き起こしたのは海軍が白ひげを仕留めた事が原因だから海軍に頼るのは微妙。

そんな時に自衛隊が地獄から解放してくれたんだ。

住民達の感謝は計り知れない。

住民の熱烈な歓迎を受けた後、ここを拠点にするために自衛隊は商会の出店許可を要求。

住民達は救世主の要求に勿論快諾。

むしろ自衛隊の駐留を求められた程だ。

衛星経由でその事を知った俺はその島、フードヴァルデンを新世界の拠点とすることを決定。

物凄い恐いし、行きたくないのだが俺も新世界に行くことにした。

俺が行かないと資材等の調達が面倒だからな。

勿論俺が行くという事なので主力艦隊を動員。

ミサイル駆逐艦やミサイル巡洋艦、原子力空母、原子力潜水艦等で艦隊を構成。

ちなみにミサイル戦艦と化した大和級戦艦も連れていった。

フードヴァルデンの位置は衛星からの情報で分かるので迷う事は無いし、先遣隊の情報があるから異常事態についても概ね落ち着いて対処出来た。

普通ならログポースやエターナルポースが必要でも俺には衛星からの情報があるから必要無い。

今更だがこの世界の常識ぶち壊しだな。

フードヴァルデンに着いた俺は早速この島のインディアンの長み  
たいな村長に挨拶をして親交を深める。

やはり自衛隊の件があるから俺達にも住民は非常に好意的だ。

これを利用して一気に島の改造を行なった。

先ずは基地の建設だ。

新世界の拠点にするので今までよりも防衛力を強化する。

岩山を切り崩して整地し、基礎や壁をしっかりと鉄板や鉛、分厚い鉄  
筋コンクリート等でサンドする。

これなら爆撃やミサイル攻撃を食らっても耐えられる。

更にその上を海楼石で覆えば能力者対策にもなる。

地下には核シエルトを建設して万が一の事態にも備える。

基地の周囲や海岸線には砲台を多数配備して外敵の侵入を防ぐ。

そして基地内に滑走路を作り、基地周囲に防空ミサイルを多数配備  
する。

これで航空攻撃力、防御力はほぼ完璧。

フードヴァルデンの住民は先祖代々の生活を好んでいるらしいので  
町には道路は通さず、代わりに島中に張り巡らす。

道路が無いと移動が大変だからな。

道路は分厚いコンクリートにして戦車が走行しても問題無いように  
した。

大規模な軍港も建設して艦隊を常駐させる。

新世界なら隠す必要はほとんど無いから最新の機械や設備を建てま  
くった。

念のため水中マイク等を取りつけて敵潜水艦を警戒する。

トラファルガー・ローという前例があるから他にも潜水艦があつて

不思議は無い。

ちなみにトラファルガー・ローの潜水艦は既に沈めた。

静粛性を全く考慮してなかったのか簡単に見つかり、原潜の魚雷攻撃で沈められた。

基地建設が終了したら商会のビルを建設して新世界の支部を完成させる。

そして店舗を出店した。

しかしこの島は貨幣制度が乏しく、ほとんどの物流は物々交換で賄っていたのだった。

だからまずは貨幣の意味から教えなくてはいけない。

物々交換なんて面倒なだけだからな。

興味がある者をまずは商会で雇い、金を広める。

面倒だが無いと困るから仕方ない。

これで新世界の拠点は完成した。

これから新世界でも勢力を拡大して商会を広め、海賊を絶滅させる。まあ、流石に絶滅なんて不可能だろうがな。

とりあえず脅威になる奴等を皆殺しに出来れば良い。

次の目標は魚人の島、魚人島だ。

魚人島は白ひげの縄張りだったが、白ひげ亡き後はこのフードヴァルデンのように侵攻の危機にさらされたが、三皇の1人、ビッグ・マムに大量のお菓子と引き換えに守られている。

お菓子と引き換えて……………。

どんだけ甘党だよ？

たかだかお菓子の代わりに面倒な魚人島を縄張りに入れるなんて何考えてんだ？

これがワンピーススクオリティか……。

原作では四皇だったが、シャンクスはいないから新世界は三皇が治めている。

しかし治めていると言っても支配力があるだけで実際は統治してないから意味が無い。

間もなくイージス艦が完成する。

巡洋艦ならタイコンテロガ級、駆逐艦ならアーレイバーク級だ。必要無いように思えるが、海軍に技術を伝えたんだから必ず必要になる。

確かもうミサイルは存在してた筈だからな。

戦車は90式戦車が完成した。

やっぱり技術レベルの発展が半端無いから一気に第三世代に突入した。

出来るなら100式戦車が良かったのだが、流石に100式戦車はまだ無理だと言われた。

新世界進出によって怪物との陸上戦が増えたから重宝されている。

戦闘機もF-15やF/A-18E/Fなどの第4世代戦闘機が

完成した。

こちらもステルス戦闘機に行きたかったがまだ技術レベルが足りないというので今はステルス塗料等で誤魔化してる。

海軍の技術レベルならレーダーくらい簡単に開発するだろうからな一刻も早くステルス機が必要だ。

他にも偵察機としてE-2C、哨戒機としてP-3C、輸送機としてC-5やC-17、C-130、空中給油機等々が完成した。

へりについても対潜哨戒機も開発。

やっぱりどの世界でも潜水艦は恐ろしい。

魚雷の技術は教えたから潜水艦との組み合わせも直ぐに気づくだろう。

228

今までは自衛隊が近代艦艇や兵器を独占してたから必要無かったが、海軍に骨董品とは言え教えたからヤバイ。

何せこの世界の技術レベルはチート。

俺達に作れたならアッチが作れない道理は無い。

むしろ直ぐに追い付かれるかも…。

そうはならないよう、常に優位に立つために開発は続ける。

というか勝手に進んでるから任せてれば良いだけだな。

ちなみに商会が新世界に進出する際、五老星から「協定通りラフ

テルには行かないよな？」と念を押された。

「勿論協定通りラフテルには上陸すらしないし、当社の目的は市場の開拓であり、別にラフテルやワンピースには一切興味は無い」と改めて言う。

更に「世界政府や貴殿方を敵に回してまで手に入れる価値を見いだせない」等々、説明して一応分かってもらえた。

全く信用はしてないだろうが、今までも商会は世界政府や海軍に多大なる貢献してきたし、ポーネグリフ等の空白の歴史を一切探ろうとはしてないのでとりあえずは新世界進出を認めてくれた。

実際ラフテルになんか行く気無いしな。

ワンピースだか何だか知らないが、世界を敵に回したら意味が無い。どうせ展開的にこの世界の真実とかそんな感じだろう？

真実なんて知った所で何の意味がある。

大切なのは今だ。

時代が真実を決める。

むしろ今更真実とか出されても迷惑だ。

念のためにラフテルを核攻撃しようかな？

そうすれば永遠に真実は謎のまま。

代わりにこのマンガのタイトルのワンピースは無くなるだろうかな。

空島への進出を開始した。

しかし流石にエネルギーがある空島は色々面倒だから止めるとして、天候を自由自在に操るウェザリアに進出することにした。

衛星でウェザリアを監視し、定期的に物資補給のために青海に降りてくるのを見計らってウェザリアへの商会進出と研究員の留学を願った。

ウエザリアの住民達は商会進出はともかく、留学受け入れにはかなり難色を示した。

何せ自分達の長年の研究成果を学びたいなんて言うんだ。拒否するのは当然だ。

長い交渉が続き、ようやく交渉が纏まった。

先ず商会進出については許可された。

今までのようにいちいち青海に降りて買い物する必要は無くなるし、空輸をすれば新鮮な野菜や肉、流行の衣類や日用品が手に入るのだからこれについてはアツサリ決まった。

問題は留学の受け入れについてだったが、これも何とか許可された。条件として留学受け入れ費や滞在費として毎年それなりの金を支払う。

こうすることで今までのように天候を操って資金を得る必要は無くなるから研究に専念出来るようになる。

よし、これでウエザリアの天候を操る科学力を学べる。

それにウエザリアとのパイプを築いたから天候を変えるよう依頼も出来る。

店舗の在庫管理のために度々空輸しなければならぬからそれなりに金がかかるが、未知の技術が学べるんだから良しとする。

ウエザリアの技術を盗めれば自分達で天候を操れるようになる。

そうなればほとんど最強だ。

### 34 自殺願望？

白ひげ死亡から2年。

この世界に来て22年だ。

原作の年になつたな。

と言つても原作メンバーのほとんどは死んだか平和に暮らしていて海賊には誰もなつてない。

生き残つてるナミは今も商会の船で働いているし、ウソップは自衛隊が怖いから海賊の夢を諦めたらしい。

まあそれが賢明だな。

今はカヤと付き合っているらしい。

ある意味その人生の方が正解じゃね？

チョッパーは今もドラム王国（現ドルトン王国）でくれはの弟子をしている。

最近では北郷商会の病院が島中に出来たせいで暇のようだ。

だから現在は専ら研究に勤しんでいる。

今じゃ医者というより研究者だな。

それでもたまに北郷商会の医者じゃ救えない患者が来るらしいからまだマシか。

一応住み分けは出来ているからこれからもくれはとは対立せずに済むだろう。

そっぴやブルックはどうしてんだらう？

主人公組が行かなかつたから今もさ迷っているのかな？

にしても主人公組で生き残っているのを確認できるのは僅か3人か

…。



面倒そうな奴等を片っ端から殺したから残ったのは非戦闘員だけだな。

ちなみにブルックは生きてんのか分からないから除外。

これで原作は完全に崩壊した。

これからどうなるのか俺にも分からない。

ていうか俺が知ってるのは魚人島の初期ぐらい迄だ。

それ以降は現実世界にいなかったから分かるわけねえ。

まあ、でも情報を常に仕入れれば先を行けるから問題無いか。

さて、今一番の目的は魚人の絶滅だが、問題があった。

魚人がいる魚人島は水深1万mもの深海。

潜水艦じゃ1000mも潜れないし、調査用潜水艇だって6000mが限界だ。

つまり攻撃手段どころかたどり着くことさえ不可能だ。

戦艦をコーティングすれば行けなくはないだろうが、途中に海王類や海獣に沈められる危険性が高すぎるし、アーロンをインペルダウに送った北郷商会直轄の自衛隊を歓迎するとも思えない。

悔しいが水中では魚人には勝てない。

水中で核を起爆させればもしかしたら勝てるかも知れないが1万mもの深海にまで届かせる核ミサイルは無い。

核ミサイルをコーティングすればいけるかも知れないが、それをやると魚人だけではなく、人魚族等も死ぬだろう。

別に人魚族を殺すのは構わないが、リュウグウ王国も滅びかねない。

リュウグウ王国は曲がりにも世界政府加盟国だから迂闊に滅ぼすと面倒になる。

だから何かリュウグウ王国を滅ぼしても構わない大義名分が必要なのだ。

何か無いかと思っていたら、何と自分で大義名分を作ってくれた。スパイとして育てた魚人を魚人島に潜入させてしばらく経つと、とんでもない情報を仕入れてくれた。

アーロンが率いた魚人海賊団亡き後、ホーデイ・ジョーンズとか言う魚人が新魚人海賊団を創設した。

何か凶薬、E・Sとか言うドーピング薬を手に入れて勢力を急速に拡大しているらしい。

それだけなら別に何ら意味は無い。

ただの強さのために明日を捨てたステロイドユーザーだ。この世界では珍しいがそんなに重要ではない。

コイツら新魚人海賊団の目標はリュウグウ王国の破壊。

つまりクーデターだ。

しかしこれでも弱い。

確かにクーデター阻止のために新魚人海賊団を殲滅するのは可能だが、リュウグウ王国の国王ネプチューンは介入を拒むだろうし、全ての魚人を皆殺しには出来ない。

あくまで殺せるのは新魚人海賊団のメンバーだけ。どうせまた新たな魚人海賊団が出来るだけだろう。

しかし、新魚人海賊団はリュウグウ王国の政権強奪が最終目標ではない。

新魚人海賊団の目標は人間の奴隷化。

いかにもバカが考えそうな幼稚な目標だ。  
海軍が黙ってないだろうし、新世界の海賊全員を敵に回す事にもなる。

明らかに勝ち目は無い。

しかし世間知らずの魚人様は本気でヤルらしい。

本当、無知って恐ろしい。

だがこれこそ最大限利用出来る。

何故なら新魚人海賊団はリュウグウ王国崩壊後はレヴェリーへ参加して会議の場で各国の王達を皆殺しにする計画だからだ。

これなら大義名分になる。

何せレヴェリー加盟国に対する明確な宣誓布告。

むしろ真珠湾奇襲に匹敵する起爆剤。

これなら少なくとも魚人の絶滅は受け入れられる。

むしろ世界政府が率先して命令しそう…。

これを利用すれば世論も完全にこちらの味方になるし、自衛隊が動く必要は無い。

「またもや海軍本部のセンゴク元帥直通電伝虫をかけた。」

「…はい、センゴクです。」

何か声が暗いな。

それもそうか、何せ今まで予告が無い電伝虫は何か面倒が起きた証だからな。

「お久しぶりですセンゴク元帥。」

最後に話したのは戦艦売買取引以来ですが、お元気でしたか？」

「…何も変わりなくやっています。」

それと戦艦売買と技術士官や指導員の派遣ありがとうございます。非常に丁寧に分かりやすく教えて頂けると海兵の間でも好評です」

「それはそれは何よりです。当社はまだ新世界に進出して日が浅く、海賊に悩まされる日々が続いていますので、1日も早く海軍さんには新たな艦隊で頑張ってくださいですね。」

期待しておりますので。」

「…それはありがとうございます。」

ご期待を裏切らないよう努力致します」

とりあえず政治的挨拶はこれぐらいで良いかな？

そろそろ本題に入る。」

「さて、今回話したい事は魚人島の事についてです」

「魚人島ですか…?」

「はい、ご存知でしょうか?」

「勿論です。」

元は白ひげの縄張りでしたが、白ひげ亡き後は三皇のビック・マダムが縄張り宣言。

リュウグウ王国が治める亜人の島です」

「そうです。」

そして正規には新世界に進出出来ない海賊の新世界への中継地点としても知られていますね」

「……」

「まあ、今はそんなことはどうでも良いのです。」

問題はここ1ヶ月、魚人島に人間が訪れていないという事態が起きています」

「…人間がですか?」

「はい、魚人島を目指す船は減ってないのに何故か魚人島にはたどり着けていない。」

まあ、魚人島に行くのは海賊が多いですからそんなに問題では無い

のですが、海賊以外の船もたどり着けていないどころか帰ってこないのです。

ちなみに当社の船も調査のために魚人島に向かいましたが帰って来ませんでした」

「……」

「それで何かあると思ったので綿密な調査をした結果、驚くべき事実直面しました」

「…驚くべき事実ですか？」

「はい、魚人海賊団をお覚えでしょうか？」

「…勿論です。」

魚人、アーロンが率いた海賊団で東の海のコノミ諸島を襲いましたね。

勿論、現在アーロンやその一味はインペルダウンに収監中です」

「それは何よりです。」

問題なのはそのアーロンの意思を継ぎ、新たな海賊団を結成された事です」

「新たな海賊団ですか？」

「はい、ホーティ・ジョーンズという魚人が新魚人海賊団という海賊団を結成しました。」

そして魚人島への船はその海賊団に襲撃されているため、魚人島にたどり着けていないのです」

「……」

「更に、その海賊団はある薬を大量に所持しています」

「…ある薬とは？」

「凶薬、E・Sエネルギー・ステロイド」

魚人は生まれながらにして人間の10倍もの力を持っていますが、その薬を1粒服用すれば更に10倍の力を得られます。

代償として寿命が縮まりますが、ホーティ・ジョーンズは構わず服用しているため通常の魚人より遙かに手強いのです」

「……つまり、その新魚人海賊団を我々海軍が壊滅させればよろし

「いのでしょうか？」

「やっぱりそう取るか。」

「間違っただけは無いかな。」

「いえ、少し違います」

「……………」

「確かに海軍さんが軍艦を派遣すれば新魚人海賊団を殲滅出来るでしょうが、そんなことをすれば三皇のビック・マダムとやり合う事になるかも知れませんが、ただ海賊団を始末するだけなら当社でも出来ます」

「……………確かにそうですね」

「そうですね。」

「だということに何故私がセンゴク元帥に電伝虫をかけた理由というのは、事態が更に深刻だからです」

「……………更に深刻とは何でしょうか？」

「新魚人海賊団は先日クーデターを起こし、リュウグウ王国の国王ネプチューンと王子や王女、大臣等リュウグウ王国に忠誠を誓う者達を皆殺しにしました」

「なっ！？」

「どうやら人間との友好関係を築くリュウグウ王国に不満を抱いていたらしく、リュウグウ王国転覆のために新魚人海賊団を結成したようです」

「そんなことになっていたとは……………」

「…クーデターは事前に阻止出来なかったのでしょうか？」  
「疑ってるな。」

「まあこんだけ情報を持ってればもっと早く通報出来た筈だからな。」

「申し訳ありませんでした。」

「クーデターの情報は掴んではいましたが、まだ実行は先だろうと判断を誤りました」

「嘘だな。」

スパイから細かいスケジュールを聞いてたし、逆に新魚人海賊団が勝つように手助けもした。

別に魚人島に行けなくてもスパイを介して情報を流す事ぐらい可能だ。

相手は世間知らずの魚頭。

訓練されたスパイの前ではガキも同然だ。

「……そうでしたか…」

疑ってても何も追求など出来ないからな。  
諜報戦で勝てる訳無い。

「一番大事なのはこれからです」

「？ 新魚人海賊団の目的は理想国家建国では無いのですか？」

「確かにその一面もあります。」

しかしそれだけでは凶薬を飲んでまでする必要はありません。

理想国家を建国したのなら長くその座に留まりたいと考えるのが普通ですから」

「……確かにそうですね。」

でもそれ以上の目的などありますか？」

「奴等、新魚人海賊団の最終目標は人間を魚人の奴隷にすること…」

「…」

「ッ！！！！」

「魚人は長年に渡り人間に迫害され、奴隷にされてきましたからその復讐を果たしたいのでしよう。」

その先陣を買って出たアーロンや魚人海賊団は既に捕まった。

ですからアーロンの轍を踏まないように外に出るのではなく、内からにしたんでしよう」

全部想像だな。

あのバカ魚共がそこまで考えていたのかは分からない。

バカは理解出来ないからな。

「そしてリュウグウ王国を支配した新魚人海賊団の次なる目標は世界政府です」

『……世界政府…ですと？』

「はい、リュウグウ王国は世界政府加盟国ですからレヴェリー（世界会議）にも出席出来ます。

そしてリュウグウ王国を支配した新魚人海賊団はレヴェリーに集まる各国の王を会議の場で皆殺しにするつもりです」

『！！？ 何だと！？』

思わず敬語を忘れるセンゴク。

そこまで驚くべき事実か？

それぐらいは普通考えるだろう？

「このような事態に陥ったので海軍さんにご連絡しました」

『では今すぐにでも魚人島に行き新魚人海賊団を逮捕しなくては！

！」

あ〜〜そう考える？

まあそれが普通なんだけどさ、それじゃあ弱いんだよねえ。

大義名分に

「…いえ、それは難しいでしょうね」

「何故ですか！？

世界政府存亡の一大事ですよ！？」

「いや、まだ計画の段階でしかありませんし、新魚人海賊団は仮にも一国の王になりましたからね。

下手に突つつかと内政干渉だと言われて終わりますし…」

多分言わないだろうがな。

文句言われたら真っ直ぐ突っ込んでくるか待ち構えるだろうな。

政治的駆け引きなんて分からないだろうし。

『しかし！！』

だからと言って海賊が国を持つなど野放しに出来ません！！！！』

熱いよねえ。

政治的に必要なら世界政府も海賊による国の統治を認める事もある



だろうし、仮にも軍のトップならこういう時に冷静になれないと悪い人に利用されるぞ？

もう遅いがな。

「勿論海賊の統治下にある国を承認するなど出来ません。

しかし、ただ正面からでは何も出来ません」

「……何か考えがあまりのようですね？」

「はい、この方法なら内政干渉だと言われませんし、各国代表者の方々も怪我一つなく解決出来ます」

俺は計画の概要を話した。

「……確かにその方法なら間違いなく新魚人海賊団を全員逮捕出来ますし、代表者の方々も無傷でしょうね……」

「はい、どうかご協力頂けませんか？」

「……しかし、もし仮に新魚人海賊団がレヴェリーに参加しなかったら……」。

とんでもない問題になりますか？」

「それについては私が全面的に責任を取ります」

「……分かりました。」

そこまで言うのなら海軍はご協力させて頂きます」

「ありがとうございます。」

では作戦の詳細ですが……」

よし、これで魚人共は終わりだ。

この方法なら魚人は間違いなく最低でもインペルダウン送り。他の魚人も迫害や絶滅政策を取りやすくなる。

更にこの方法なら自衛隊を動員する必要が無いから一切こちらは傷つかない。

全部海軍に押し付けられる。

魚人共がレヴェエリーを襲わない訳は無い。

何せリーダーのホーディはヤル気満々だし、他の魚人達もスパイが煽ってるから止まらない。

逆に消極的意見を出せば裏切り者扱いだからな。

集団になれば簡単に煽動出来るようになるのは人間も魚人も関係無い。

ちなみに邪魔になる可能性があったからバンダー・デッケン九世は先に殺した。

いくら魚人が人間より何倍も強くても毒には勝てない。

細菌兵器を感染させて病死に見せかけた。

船長がいなければフライング海賊団は自然崩壊するしかない。

アイツは何かリュウグウ王国の王女に熱を上げてるらしいからな。

10年も告白の返事がもらえないならフラれたと諦めるよな…。

大体テメエの体は人間より少し大きい程度しか無い癖に、あの巨体の女をどうやって抱くんだ？

お前の息子じゃどうやっても満足させる事は不可能だぜ？

### 35 魚人の終焉

リュウグウ王国を崩壊させ、新魚人海賊団は魚人王国を建国。

そして魚人王国の国王となったホーディ・ジョーンズはレヴェリーに参加。

まだ公式には魚人王国を公開してないからリュウグウ王国の代表者として出席。

無論、部下達を会場内に忍び込ませ、襲撃の機会を伺っていた。

続々と他の国の代表者も席についてきて、会議が始まるうとしていた。

しかしここでホーディは疑問を持つ、各国代表者とは即ち王の事だ。それにしても若いメンツが多い。

ほとんどが30〜50代程度だ。

確かに自分もまだ若い内に入るが、それは新たに国を建国したからだ。

しかし他の国のほとんどは昔からある国で、世襲制を行ってきた筈だ。

確かに若い王子が王位に就けば分かるのだが、大抵の王は中々王位を譲ろうとはしない。

大抵は王が死ぬか、執務が不可能になった時に引き継ぐのだ。

だからこんなに若いメンツはあり得ないのだが、ずっと魚人島から出なかつた世間知らずなホーディはそんなものなのか？ とあまり気に止めなかつた。

むしろそんな疑問は直ぐに忘れ、これから行う事で頭が一杯だった。

「それではレヴェリーを開会します」

遂に全員が着席し、議会進行役が開会宣言を行なった。

その瞬間、ホーデイが手を上げた。

「……何でしょうか？ リユウグウ王国代表」

進行役がホーデイに聞く。

「ジャハハハ！」

いやな、間違いを正そうと思ひまして」

「…何をでしょうか？」

その言葉にホーデイはニヤリと笑い、部下達に突撃の合図を送る。

「先ず一つ、俺はリユウグウ王国の代表者じゃなくて魚人王国の代表者だということ。」

そしてツ！！ この世界の仕組みについてだ！！！！」

ホーデイの言葉が終わった瞬間、魚人達が急に現れ、各国代表者に襲いかかる。

ホーデイは勿論、他の魚人達も失敗するとは思わなかった。

何故ならここに居るのは少数の警備員と各国の代表者達。

警備員はともかく、王達はロクに戦える筈は無いから、人間より遙かに強い自分達が負ける訳は無い。と確信さえしていた。

しかし、その期待は見事裏切られた。

各国の王達に襲いかかった魚人達は全員、自分が襲おうとした王達によって叩き伏せられた。

「なっ！！！！？」

ホーデイや後ろで待機していた魚人達は驚愕する。

それはそうだろう。

何せ戦う必要が無い王に、生まれながらにして人間の10倍の力を持つ魚人が負けたなどあり得ない光景なのだ。

ホーデイ達が唾然としていると

「そこまでだっ!!! 海賊共っ!!!」

進行役に化けていたセンゴク元帥が言う

「貴様等の目的など既に見破っていたわ!!!」

魚人王国国王、ホーデイ!!!

いや、新魚人海賊団船長、ホーデイ・ジョーンズ!!!」

「ッ!!!!!?」

いきなり全部バレてる事に魚人達は仰天した。

更に、今まで各国の民族衣装を身に纏っていた各国の王達が突然立ち上がり、来ていた衣装を掴み上げると、そこには海軍の軍服を来た海兵達がいた。

しかも全員が将校の証のマントを身に着けている。

「くっ!!! 騙されていたかっ!!!」

ホーデイが怒りや憎悪のこもった目でセンゴクを睨み付ける。

「そつだ。」

貴様等の計画を事前に知ったため、各国の代表者の方々は避難して頂き、代わりに我等海軍が席に着いていた」

魚人達は自分達の計画が何故漏れていたかを考えていた。

それにしても魚人達は世間知らずだった。

海軍本部の大将3人が民族衣装を纏っていると言っても顔は完全に出ていたし、他の代表者達も労働する必要が無い王だというのに筋骨隆々な者達がほとんどだったし、女性でもどこか強者の風格があった。

だと言うのに魚人達は疑わなかった。

何しろほとんどの魚人は魚人島しか安息の場所は無いので魚人島に引きこもっていたため、海軍の上層部の顔を知らず、軍服を来ていれば海軍、とでしか判別出来なかったのだ。

しかし、だからと言って魚人達の自信は揺るがなかった。  
何故なら自分達には奥の手がある。

全員が凶薬、E・Sを取り出して複数を服用した。

その瞬間、魚人達の筋肉が膨れ上がる。

「ジャハハハ！！」

騙されちまったのはしょうがねえ！

だったら代わりにテメエら海軍本部を壊滅させてやるよつ！！！！」

ホーデイと共に魚人達は海軍に襲いかかった。

自分達は井の中の蛙だとも知らずに…。

北郷サイド

レヴェリーの決戦翌日。

分かりきっていた決戦の結果をセンゴクが電伝虫で報告してくれた。

新魚人海賊団船長、ホーデイ・ジョーンズは大将サカズキの攻撃により死亡。

他の魚人達も流石に世界政府への宣誓布告という事で大半が死刑に処された。

生き残ったのは極少数で、その生存者も重症を負い、中には四肢のいずれかが無くなった者達もいた。

生存者はインペルダウンに収監され、終身刑となった。

そしてこれで終わる訳は無かった。

新魚人海賊団を殲滅させた海軍は世界政府からの命令により、魚人

王国を襲撃。

無関係な魚人まで同罪と見なされ、次々死刑にされた。更には直接は関わっていない人魚族にも海賊幫助の罪を負わされ、大多数が死刑にされるかインペルダウンに送られた。

しかし、見目麗しい人魚達は罪を減じられ、奴隷として世界貴族や世界政府の王達に引き取られたのだった。

魚人族を皆殺しにし、ある程度人魚族を間引いた後に魚人王国は解体させられ、世界政府の統治下となった。

タダでさえ低かった魚人や人魚の扱いは最低にまで落ち込み、魚人達の他の国への入国を禁止され、魚人島から出られないようにした。魚人島には海軍本部の基地が建設され、常に海軍が魚人を監視している。

暫定政権についたのも世界政府から派遣された人材なので完全に魚人島は世界政府の支配下になったのだった。

魚人島では人間が魚人に対して何らかの罪を犯してもほとんどが無罪となり、完全な人間優位となった。

ちなみに北郷商会も魚人島に進出した。

世界政府加盟国を救った恩人なので簡単に許可を貰えた。そりゃそうだ。

分からず屋で世間知らずの王達を何とか説得して回ったからな。時には金で、時には天竜人の権力を利用し、時には商会を引き上げるぞと脅した。

商会のおかげで税収がうなぎ登りの国にとって商会がいなくなればたら損害どころじゃない。

中には海軍基地が無く、代わりに自衛隊に守って貰っている国にもあるからな。

北郷商会に頭が上がる訳は無い。

これで脅威はほとんど無くなった。

唯一怖かった魚人は絶滅対象になったからその内絶滅するだろう。

他の亜人はそんなに怖くない。

唯一脅威になり得る巨人族は人間に対して友好的だし、既に海軍にも何人かいるから恐る必要は無い。

砲弾やミサイルで殺せるしな。

後残ってるのは新世界の海賊と三皇だ。

三皇を殺れば間違いなく海賊時代は終わる。

海賊時代が終わったら次はどうするんだろう？

何せ共通の敵である海賊がいなくなれば間違いなく世界政府は分裂する。

海軍がいるからいきなりの分裂は無いだろうが、必ず国軍を強化して海軍と戦う日が訪れるだろう。

そうならどつちの味方をしようかな？

世界政府や天竜人は完全に押さえたけど扱いが面倒だしな。

だからと言って自分が新たな勢力になれば勝てると思うが面倒。

多分北郷商会が世界政府に反旗を翻せば結構な数の国が北郷商会に付くだろうし。

そうなれば俺がこの世界を支配出来るだろうが、この世界はロクに大陸が無いから管理が面倒。

一々島を統治するのはなあ…。



それに俺は既に40代。

今更一旗上げるには遅い気もするしなあ……。

### 35 魚人の終焉（後書き）

間もなくこの話も終了します。

次回作は活動報告にも書きましたがゼロの使い魔に決定しました。現在執筆中ですが、ワンピースと違って年表等の資料が少ないから苦労しています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5317w/>

---

ワンピース～大海賊時代の終焉～

2011年10月13日20時25分発行